

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい アジア経済は1960年代以降大きな変化を遂げてきた。その成長は今後とも進むと思われ、シンガポールのGDPは日本を上回り発展し続けている。アジア各国の経済発展を分析し、その要因について考える。	メッセージ 講義受講期間中は、常にテキストに目を通して臨むようにしてください。 また、講義はパワーポイントを使いますので、良く聞くことに重点を置いて受講してください。
	到達目標 本講義を通して アジア諸国の発展過程及び現在各国が抱えている問題点について分析すると共に、問題点を明らかにし、問題解決策を考える。 また、日本企業の対外投資による関連性についても学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 韓国経済発展の軌跡	テキストの予習・復習
	2	第2週 I M F危機とは何だったのか。	同上
	3	第3週 展望	同上
	4	第4週 台湾戦後の発展過程	同上
	5	第5週 受託製造を支柱とする産業構造	同上
	6	第6週 資金という新しい力	同上
	7	第7週 民主化と経済・中国との関係	同上
	8	第8週 中間試験	同上
	9	第9週 香港経済の高度成長	テキストの予習・復習
	10	第10週 構造転換	同上
	11	第11週 サービス経済・経済政策	同上
	12	第12週 シンガポール独立以来の経済発展	同上
	13	第13週 産業構造	同上
	14	第14週 開発体制	同上
15	第15週 都市国家の課題	同上	
16	第16週 期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 渡辺利夫『アジア経済読本』第4版 東洋経済 参考文献 アジア動向年俵、(図書館) 日本経済新聞(図書館) アジア経済研究所出版文献を参考にする(図書館)		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. テキストの予習・復習を十分に行うこと。 3. 授業中質問があれば、いつでも手を挙げて質問してください。 4. 質問が多い人は評価が高くなります。		
	評価 1. 中間テスト(40%) 2. 期末テスト(60%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 国際経済論 2. 日本経済論
-------	----------------------------------

※ポリシーとの関連性

企業に於いては、国際化が避けて通れない時代になっている。アジアの経済論を学び、グローバル人材を育成する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア経済論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>アジア経済は、1960年代以降大きな変化を遂げてきた。その成長は今後とも進むと思われる、シンガポールのGDPは日本を上回り、発展し続けている。アジア各国の経済発展について分析し、その要因について考える。</p>	<p>講義受講期間中は、常にテキストに目を通して臨むようにしてください。また、講義はパワーポイントを使いますので、良く聞くことに重点を置いて受講してください。</p>
到達目標	<p>本講義を通して アジア諸国の発展過程及び現在各国が抱えている問題点について分析すると共に、問題点を明らかにし、問題解決策を考える。 また、日本企業の対外投資による関連性についても学んでいく。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 タイ経済発展の軌跡	テキストの予習・復習
	2	第2週 グローバル化への対応	同上
	3	第3週 中進国としての課題	同上
	4	第4週 景気回復への政策課題	同上
	5	第5週 マレーシア経済発展の軌跡	同上
	6	第6週 新工業国への構造変化・2020年ビジョンと産業構造高度化	同上
	7	第7週 「パンサ・マレーシア」・多民族国家の試練	同上
	8	第8週 中間試験	
	9	第9週 フィリピン経済の独立以降の経済発展の歩み	テキストの予習・復習
	10	第10週 マルコス政権と対外債務危機・ラモス政権とアジア通貨危機	同上
	11	第11週 アロヨ政権下の経済開発・世界同時不況下の経済	同上
	12	第12週 中国人民共和国の60年	同上
	13	第13週 市場移行は終わったのか	同上
14	第14週 中国経済の3つの課題	同上	
15	第15週 求められる発展方式の転換	同上	
16	第16週 期末試験		
テキスト・参考文献・資料など			
<p>テキスト 渡辺利夫『アジア経済読本』第4版 東洋経済 参考文献 アジア動向年報（図書館） アジア経済研究所発行の文献を参考にする。（図書館）</p>			
学びの手立て			
<p>1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. テキストの予習・復習十分にしてください。 3. 授業中質問があれば、いつでも手を挙げて質問してください。 4. 質問の多い人は、評価が高くなります。</p>			
評価			
<p>1. 中間テスト（40%） 2. 期末テスト（60%） 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。</p>			

学びの継続	次のステージ・関連科目
	1. 国際経済論 2. 日本経済論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	インターネットと経済学	前期	月5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、論文・レポートの作成に必要な経済統計の情報が、どのようなところにあり、どのように活用できるのかを学ぶことを目的とする。具体的には、重要となる経済統計の情報を各省庁・研究機関のWebサイトを通じて一通り確認し、その情報の経済学的な意味の解釈を中心に講義を行う。	2年次以降からは専門的な知識が増えていく上で、インターネットを利用したデータ収集や分析などが必要となる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットを利用して経済分析に必要なデータを収集することが出来る。 2. インターネットを利用して経済統計に必要なデータを収集することが出来る。 3. インターネットを利用して企業分析や経済学に必要な専門用語について説明することが出来る。 	

学びの実践	学びのヒント	
	授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション (登録と講義計画)
	2	経済分析に用いる統計情報
	3	情報検索の使い方
	4	白書・レポート (政府系機関)
	5	人口 (人口構成・平均余命・将来推計)
	6	労働 (都道府県別失業および就業状態・労働需要)
	7	企業 (都道府県別設備投資・企業収益)
8	物価・景気 (物価指数・景気動向)	
9	家計 (家計収支・世代間および世代内格差・消費 (貯蓄) 動向)	
10	政府 (国家予算・都道府県の財政)	
11	金融 (金利・通貨供給・為替)	
12	企業分析1	
13	企業分析2	
14	企業分析3	
15	分析への応用	
16	期末考査 (レポート含む)	
実践	テキスト・参考文献・資料など 詳細は第一回目の講義の際に指示する。 福田慎一・照山博司, 2011, マクロ経済学・入門 第4版 (有斐閣アルマ) 鈴木正俊, 2006, 経済データの読み方 (岩波新書)	
学びの手立て	インターネットを利用して、経済学の学びに必要な様々なデータや分析・統計などを日頃から収集しておく。	
評価	レポート, 出席, テスト, その他を加味し評価。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 3年次や4年次から専門演習に入るため、インターネットの利用は不可欠である。この授業で習得した知識や技術は卒論などで活かすことが出来る。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	欧米経済論Ⅰ	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、主として歴史を軸にアメリカの経済構造や政治構造を学んでいくことを目的とする。とりわけアメリカ合衆国に焦点を絞って、内政・外交・経済などについて知識を広げていく。また必要に応じて、企業の勃興や生産システムの構築などにもふれ、アメリカの経済について考えていきたい。	1) 欧米経済論Ⅱを履修する前提で欧米経済論Ⅰを履修すること。 2) 軍事基地にも関連させてアメリカ経済を学んでいく。
到達目標		
	1) アメリカと沖縄の関係性が理解できる。 2) 基地問題を理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介と評価の方法	講義ノートの点検
	2	独立戦争	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	産業革命	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	南北戦争	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	自動車産業の勃興	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	第一次世界大戦	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	大恐慌	配布資料の精読、講義ノートの点検
8	中間試験		
9	ニューディール	配布資料の精読、講義ノートの点検	
10	第二次世界大戦	配布資料の精読、講義ノートの点検	
11	冷戦時代	配布資料の精読、講義ノートの点検	
12	ベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争にみる経済活動	配布資料の精読、講義ノートの点検	
13	サブプライム・ローンやリーマン・ショック(The Financial Crisis)が物語るアメリカ経済	配布資料の精読、講義ノートの点検	
14	現代アメリカ経済を考える	配布資料の精読、講義ノートの点検	
15	欧米経済論Ⅰの質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など		
	萩原・中本編『現代アメリカ経済』日本評論社、2005年。 ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』（雨宮・今井訳）、東洋経済新報社、2008年。 各回の講義で適宜紹介する		
	学びの手立て		
	新聞の経済面と国際面を通読することを推奨する。		
	評価		
	小テスト(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 欧米経済論Ⅱ、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ、日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ、経済史入門、社会思想史、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	欧米経済論Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 欧米経済論Ⅰを受けて本講義では、EUを対象とした経済分析を進め、ヨーロッパの政治・経済統合に伴う各国の動きを歴史的に解明していくことを目的としている。また身近に存在する企業との関連性もふまえて講義する。	メッセージ 1) 欧米経済論Ⅰを履修した者のみ欧米経済論Ⅱの履修を認める。 2) 沖縄とヨーロッパを結びつけながら様々な課題とその対策を考えていく。
	到達目標 1) ヨーロッパと沖縄の社会・経済の諸課題への対策が比較できる。 2) ヨーロッパと沖縄とのつながりが幾多もあることに気づくことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介と評価の方法	講義ノートの点検
	2	EUの概要(制度、歴史)	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	英国①	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	英国②	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	英国③	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	フランス①	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	フランス②	配布資料の精読、講義ノートの点検
	8	中間試験	
9	ドイツ①	配布資料の精読、講義ノートの点検	
10	ドイツ②	配布資料の精読、講義ノートの点検	
11	EUの拡大と統合①	配布資料の精読、講義ノートの点検	
12	EUの拡大と統合②	配布資料の精読、講義ノートの点検	
13	共通通貨ユーロの意義①	配布資料の精読、講義ノートの点検	
14	共通通貨ユーロの意義②	配布資料の精読、講義ノートの点検	
15	共同体とその意味	配布資料の精読、講義ノートの点検	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 田中他『現代ヨーロッパ経済』有斐閣アルマ、2001年。 羽場『拡大ヨーロッパの挑戦』中公新書、2004年。 若森『新自由主義・国家・フレキシビリティの最前線』昂洋書房、2013年。		
	学びの手立て 新聞の経済面と国際面を通読することを推奨する。		
	評価 小テスト(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 欧米経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅰ、アジア経済論Ⅱ、日本経済論Ⅰ、日本経済論Ⅱ、経済史入門、社会思想史、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱ、日本経済史Ⅰ、日本経済史Ⅱ
-------	---

※ポリシーとの関連性

経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	応用マクロ経済学	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 財政政策や金融政策、経済成長論などのマクロ経済政策に関する諸理論の検討を行うとともに、マクロ経済政策が実態経済に与える影響を検証する。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 マクロ経済学の理論を用いて国内外の経済現象を説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義概要、評価方法、アンケート等 -	
	2	データでみる日本経済 - マクロ経済指標を中心に -	国民経済計算に関する事前学習
	3	マクロ経済学の考え方① - 応用マクロ経済学とは、GDPと幸福度 -	マクロ経済学の復習
	4	マクロ経済学の考え方② - GDPの決定、有効需要の原理、経済成長 -	マクロ経済学の復習
	5	経済成長論① - 経済成長の要因 -	マクロ経済学の復習
	6	経済成長論② - 経済発展とマクロ経済：ルイスモデル、ビッグプッシュ理論等 -	開発経済学関連文献の精読
	7	経済成長論③ - 経済発展とマクロ経済：均斉成長と不均斉成長、トダロモデル等 -	開発経済学関連文献の精読
	8	労働市場 - 労働市場とマクロ経済、失業と幸福度 -	労働経済学関連文献の精読
9	物価と経済成長 - インフレーション、デフレーション -	マクロ経済学関連文献の精読	
10	マクロ経済政策① - 政府の役割、財政の機能、財政赤字とマクロ経済 -	経済政策関連文献の精読	
11	マクロ経済政策② - 財政政策、ケインズ経済学再考、財政政策と日本経済 -	経済政策関連文献の精読	
12	マクロ経済政策③ - 金融政策、金融政策と日本経済 -	経済政策関連文献の精読	
13	マクロ経済政策④ - マクロ経済政策と国際経済 -	経済政策関連文献の精読	
14	日本経済の諸課題 - マクロ経済の観点から -	日本経済に関するトピックの収集	
15	講義のまとめ		
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜資料を配布する。		
	学びの手立て マクロ経済学（基礎理論）の復習をしておくこと。		
	評価 期末テスト（70%）、小テスト（20%）、受講態度（10%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済入門	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 沖縄経済について入門的な内容を講義する。沖縄経済の過去、現状、将来の課題等についてを経済学各分野からの視点を通じて直感的に理解できるようになることが本講義のねらいである。	メッセージ 授業学んだ知識・視点は、経済学科の各専門科目で役立ちます。
	到達目標 沖縄経済の現状と課題を把握する。 沖縄経済の改善策について、自分の意見をもつ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス（講義計画、成績評価方法について）（安藤）
	2	沖縄の小売業：サンエーの経済学（宮城）第1回講義
	3	沖縄のソーシャルビジネス（村上）第2回講義
	4	沖縄の文化産業の構造（浦本）第3回講義
	5	沖縄の観光と経済（湧上）第4回講義
	6	沖縄の若年者雇用問題（名嘉座）第5回講義
	7	地域社会経済（平敷）第6回講義
	8	沖縄の財政と社会保障（長嶋）第7回講義
	9	沖縄の金融（安藤）第8回講義
	10	沖縄の都市空間（崎浜）第9回講義
	11	沖縄の基地問題（前泊）第10回講義
	12	国際経済（新垣）第11回講義
	13	経済統計（金城）第12回講義
	14	沖縄の財政と社会保障（比嘉）第13回講義
	15	沖縄と北海道～北海道企業の沖縄展開（生垣）第14回講義
	16	総括：レポート（安藤）
	テキスト・参考文献・資料など 沖縄国際大学経済学科編「沖縄経済入門」東洋企画	
	学びの手立て 沖縄の最新状況を知るために、新聞を読むことをお勧めします。	
	評価 レポートの水準、講義中の発言などを総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学AB、ミクロ経済学AB、経済学科の各専門科目
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄経済論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	統計資料等を活用しながら、沖縄経済の現状を確認し、抱えている課題を読み解く力を得ることを主な目的とします。講義では時々のトピックテーマを取り上げ、実際の沖縄を取り巻く政治経済の状況と政策を追いながら沖縄経済についての理解を深めていきます。	沖縄経済を取り巻く経済社会環境は日々変化しています。沖縄経済を知るには、沖縄内外の政治経済状況の変化が沖縄経済の動向にどう影響を与えているのかという俯瞰的・複眼的な視点が不可欠です。沖縄の内外の動きとの関連で沖縄経済について詳しく学びたい人に履修をお勧めします。
到達目標	①地域経済の基本的な見方から沖縄経済の現状を体系的に捉えることができる。 ②戦後の沖縄経済の成り立ちを学び、今日の沖縄経済の課題を捉えることができる。 ③沖縄経済が抱える諸課題を認識し、課題解決の方策を検討・提案する力を得る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを参照
	2	沖縄経済を見る視点—県経済のトピックと地域経済の見方	沖縄経済時事、参考文献①参照
	3	沖縄経済の姿—統計データから見る沖縄経済の概要	参考文献①、②参照
	4	沖縄経済の姿—産業構造と雇用の現状	参考文献①、②参照
	5	沖縄経済の成り立ち—復帰前の沖縄、復興から基地建設まで	参考文献③参照
	6	沖縄経済の成り立ち—復帰後の沖縄振興開発計画と沖縄振興計画（2002年-）	参考文献③参照
	7	沖縄経済の成り立ち—沖縄振興政策と基地問題（1995年-）	参考文献④、⑤参照
	8	沖縄における産業政策の展開（2002年-）	参考文献④、⑤参照
	9	沖縄における産業政策の展開（講義前半のまとめ）—小テスト	講義前半の振り返り
	10	沖縄の産業—情報通信産業特別地区の成果と展望	情報関連産業の現状を調べる
	11	沖縄の産業—観光産業の現状と課題	観光産業の現状を調べる
	12	沖縄の産業—国際物流拠点関連産業の動向	物流産業の現状を調べる
	13	沖縄の産業—農業・アグリビジネスと健康食品産業	農業・6次産業化の動向を調べる
	14	沖縄経済の自律的・持続可能な発展に向けて—地域活性化の取組	県内の地域活性化事例を調べる
15	沖縄経済の展望—講義全体のまとめ	講義後半の振り返り	
16	期末テスト	講義のまとめ	

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用してください。他、必要に応じ講義中適宜提示します。</p> <p>【参考文献・資料】①沖縄振興開発金融公庫（2017）『沖縄経済ハンドブック 2017年度版』、②沖縄県『県民経済計算』（※最新版）、③松島泰勝（2002）『沖縄島嶼経済史—12世紀から現在まで』藤原書店、④宮本憲一・川瀬光義（2010）『沖縄論—平和・環境・自治の島へ』岩波書店、⑤百瀬恵夫・前泊博盛（2002）『検証「沖縄問題」—復帰後30年経済の現状と展望』東洋経済新報社</p>
----	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○履修の心構え 講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 沖縄経済の動向を理解するためには、県内の経済動向のみではなく、世界、日本全体の経済の動きにも注視しておく必要があります。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ○平常点（15%） 小テスト（25%） 期末テスト（60%） ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。 ○平常点（フィードバックペーパー）により到達目標の②を評価し、小テスト、期末テストにより到達目標の①と③を評価する。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>沖縄経済についてより深く学ぶため、下記の講義も併せて履修することを勧めます。</p> <p>【関連科目と次のステージ】 マクロ経済学Ⅰ、Ⅱ、沖縄経済入門、地域経済論、産業政策論</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済事情 I	後期	金 3・4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲宗根敏夫、喜瀬直季、比嘉良聡、照屋正、久高豊、山川岩彦、入仲秀政、謝花辰喜、嘉数照二郎、林岳彦、當銘栄一、上地龍太、松元靖	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 各種金融機関の機能・役割・仕事内容を学ぶことにより、経済・金融関係の学問に対する意欲を高める。	メッセージ 金融業界に興味がある学生にお勧めします。 対象学生は経済学部2・3年生です。 定員あり。(超過時は抽選)
	到達目標 金融機関の機能・役割に関する知識を身につける。金融機関における仕事内容を把握する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	ニュース、新聞から金融に関する情報を積極的に
	2	県内銀行と県外銀行の相違	収集し、講義内容の理解を深める。
3	沖縄経済と銀行	金融機関に向き内部の	
4	保険会社の役割	状況を観察する。	
5	沖縄県の保険事情		
6	アベノミクスと日本経済・沖縄経済		
7	最近の県内景気動向		
8	証券会社の役割		
9	沖縄県の投資状況		
10	信用金庫の役割		
11	地域密着金融		
12	地域経済と金融 -シンクタンクの役割-		
13	銀行の役割		
14	離島の金融		
15	県民生活とJA		
16	レポート提出		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回資料を配布する。テキストなし。		
	学びの手立て 講義に真剣に取り組む、記録すること。 積極的に質問すること。 各講義終了時に感想・コメントの記述を求める。 レポート課題は中間と期末の2回。		
	評価 試験およびレポート課題		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「金融論 I II」「証券市場論 I II」
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性

3年次・4年次は、経済に関する幅広い科目を修得する。また、主体的に調査・研究し、報告・議論する能力を身につけます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	沖縄の経済事情Ⅱ	後期	土3・4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上地 恵龍、_宮田 亮、_宮平 栄治、_村上 敬進、_島袋 伊津子	1年	ituko@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 金融の理論と実務を学ぶ。	メッセージ この授業は寄付講座で、県内5大学の教員・学生と一緒に学びます。金融機関への就職を強く望み、時間外のグループ学習についても積極的に取り組む意志を持った者のみ受講して下さい。
	到達目標 金融論の基礎的な理論および実務について理解し、グループで関連するテーマについて発表する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを読む
	2	わが国の金融システムⅠ	授業の復習、参考文献を読む
	3	わが国の金融システムⅡ	〃
	4	外部講師による講演（琉球銀行）	〃
	5	外部講師による講演（沖縄銀行）	〃
	6	グループワーク	〃
	7	中間報告会	報告会の準備
	8	保険の基礎知識	授業の復習、参考文献を読む
	9	外部講師による講演（大同火災）	〃
	10	グループワーク	〃
	11	金融機関の種類と役割	〃
	12	外部講師による講演（大同火災）	〃
	13	グループワーク	〃
	14	経済変動と金融政策	〃
15	外部講師による講演（日本銀行）	〃	
16	最終報告会	報告会の準備	
テキスト・参考文献・資料など テキスト：指定しない。毎回資料を配布する。参考文献：『金融入門』 岩田規久男(著) 東洋経済新報社 2008年、『図解これだけでわかる日本の金融』家森信善(著) 東洋経済新報社2006年、『金融のしくみ』ビックベン(編)ダイヤモンド社2003年、『金融システム』酒井良清・鹿野義昭(著)有斐閣アルマ2011年など。			
学びの手立て 授業は毎週実施ではなく、土曜日の3, 4時限目に集中で行います。具体的なスケジュールはポータルにて掲示します。			
評価 グループ発表（50%）＋レポート（50%）。原則として皆出席を求めます。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「金融論ⅠⅡ」「証券市場論ⅠⅡ」「沖縄の経済事情Ⅰ（寄付講座）」
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貨幣経済論Ⅱ	後期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 貨幣経済論Ⅰで学んだ基礎理論を踏まえながら、金融政策や財政政策等の経済政策が国内外の経済（物価、為替等）に与える影響を検討する。	メッセージ 経済学的思考は、社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 ①経済活動における貨幣の役割を理解する。 ②経済政策の意義を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義と貨幣経済論Ⅰとの関係、講義アンケート -	
	2	市場経済における貨幣の役割 - 貨幣の役割再考（概論） -	貨幣経済論Ⅰの復習
	3	貨幣経済と物価① - 物価指数、インフレ過程とデフレ過程 -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	4	貨幣経済と物価② - インフレと貨幣供給量 -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	5	貨幣経済の安定性① - ハイパーインフレと中央銀行、デフレーション -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	6	貨幣経済の安定性② - 貨幣経済と労働市場 -	マクロ経済学・経済政策論の予習
	7	貨幣経済における経済政策① - 金融政策 -	経済政策論関連文献の精読
	8	貨幣経済における経済政策② - 所得政策 -	経済政策論関連文献の精読
	9	貨幣経済における経済政策③ - 財政政策① -	経済政策論関連文献の精読
	10	貨幣経済における経済政策④ - 財政政策② -	経済政策論関連文献の精読
	11	国際経済と貨幣① - 複数通貨と資産市場 -	国際経済論関連文献の精読
	12	国際経済と貨幣② - 貿易と経済成長、通貨政策 -	国際経済論関連文献の精読
	13	国際経済と貨幣③ - 世界経済の安定と貨幣経済 -	国際経済論関連文献の精読
	14	本講義のまとめ① - 貨幣経済論Ⅰを踏まえて内容を整理 -	
15	本講義のまとめ② - 貨幣経済論Ⅱの要点整理、期末テストの説明 -		
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。		
	学びの手立て マクロ経済学を復習しておくこと。貨幣経済論Ⅰを受講することが望ましい。		
	評価 期末テスト(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅱ、貨幣経済論Ⅰ
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業分析	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 優良な企業とそうでない企業を見分けるためには、どうすればよいでしょうか？人気ランキング、本社ビルの豪華さ、CMのイメージは役に立ちません。企業分析を学べば、優良な企業を選べるようになります。	メッセージ <登録の条件>「簿記」「簿記原理」「財務会計」などの科目を履修中または履修済みであること。条件の理由は、後半の財務分析では簿記・会計学の知識が前提となるためです。 就職活動の対象としてふさわしい企業を、自分で企業分析して選びましょう。
	到達目標 財務分析の知識とマーケティング分析の知識を融合させた「企業分析」を自分で行う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 講義の概要 2. マーケティング分析（1） 3. マーケティング分析（2） 4. マーケティング分析（3） 5. マーケティング分析（4） 6. マーケティング分析（5） 7. マーケティング分析（6） 8. 中間テスト 9. 財務分析（1） 10. 財務分析（2） 11. 財務分析（3） 12. 財務分析（4） 13. 財務分析（5） 14. 融資の基礎知識（1） 15. 融資の基礎知識（2） 16. 期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など 中島久「財務分析と定性分析による入門企業分析の手法と考え方」経済法令研究会、2009年
	学びの手立て 小レポート・小テストで知識を確認します。 普段から企業・ビジネスに関心を持ち、自分なりに評価したり、改善点を探してみましよう。
	評価 小レポート・小テスト20%、中間テスト40%、期末テスト40%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア系科目
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい この演習では、大学生としての基本的知識および基本的スキル（読む、書く、発表するなど）を身につけることを目標とする。	メッセージ
	到達目標 大学生としてのスキルを身につけ、以後の学生生活の基盤をつくる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：大学は何を学ぶところか？／ゼミの仲間を知ろう	
	2	基礎的知識の確認～社会	
	3	基礎的知識の確認～経済	
	4	グループワーク：共同作業から学ぶ	
	5	目標を設定する	
	6	テーマを設定する	
	7	情報を収集する1：図書館の資料	
	8	情報を収集する2：インターネットと情報	
	9	情報を整理する：アンケート集計・図表	
	10	論理的に考える：ロジカル・シンキング	
	11	論理的に組み立てる：構成と下準備	
	12	批判的に考える：クリティカル・シンキング	
	13	グループ・ワーク：ディスカッションの基本	
	14	大学で学ぶことの意味を考える：モチベーションを保つには？	
15	大学で学ぶことの意味を考える：ストレッチ目標を立てよう		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携！）：後藤芳文、伊藤史織、登本洋子 著『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部、2014年。 参考書：橋本努『学問の技法』筑摩書房、2013年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 受講態度50%、複数回の課題50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱに続く
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①コミュニケーション力 ②社会全般に関する知見を広げる力 ③現状を分析する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	1年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、大学生活に必要な基礎知識と技能を養います。本の読み方、レジユメの書き方、プレゼンテーションのしかた、情報の集め方などの習得に加え、大学生活を有意義に過ごすための素地をつくります。「大学で学ぶ」ということは、さまざまな学問を勉強して知識を得ることだけでなく、多種多様な考えをもつ人とのふれあい、大人としての人格を涵養していくことでもあります。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確に述べるができる。 授業で取り上げるテーマやそれに関連した経済社会現象の問題を発見し、分析することができる。 	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	オリエンテーション：演習の進め方		
	2	キャンパスライフ・スタディスキルズ①	授業の復習	
	3	キャンパスライフ・スタディスキルズ②	授業の復習	
	4	キャンパスライフ・スタディスキルズ③	授業の復習	
	5	キャンパスライフ・スタディスキルズ④	授業の復習	
	6	キャンパスライフ・スタディスキルズ⑤	授業の復習	
	7	キャンパスライフ・スタディスキルズ⑥	授業の復習	
	8	図書館ガイダンス	授業の復習	
	9	図書館を使いこなす	授業の復習・課題の作成	
	10	文章の要約	授業の復習	
	11	レポート作成手順	授業の復習	
	12	グラフの作成と読みとり	授業の復習	
	13	レジユメの作成	授業の復習・発表資料の作成	
	14	口頭発表	発表資料の作成・発表の準備	
	15	前期のふり返り	課題の作成・前期の振り返り	
	16			
	テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。 参考文献は授業で適宜紹介します。</p>		
	学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみなさんにも、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気貢献してください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。 		
	評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 発言など授業での「平常点」50%、「課題」50%で評価します。 到達目標1、2は「平常点」「課題」のそれぞれにおいて確認します。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> 「基礎演習 I」「基礎演習 II」は、2年次の「基礎演習 III」「基礎演習 IV」の先修科目として位置づけられています。1年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 「基礎演習 I」「基礎演習 II」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。

※ポリシーとの関連性

社会には様々な経済問題があることについて認識を深める。
また、そうした問題どのような方法で解決できるかを考えさせる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日常起きている日本社会の経済問題について認識させると共に、それを調べ挙げ、さらに解決策について考えさせる。</p>	<p>演習は他人の意見を良く聞くことを心がけ、他人の意見に自分の考えを述べて、議論する事ができるようにする。そのためには事前に自分の意見をまとめておくようにする。</p>
到達目標	<p>本演習を通して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済問題に対して関心を持たせると共に、日本経済新聞・朝日新聞などを積極的に読ませるようにする。 2. 日頃から自分の意見を述べるができるようにする。 3. 常にすべてのことに疑問を持ち本当に正しい判断ができるようにする。 4. 多くの文献を読み込むように習慣づけるようにする。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1周 自己紹介	プレゼンテーションの準備
	2	第2周 グループ分け発表会基・礎演習の進め方	プレゼンテーション資料収集
	3	第3周 バトミントン大会	同上
	4	第4周 プレゼンテーションのしかた	同上
	5	第5周 新入生図書館オリエンテーション	同上
	6	第6周 第1回 グループ発表会	同上
	7	第7周 第2回 グループ発表会	同上
	8	第8周 第3回 グループ発表会	同上
	9	第9周 第4回 グループ発表会	同上
	10	第10周 第5回 グループ発表会	同上
	11	第11周 第6回 グループ発表会	同上
	12	第12周 第7回 グループ発表会	同上
	13	第13週 第8回 グループ発表会	同上
14	第14周 第9回 グループ発表会	同上	
15	第15周 第10回 グループ発表会	同上	
16	第16周 まとめ レポート提出	まとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキスト 日本経済新聞・朝日新聞・読売新聞・琉球新報・沖縄タイムスなど</p>		
	<p>学びの手立て</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールで連絡してください。 2. 経済用語の修得につとめて下さい。 3. レポートを課すことがあります。 		
	<p>評価</p> <p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションはグループで行うため、分担した部分には自分の名前を入れること (50%) 2. 他人のプレゼンテーションに対する質問は、何度でもOKです。多い人ほど評価が高くなる (10%以上) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 中間レポート提出 (40%) 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済論 2. アジア経済論 3. 国際経済論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習 I は、学生間及び教員とのコミュニケーションを深める場であり、情報収集、文章読解、文章作成能力などを高める場でもある。この演習では、大学生としての基本的スキルを身につけ、発表できる能力を身につけることを目標とする。	メッセージ
	到達目標 大学生としての基本的なプレゼンテーション能力を醸成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	テキストの読み方①－大学で読む文章－	事前に配ったプリントを読むこと
	3	テキストの読み方②－学術的な文章を読む－	同上
	4	資料の探し方①－資料とは？－	同上
	5	資料の探し方②－大学図書館とは－	同上
	6	レポートの書き方①－レポートって何だろう－	同上
	7	レポートの書き方②－レポート作成の実際－	同上
	8	フィールドワーク－宜野湾市の土地利用変化－	同上
9	レジュメの書き方①－作成のポイント－	同上	
10	レジュメの書き方②－発表内容との関係を考える－	同上	
11	ゼミ発表の仕方	同上	
12	フィールドワーク－中城村の企業立地	同上	
13	ゼミ発表・ディスカッション①－日本経済を中心とした発表－	同上	
14	ゼミ発表・ディスカッション②－沖縄経済を中心とした発表－	同上	
15	ゼミ発表・ディスカッション③－外国の経済に関する発表－	同上	
16	ゼミ発表・ディスカッション④－地域の社会問題に関する発表－	同上	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。 森靖雄著『大学生の学習テクニック』大月書店		
	学びの手立て		
	評価 評価 ・平常点：講義中の課題提出と発表（60点） ・レポート（40点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II のプレゼン発表に繋げる。
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これから大学で学ぶにあたって、必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新入生は戸惑うことが多いようです。本基礎演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。	大学で専門的な分野を学ぶ前に基礎学力を強化する必要があるため、基礎演習では「基本的に必要な人間力」を身につける。

到達目標
1. 大学生として身につけておくべき「社会常識」を身につけることができる。 2. レポートやプレゼンテーションの知識と技術を習得することができる。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>「社会」「国語」「数学」の3つを、4～5回ずつ行う予定です。主な内容は以下の通りです。</p> <p>社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。</p> <p>国語能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。</p> <p>基礎数学：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。難易度は、中学から高校程度である。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局 講義時に、適宜指示する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>高校時代の英語や国語、数学などをカバーしながら進めていく。</p>
評価	出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学で最低限身につけなければならない人間力・社会人を学び、専門分野へ繋げることが出来る。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1 年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	これから大学で学ぶにあたって、必要なスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、自らコントロールして、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。演習のテーマ・内容は、1. 大学生として身につけておくべき「常識」2. レポートやプレゼンテーションなどの「表現能力」などを学ぶ。	大学生生活の基礎となる授業なので毎回出席してください。

到達目標	1. 常識や情報収集能力などを鍛える 2. 表現能力を鍛える 3. 論理的思考能力を鍛える
------	---

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	第1～5回：社会常識：卒業後を意識した、大学4年間の過ごし方を考える。また、社会の一員としてのマナーや大学生がよく巻き込まれるトラブルなどの知識を得る。
	第6～11回：表現能力：大学の講義で必ず必要になる、レポートやプレゼンテーションの基礎を修得する。資料の読み方や文章のまとめ方、図書館の利用方法など。
	第12～15回：基礎数学など：経済理論を学ぶために必要な、基礎的な数学を学ぶ。

テキスト・参考文献・資料など	『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局
----------------	----------------------------

学びの手立て	毎回出席して発言することが重要。
--------	------------------

評価	平常点（70）および課題レポート（30）により総合的に評価します。
----	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習2を次に履修すること
-------	-------------------------------

※ポリシーとの関連性

演習では、経済学の基本的な考え方を学び、経済社会問題への関心を高め、自らの考えを論理的に表現し、議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1 年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学に必要なスタディスキルを修得することが目的です。大学では、高校までの学習方法とはまったく異なるため、新入生は戸惑うことが多いようです。本演習ではこうした戸惑いを解消し、効率的な学習習慣を身につけ、有意義な大学生活を送ることができる準備を行います。本演習では、情報検索から文献読解、文章作成、プレゼンテーションの基礎となる技能を習得します。</p>	<p>演習は「主体性」が求められます。積極的に課題に取り組む姿勢と意欲が求められ、更に、自ら課題を設定し、考えていくことができるようになることが目標となります。基本となる文章読解、表現能力、コミュニケーション能力を本演習で共に学びましょう。</p>
到達目標	<p>①大学で学ぶための基本的な考え方、姿勢を身につける（積極性・自主性） ②経済学を学ぶための文献読解、情報収集、分析手法の基礎を学ぶ。 ③論理的な思考、ディスカッション・プレゼン能力を習得する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー自己紹介、演習の基本的なルールについて	シラバスを読む
	2	大学生活の基本的な心構え①ー大学での過ごし方、学習方法	大学で学ぶ目的を考える
	3	大学生活の基本的な心構え②ー経済学科で学ぶこと	今後の履修計画をイメージする
	4	文献・データ収集の手法①ー文献収集の基本	図書館オリエンテーション※
	5	文献・データ収集の手法②ーデータベースの活用	図書館オリエンテーション※
	6	文献・論文を読む①ー文献収集とリスト作り	文献・論文の収集と整理
	7	文献・論文を読む②ー文献紹介と論点整理	文献・論文の要点整理
	8	レポートの書き方①ーレポート作成の準備	レポートのテーマ探し
	9	レポートの書き方②ーレポートの体裁と構成について	レポートの構成・アウトライン
	10	レポートの書き方③ー評価	引用と参照の心得を調べる
	11	グループワーク①ー報告の心得とプレゼンの基礎	プレゼンとは何かについて調べる
	12	グループワーク②ー課題探索とディスカッション	グループ学習手法について調べる
	13	グループワーク③ープレゼン報告準備	各自グループテーマを探索する
14	グループワーク④ープレゼン報告会①	グループ内作業と役割分担	
15	グループワーク⑤ープレゼン報告会②と前期の振り返り	同上	
16	※提案により課外活動も行います。		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しませんが、下記の文献等を参考にしてください。 『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局 『大学生と大学院生のためのレポート論文の書き方』ナカニシヤ出版 他、適宜指示します。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。</p> <p>○学びを深めるために 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。</p>		
評価	<p>出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。 主体性を求めるため、演習での発言や意見、議論への積極的な参加が評価基準となります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【関連科目・次のステージ】 基礎演習 II</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

経済現象を科学的に分析し、経済社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
	担当者 比嘉 正茂	前期	月 4	2
		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献・レポート等の講読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養うとともに、文章読解能力やプレゼンテーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 演習の進め方、アンケート -
	2	大学（経済学科）で学ぶ意義について①
	3	大学（経済学科）で学ぶ意義について②
	4	経済文献の講読① - 担当者報告、文献解説、議論 -
	5	経済文献の講読② - 担当者報告、文献解説、議論 -
	6	経済文献の講読③ - 担当者報告、文献解説、議論 -
	7	経済文献の講読④ - 担当者報告、文献解説、議論 -
	8	経済文献の講読⑤ - 担当者報告、文献解説、議論 -
9	経済文献の講読⑥ - 担当者報告、文献解説、議論 -	
10	沖縄経済に関する調査① - グループ調査 -	
11	沖縄経済に関する調査② - グループ調査 -	
12	沖縄経済に関する調査③ - グループ調査 -	
13	沖縄経済に関する調査④ - グループ調査 -	
14	沖縄経済に関する調査⑤ - グループ調査 -	
15	前期のまとめ①	
16	前期のまとめ②	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。	時間外学習の内容
	学びの手立て 日頃から経済新聞等に目を通しておくこと。	
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習 II
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①コミュニケーション力 ②社会全般に関する知見を広げる力 ③現状を分析する力

[/演習]

科目基本情報	科目名 基礎演習Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 月4	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、基礎演習Ⅰで学んだことを踏まえ、プレゼンテーションのスキルを習得していきます。グループに分かれ、設定したテーマについて、統計データや文献を収集・分析し、説得力のある資料を作成し、プレゼンを行います。1月のゼミ対抗のプレゼン大会に向けて、聞き手に納得してもらえるように、物事を深く考え抜く力やプレゼン能力などを磨いていきます。	メッセージ この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
	到達目標 1. 授業で取り上げるテーマに関連した経済社会現象を発見し、そこで生じている問題を客観的かつ多面的に分析することができる。 2. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べるができる。 3. グループ・ワークにおいて、役割分担して、設定したテーマについて考察し、プレゼンテーションすることができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション：演習の進め方</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>グループ・ディスカッション①</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>グループ・ディスカッション②</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>グループ・ディスカッション③</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>グループ・ディスカッション④</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>グループ・ディスカッション⑤</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>グループ・ディスカッション⑥</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>プレゼン大会の準備①</td><td>課題関連事項を調べる</td></tr> <tr><td>9</td><td>プレゼン大会の準備②</td><td>情報の収集と整理</td></tr> <tr><td>10</td><td>プレゼン大会の準備③</td><td>情報の収集と整理</td></tr> <tr><td>11</td><td>プレゼン大会の準備④</td><td>アウトラインの作成</td></tr> <tr><td>12</td><td>プレゼン大会の準備⑤</td><td>発表資料の作成・中間報告の準備</td></tr> <tr><td>13</td><td>プレゼン大会の準備⑥</td><td>発表資料の作成</td></tr> <tr><td>14</td><td>プレゼン大会の準備⑦</td><td>発表資料の作成・発表の準備</td></tr> <tr><td>15</td><td>プレゼン大会</td><td>発表資料の完成・発表の準備</td></tr> <tr><td>16</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	オリエンテーション：演習の進め方		2	グループ・ディスカッション①	授業の復習	3	グループ・ディスカッション②	授業の復習	4	グループ・ディスカッション③	授業の復習	5	グループ・ディスカッション④	授業の復習	6	グループ・ディスカッション⑤	授業の復習	7	グループ・ディスカッション⑥	授業の復習	8	プレゼン大会の準備①	課題関連事項を調べる	9	プレゼン大会の準備②	情報の収集と整理	10	プレゼン大会の準備③	情報の収集と整理	11	プレゼン大会の準備④	アウトラインの作成	12	プレゼン大会の準備⑤	発表資料の作成・中間報告の準備	13	プレゼン大会の準備⑥	発表資料の作成	14	プレゼン大会の準備⑦	発表資料の作成・発表の準備	15	プレゼン大会	発表資料の完成・発表の準備	16		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																	
1	オリエンテーション：演習の進め方																																																			
2	グループ・ディスカッション①	授業の復習																																																		
3	グループ・ディスカッション②	授業の復習																																																		
4	グループ・ディスカッション③	授業の復習																																																		
5	グループ・ディスカッション④	授業の復習																																																		
6	グループ・ディスカッション⑤	授業の復習																																																		
7	グループ・ディスカッション⑥	授業の復習																																																		
8	プレゼン大会の準備①	課題関連事項を調べる																																																		
9	プレゼン大会の準備②	情報の収集と整理																																																		
10	プレゼン大会の準備③	情報の収集と整理																																																		
11	プレゼン大会の準備④	アウトラインの作成																																																		
12	プレゼン大会の準備⑤	発表資料の作成・中間報告の準備																																																		
13	プレゼン大会の準備⑥	発表資料の作成																																																		
14	プレゼン大会の準備⑦	発表資料の作成・発表の準備																																																		
15	プレゼン大会	発表資料の完成・発表の準備																																																		
16																																																				
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しません。 参考文献は授業で適宜紹介します。</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」は、2年次の「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」の先修科目として位置づけられています。1年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会には様々な経済問題があることについて認識を深める。
また、そうした問題どのような方法で解決できるかを考えさせる。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日常起きている日本社会の経済問題について認識させると共に、それを調べ挙げ、さらに解決策について考えさせる。	演習は他人の意見を良く聞くことを心がけ、他人の意見に自分の考えを述べて、議論する事ができるようにする。そのためには事前に自分の意見をまとめておくようにする。
到達目標	本演習を通して	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済問題に対して関心を持たせると共に、日本経済新聞・朝日新聞などを積極的に読ませるようにする。 2. 日頃から自分の意見を述べるができるようにする。 3. 常にすべてのことに疑問を持ち本当に正しい判断ができるようにする。 4. 多くの文献を読み込むように習慣づけるようにする。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1周 スーパープレゼンテーションについて	プレゼンテーション資料収集
	2	第2周 グループ分け発表会基（5人一組）	同上
	3	第3周 バトミントン大会	同上
	4	第4周 第1回 グループ発表会	同上
	5	第5周 第2回 グループ発表会	同上
	6	第6周 第3回 グループ発表会	同上
	7	第7周 第4回 グループ発表会	同上
	8	第8周 第5回 グループ発表会	同上
	9	第9周 第6回 グループ発表会	同上
	10	第10周 第7回 グループ発表会	同上
	11	第11周 第8回 グループ発表会	同上
	12	第12周 第9回 グループ発表会	同上
	13	第13周 第10回 グループ発表会	同上
14	第14周 第11回 グループ発表会	同上	
15	第15周 第12回 グループ発表会	同上	
16	第16周 まとめ	まとめ	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト 日本経済新聞・朝日新聞・読売新聞・琉球新報・沖縄タイムスなど		
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールで連絡してください。 2. 経済用語の修得につとめて下さい。 3. レポートを課すことがあります。 		
	評価 評価方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションはグループで行うため、各自の分担部分は担当者名を必ず記述すること。（60%） 2. 他のプレゼンテーションに対する質問は何度してもかまわない。多いほど評価は高くなる。（40%以上） 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本経済論 2. アジア経済論 3. 国際経済論
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakiham@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅱは、学生間及び教員とのコミュニケーションの場を深める場であり、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などのスキルを高める場でもある。この授業では、大学生として基本的スキルを身につけて、その成果として、プレゼンテーション大会におけるグループ発表を行う。	メッセージ
	到達目標 大学生としての基本的なプレゼンテーション能力を醸成する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	後期ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	レジュメの作成方法	事前に配ったプリントを読むこと
	3	発表テーマの検討	同上
	4	発表テーマの調整	同上
	5	発表テーマの決定	同上
	6	プレゼンテーションの技法	同上
	7	プレゼンテーションの方法と実際	同上
	8	スライドの作り方（基礎編）	同上
9	スライドの作り方（応用編）	同上	
10	プレゼン大会準備－発表内容の検討－	同上	
11	プレゼン大会準備－スライドの検討－	同上	
12	プレゼン大会準備－発表時間の調整－	同上	
13	プレゼン大会予行演習（第1回）	同上	
14	プレゼン大会予行演習（第2回）	同上	
15	プレゼン大会		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にないが、参考文献は適宜指示する。		
	学びの手立て		
	評価 評価 ・平常点：講義中の課題提出と発表（60点） ・プレゼン大会に関わるレポート（40点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次年度に履修するゼミ（基礎演習Ⅲ・Ⅳ）の「学び」に繋げるようにする。
-------	---

※ポリシーとの関連性 カリキュラム・ポリシーの1番「1年次にしっかりと基礎学力を身につける」前期で学んだ基礎演習Ⅰと同様である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅱでは、グループに分かれ設定したテーマにもとづき、統計データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマを深く追求していきます。クラスの中で発表し合うことによって、違った考えや意見があることを知り、また自分の意見を発表することができることをねらいとする。	人間力に必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、評価能力など身につける。

到達目標
1. 授業中で自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 2. 相手の意見を聞き、理解し合いながらレポートやアサーションすることが出来る。 3. クラスの中で発表された意見に対して評価することが出来る。

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク 第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会</p>

テキスト・参考文献・資料など
『知のツールボックスー新入生援助集ー』専修大学出版局 講義時に、適宜指示する。

学びの手立て
プレゼンテーション能力を高めるために授業の中で「恥」をかくことに自ら挑戦し慣れることを勧めます。

評価
出席およびレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
全ての授業においてプレゼンテーション能力は求められる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	自らテーマを設定して学習する演習を行います。そのため、グループに分かれ設定した問題にもとづき、データや文献を調べ、互いに議論しながらテーマに対しての解を見つけます。クラスの中で発表し合うことによって、内容をより洗練させていきます。後半では、クラス対抗でプレゼンテーション大会を行い、競争を通じ楽しくプレゼン能力やコミュニケーション能力などを磨いていきます。	大学生生活の基礎となるので毎回出席してください。

到達目標	1. 表現能力をより鍛える 2. 情報収集能力を鍛える 3. 発想力を鍛える
------	--

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1週 ガイダンス 第2週～第8週 テーマ設定、資料収集、プレゼンの準備などグループ別ワーク 第9週～第15週 クラス対抗プレゼン大会</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 特になし。 適宜資料は配付する。
-------	---------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 毎回出席して、積極的に関与して、発言することが重要
-------	-------------------------------------

学びの実践	評価 出席 (80%) および、課題の提出状況 (20%)
-------	----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅰの続きです。
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

演習では、経済学の基本的な考え方を学び、経済社会問題への関心を高め、自らの考えを論理的に表現し、議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅱでは、学生同士、教員とのコミュニケーションの場を深めていきます。基礎演習Ⅰに引き続き、読解力、情報収集・情報分析力、プレゼンテーション力などの基礎的なスキルを高めていきます。この演習では、ゼミ対抗のプレゼンテーション大会を行う予定としています。	演習は「主体性」が求められます。積極的に課題に取り組む姿勢と意欲が求められ、更に、自ら課題を設定し、考えていくことができるようになることが目標となります。基本となる文章読解、表現能力、コミュニケーション能力を本演習で共に学びましょう。
到達目標	①大学で学ぶための基本的な考え方、姿勢を身につける（積極性・自主性） ②経済学を学ぶための文献読解、情報収集、分析手法の基礎を学ぶ。 ③論理的な思考、ディスカッション・プレゼン能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス-前期を振り返って、後期の演習の進め方	シラバスを読む
	2	グループワーク① ーグループ内での役割分担	グループでの役割の確認
	3	グループワーク② ーテーマ設定と資料収集	テーマ設定と情報収集を行う
	4	グループワーク③ ープレゼン準備	役割に応じた作業実施
	5	グループワーク④ ー報告会①	報告準備
	6	グループワーク⑤ ー報告会②、グループワークを通じての振り返り	報告の振り返り
	7	プレゼンテーションの基礎と応用	プレゼンとは何かについて調べる
	8	プレゼンテーション入門①	プレゼンの目的と手法
	9	プレゼンテーション入門②	課題設定の方法
	10	プレゼンテーション入門③	効果的な伝え方について考える
	11	プレゼンテーション実習① ーグループワーク（グループ分け、テーマ設定）	グループ内での準備をする
	12	プレゼンテーション実習② ー資料収集とディスカッション	同上
	13	プレゼンテーション実習③ ープレゼン準備	同上
	14	プレゼンテーション実習④ ー報告会	報告の振り返りと自己評価
15	演習を振り返って	演習で学んだことを振り返る	
16	※講義後半はプレゼン大会の日程に合わせて調整します。		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に指定しませんが、下記の文献等を参考にしてください。 中野美香（2012）『大学生からのプレゼンテーション入門』ナカニシヤ出版 他、適宜指示します。</p>
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。 ○学びを深めるために 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。
--------	---

評価	<p>出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価基準となります。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【関連科目・次のステージ】 基礎演習Ⅲ 基礎演習Ⅳ</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	1年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献・雑誌等を講読することで、経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、グループワークやディベート等を通じて、プレゼンテーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	前期（基礎演習Ⅰ）の振り返り -基礎演習Ⅱの目標設定-
	2	ディベート① -テーマ選定等-
	3	ディベート② -グループ調査-
	4	ディベート③ -グループ調査-
	5	ディベート④ -グループ調査-
	6	ディベート⑤ -報告会①-
	7	ディベート⑥ -報告会②-
	8	プレゼンテーション① -プレゼンの作法、プレゼン技術について-
9	プレゼンテーション② -資料作成、調査等-	
10	プレゼンテーション③ -資料作成、調査等-	
11	プレゼンテーション④ -資料作成、調査等-	
12	プレゼンテーション⑤ -資料作成、報告等-	
13	プレゼンテーション⑥ -資料作成、報告等-	
14	プレゼンテーション⑦ -資料作成、報告等-	
15	後期まとめ①	
16	後期まとめ②	
	時間外学習の内容	
	経済に関するトピックの選定	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	予想質問リストの作成	
	予想質問リストの作成	
	プレゼン方法に関する文献の精読	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	グループ調査、資料作成	
	プレゼン大会の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。	
	学びの手立て 自治体のホームページ等にアクセスし、地域振興策や経済データ等について調べておくこと。	
	評価 講義姿勢（50%）、提出物（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅲ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 基礎演習Ⅰで習得した大学生としてのスキルを生かし、プレゼンテーション大会に向けたグループ・ワークを実践する。	メッセージ
	到達目標 グループ・ワークによって、他の学生と協同しながら、一つのテーマについて調べ、発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	
	2	グループ・ワークの基本	
	3	テーマ設定1	
	4	テーマ設定2	
	5	資料収集1	
	6	資料収集2	
	7	中間発表（進捗報告）	
	8	中間発表（進捗報告）	
	9	プレゼンテーション資料作成1	
	10	プレゼンテーション資料作成2	
	11	プレゼンテーション資料作成3	
	12	プレゼンテーションの実践1	
	13	プレゼンテーションの実践2	
	14	プレゼンテーションの実践3	
15	プレゼンテーションの実践4		
16	まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携！）：後藤芳文，伊藤史織，登本洋子 著『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』玉川大学出版部，2014年。 参考書：橋本努『学問の技法』筑摩書房，2013年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 受講態度50%，複数回の課題50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学に必要な専門知識を学び、社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済に関する文献や新聞記事、社会問題などを「経済的な観点」から調査・分析ができる人材を育てる。さらに、分析結果を論理的にまとめ、発表することができる人材を育てる。	物事を論理的に思考し、経済学的に考えることは社会に出て必ず役に立つ。

到達目標
演習科目終了後：
1. 自らの課題を見つけ、情報収集、分析、発表することが出来る。
2. 問題解決に向けた思考を習得することが出来る。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1. 授業内容説明 自己紹介	
	2	2. セリフマッピング	自己分析に関する書物を読む
	3	3. 経済学的視点とは	ミクロ・マクロ経済について学ぶ
	4	4. グループディスカッション 経済に関連するトピック	対人関係構築と諸問題を調べる
	5	5. Chapter1：論題（テーマについて情報収集）	対人関係構築と諸問題を調べる
	6	6. Chapter1：論題（テーマについて情報整理）	対人関係構築と諸問題を調べる
	7	7. Chapter1：論題（テーマについてまとめ）	対人関係構築と諸問題を調べる
	8	8. Chapter1：論題（テーマについて発表）	プレゼンテーション技法を学ぶ
	9	9. 論理的思考とは（講義）	因果関係について学ぶ
	10	10. PCM手法による問題解決手法①（ファシリテーション技法）	様々な問題解決手法を調べる
	11	11. PCM手法による問題解決手法②	問題解決手法PCMをより深く調べる
	12	12. PCM手法による問題解決手法③	問題解決手法PCMをより深く調べる
	13	13. PCM手法による問題解決手法（自分の問題・課題の取り組む）	自己問題の解決策を体系化する
14	14. PCM手法による問題解決手法（自分の問題・課題の取り組む）	自己問題の解決策を体系化する	
15	15. PCM手法による問題解決手法（自分の問題・課題の取り組む）	自己問題の解決策を体系化する	
16	16. PCM手法による問題解決手法発表	発表のリハーサル	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	適宜資料を配付する。		
	参考図書：「学力」の経済学 中室牧子		
	GRITやり抜く力 アンジェラ・ダックスワース		
	PCM手法 国際協力機構		
	ファシリテーション スキル 堀公俊		
	学びの手立て		
	新聞を継続して読むこと。		
	評価		
	授業態度、提出物、出席などを総合的に鑑み評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	基礎演習Ⅳ

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方などを学びます。グループワークと報告とともに、個人での課題設定と情報収集、整理、分析していく力を養います。	基礎演習Ⅲから専門性と密度を持った議論を求めます。グループ学習における自らの役割を自覚し、より積極的に演習に参加する必要があります。個々人の能力を高めるため、それぞれがテーマ設定、情報収集、分析、資料作成、報告といった一連の作業が出来るよう相応の準備が必要です。課外活動等も積極的に提案、参加することを求めます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことが出来る。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー基礎演習Ⅰ・Ⅱを振り返って、演習の計画について	シラバスを読む
	2	演習での報告について一情報の収集、整理、レジュメの作成、報告の仕方	情報検索、図書館利用の確認
	3	資料の収集と整理ー記事報告①	文献リスト作成の課題
	4	論文・文献の読み方ー記事報告②	要旨作成の課題
	5	論文・文献の読み方ー記事報告③	先行研究整理の課題
	6	テーマ探しと課題設定ー記事報告④	自らの関心を探る
	7	テーマ探しと課題設定ー記事報告⑤	テーマに関する情報収集を行う。
	8	レポート作成方法ー記事報告⑥	レポートの作成準備
	9	レポート作成の実践ー記事報告⑦	レポート課題の提出準備
	10	報告とディスカッション①	※合同ゼミ等
	11	報告とディスカッション②	同上
	12	報告とディスカッション③	同上
	13	報告とディスカッション④	グループ、個人報告の準備
	14	報告とディスカッション⑤	グループ、個人報告の準備
15	報告とディスカッション⑥	グループ、個人報告の準備	
16	※CIT行動学に基づく実践的講義（合同ゼミ）を開催予定（前期後半の講義回）		

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に使用しませんが、グループ、個人報告に関する文献、資料等については適宜紹介します。
 ※前期後半に予定している合同ゼミで学ぶCIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものです。これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となります。

学びの手立て
 ○履修の心構え
 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。担当を決め、新聞記事等の報告を行います。自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。
 ○学びを深めるために
 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。

評価
 出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価のポイントとなります。

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 【関連科目・次のステージ】
 専門演習ⅠA, ⅠB

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①コミュニケーション力 ②社会全般に関する知見を広げる力 ③現状を分析する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	2年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、ディベートを通じて、情報の探索、課題の考察・整理、論理的な展開などの方法、集団で物事を進めることの重要性を学びます。さまざまな意見・主張を批判的に検討することで、レポート・論文を書く能力・スキル、社会に通じる基本的能力も高めることができます。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	1. 授業で取り上げるテーマに関連した経済社会現象を発見し、そこで生じている問題を客観的かつ多面的に分析することができる。 2. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べることができる。 3. グループ・ワークにおいて、役割分担して、設定したテーマについて考察し、プレゼンテーションすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	自分の考えを整理し、伝える	事前：文献の要約、関連事項の調査
	3	議論の考え方を学ぶ①	事前：文献の要約、関連事項の調査
	4	議論の考え方を学ぶ②	事前：文献の要約、関連事項の調査
	5	他者の意見を聞き、評価する技術を学ぶ	事前：文献の要約、関連事項の調査
	6	自分の意見と他者の意見を比較する	事前：文献の要約、関連事項の調査
	7	テーマを分析する①	事前：文献の要約、関連事項の調査
	8	テーマを分析する②	事前：文献の要約、関連事項の調査
	9	自分の意見と他者の意見をまとめる	事前：文献の要約、関連事項の調査
	10	ディベートのテーマとグループの決定・ディベートの準備	事前：ディベートのテーマを考える
	11	ディベートの準備：論理展開を考える・情報収集・情報整理・資料作成	事前：ディベートの準備
	12	ディベートの実践	事前：ディベートの準備
	13	レポートの作成のしかた・レポートの準備①	事後：テーマに関する調査
	14	レポートの準備②	事前：テーマに関する調査結果を
15	レポートの準備③	まとめる	
16	レポートの提出・総括	事前：レポートの作成	

テキスト・参考文献・資料など	テキストは使用しません。 参考文献は授業で適宜紹介します。
----------------	----------------------------------

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみならず、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気にご協力ください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。 <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 「ディベートの実践」（準備を含む）50%、「グループ・ワークにおける貢献度」15%、発言など授業での「平常点」15%、提出した「レポート」20%で評価します。 「ディベートの実践」「グループ・ワークにおける貢献度」「平常点」「レポート」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」は、3年次の「専門演習ⅠA」「専門演習ⅠB」の先修科目として位置づけられています。2年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献、新聞記事、雑誌等を講読することで「経済をみる眼」を養う。また、グループ調査等を通じてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅲの目標設定、アンケート等 -	
	2	経済学科で学ぶ意義について①	大学生活の自己評価
	3	経済学科で学ぶ意義について②	大学生活の自己評価
	4	文献購読① - 文献の選定、担当箇所割り当て等 -	文献の収集
	5	文献購読② - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	6	文献購読③ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	7	文献購読④ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	8	文献購読⑤ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	9	文献購読⑥ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	10	文献購読⑦ - 報告、議論、解説 -	指定文献の精読
	11	グループ調査① - テーマの選定、グループ分け等 -	グループワーク
	12	グループ調査② - 資料収集、調査、分析 -	グループワーク
	13	グループ調査③ - 資料収集、調査、分析 -	グループワーク
	14	グループ調査④ - 報告、質疑応答 -	グループワーク、資料作成
15	グループ調査⑤ - 報告、質疑応答 -	グループワーク、資料作成	
16	前期のまとめ		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。		
	学びの手立て 読書を継続して行うこと。		
	評価 受講態度 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅳ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	授業の前後の時間に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰ，基礎演習Ⅱを前提として，論文・レポートの書き方や文献・資料の調べ方，プレゼンテーションの仕方などについて，より深く学ぶ。個人ワークとグループ・ワークを織り交ぜながら，論題設定，情報収集，論理整理，さらに，分析する力を養うことを目標とする。	ゼミのメンバーとコミュニケーションをとりながら，個々に設定したテーマで論理的なレポートを完成させましょう。
到達目標	1. 課題とテーマを設定し，資料を収集し，論理的にまとめることができる 2. 他者とのコミュニケーションを通じて，異なる考え方を理解し，論理的に批判することができる	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方／大学生活の振り返り	シラバスを読む
	2	アイスブレイク：ゼミの仲間を知る	教科書を読む
	3	「読む」とはどういうことか？／学術的な読書とは？	事前：教科書を読む，事後：課題
	4	要約の方法と実践	事前：教科書を読む，事後：課題
	5	グループ・ワーク：読書報告	事後：課題
	6	レポート・論文とは何か？準備の方法	事前：教科書を読む，事後：課題
	7	レポート・論文：問題設定と構成／アウトライン／注と引用・参考文献表	事前：教科書を読む，事後：課題
	8	個人ワーク：エッセイを書く	事前：課題（エッセイ）
	9	グループ・ワーク：エッセイ課題のシェア（相互評価）	事後：課題
	10	プレゼンテーションの方法	事前：教科書を読む，事後：課題
	11	グループ・ワーク：議論の基礎	事前：教科書を読む，事後：課題
	12	ディベートとは何か？／ミニ・ディベートをする	事前：教科書を読む，事後：課題
	13	ディベートの準備1：論題決定／立論	事前：教科書を読む，事後：課題
14	ディベートの準備2：立論（グループワーク）	事前：教科書を読む，事後：課題	
15	ディベートの実践	事後：課題	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など		
	教科書（必携！）：松元茂，河野哲也『大学生のための読む，書く，プレゼン，ディベートの方法（改訂第二版）』玉川大学出版部，2015年。		
	参考文献：橋本努『学問の技法』筑摩書房，2013年。		
	学びの手立て		
	他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。		
	評価		
	受講態度（グループ・ワークへの貢献度，ゼミ中の発言など）40%，複数回の課題（最終レポート，レポート準備のための課題など）30%，ゼミ生によるピア・レビュー（相互評価）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回 オリエンテーション(自己紹介ほか) 第2回 ビジネスマナー、プレゼンテーション、質疑応答のデモンストレーション、調査テーマ設定 第3回～第8回 プレゼンテーションと質疑応答①～⑥ 第9回 社会人特別講師による講義 第10回～第14回 プレゼンテーション⑦～⑪ 第15回 まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>
	<p>評価</p> <p>受講意欲(30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション(40%)、課外学習における貢献度(30%)を総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Ⅳ、ジョブインタビュー入門(共通)、文章表現入門(共通)</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性 研究発表することを学び、研究を更に推し進めると共に人前で自由に発表できる人材を育成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、論文・レポートの書き方や文献・資料などの調べ方、プレゼンテーションなど学生としての基本的能力を向上させることを目的としている。	ゼミ生はお互いに親睦を深め、自主的・積極的に企画を行い、提案することを希望します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レポートなど文書作成ができるようにする。 2. 論理的思考がきるようにする。 3. 日頃から問題を収集することができるようにする。 4. 自ら問題に対して解決策を考えさせるようにする。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 1. ガイダンス	経済問題のテーマを見つける
	2	第2週 2. 考え方、問題意識の持ち方	課題についてレポート作成
	3	第3週 3. レポートの書き方	テーマを見つけ実際に行動する「
	4	第4週 4. レポートの書き方	課題についてレポート作成
	5	第5週 5. 論文の書き方	夏休みの課題としてレポート
	6	第6週 6. 論文の書き方	同上
	7	第7週 7. テーマ研究	同上
8	第8週 8. テーマ研究	同上	
9	第9週 9. テーマ研究	同上	
10	第10週 10. C I S行動学による実践的講義 I (合同ゼミ)	同上	
11	第11週 11. C I S行動学による実践的講義 I (合同ゼミ)	同上	
12	第12週 12. C I S行動学による実践的講義 I 合同ゼミ)	同上	
13	第13週 13. テーマ発表	同上	
14	第14週 13. テーマ発表	同上	
15	第15週 14. テーマ発表	同上	
16	第16週 期末レポート提出		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト 『知のツールボックス』専修大学出版 『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> 1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールで連絡してください。 2. 講義では積極的に意見を述べて下さい。 3. C I S行動学を学び実践するようにして下さい。 4. レポートを課すことがあります。 		
評価	評価方法は、 <ol style="list-style-type: none"> 1. 割当担当部分の発表 (30%) 2. 先生への質問すること (10%以上) 3. 出席状況・受講態度 (20%) 4. 期末レポート (40%) 5. 評価は総合で行う。 6. 欠席が1/3以上を超える者は単位を認定しない。 		

学びの継続	次のステージ・関連科目 <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生として情報収集・論理的思考をもち自主的に学んで行く姿勢を持たせるようにする。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	今後、3年間共に学んでいくことになるので、ゼミ生同士の親睦を深めながら、切磋琢磨してほしい。そのため、夏休みの合宿やスポーツ大会などのレクリエーションも取り入れていきたい。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。
到達目標	レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 ガイダンス	
	2	第2週～5週 考え方、問題意識の設定	社会・経済問題のテーマを見つける
	3	第6週～14週 レポート・論文の書き方(その1)	課題についてレポート作成
	4	第10週～12週 CIS行動学による実践的講義Ⅰ(ゼミ合同による)	テーマを見つけ、実際に行動する
	5	第13週～15週 レポート・論文の書き方(その2)	課題についてレポート作成
	6	第16週 講義振り返りと夏休みの課題など	夏休みの課題としてレポート作成
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

実践	テキスト・参考文献・資料など 『知のツールボックス—新入生援助集—』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
----	---

学びの手立て	毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 ゼミ生どうし親睦を深めるための自主企画も歓迎する。 CIS行動学とは、C(コミュニケーション)、I(イマジネーション:想像力、発想力)、S(センス:感性、着想力)を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。
--------	---

評価	出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。
----	--------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 自ら考え、意見を発表できる基礎力が形成されたことを踏まえ、専門演習でさらにその力を向上させる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「フェイク・ニュース」という言葉が注目を集めています。何が真実で何がそうでないのか。時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく理解し、その理解に基づき問題・課題を自らの頭で考え、問題・課題に対する自分なりの答えを導き出すことが今日大変重要になってきています。そのため基礎演習Ⅲでは、考える能力を養うことを「ねらい」とします。</p>	<p>基礎演習を通じて、知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを向上させることにより、自らの「ケイパビリティ（潜在能力）」を高め将来の選択肢・自由度を増やせるようにしましょう。そのため、ゼミでの勉強だけでなく合宿等の課外活動にも積極的に参加してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・経済的に存在する様々な問題・課題を発見し分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。 問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。 その論理が正しいかどうかを統計等を用いて検証したり、議論の中で確認し、正しければそれにもとづいて問題を解決する方法を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。間違っていることが分かった場合、更なる情報収集・分析・考察を通じて再考することができる。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週 オリエンテーション（自己紹介、演習の進め方等） 第2週 調査テーマ・課題等の設定、各自の役割分担等 第3-14週 プレゼンテーションと質疑応答・議論 第15週 まとめ （なお、第3-15週の間合宿を入れ、授業2回分あるいは3回分程度を割り当てる予定）</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>基礎演習では知識等の認知スキルだけでなく、それ以外のやり抜く力、忍耐力、協調性、リーダーシップ、人の話を聞く等の非認知スキルの獲得も重要です。このことを心にとめて積極的に参加するよう心掛けてください。</p>
評価	<p>欠席が3分の1以上の場合は不可とする。 評価は、授業参加度（30%）、プレゼン・課題提出・発言等の認知スキルに関する部分（40%）、リーダー・シップ・忍耐力・協調性・やり抜く力・課外学習における諸活動等の非認知スキル（30%）により総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>基礎演習Ⅳ</p>
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅲ	前期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	今後3年間共に学んでいくことになるので、ゼミ生同士の親睦を深めながら、切磋琢磨してほしい。この年次では大学生生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。

到達目標
レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。 自ら考え、行動することができる。

学びの実践	学びのヒント											
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <table border="0"> <tr> <td>第1週</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>第2週～5週</td> <td>考え方、問題意識の設定 社会・経済問題のテーマを見つける</td> </tr> <tr> <td>第6週～9週</td> <td>レポート・論文の書き方(その1) 課題についてレポート作成</td> </tr> <tr> <td>第10週～12週</td> <td>CIS行動学による実践的講義Ⅰ（ゼミ合同による） テーマを見つけ、実際に行動する</td> </tr> <tr> <td>第13週～15週</td> <td>レポート・論文の書き方(その2) 課題についてレポート作成</td> </tr> <tr> <td>第16週</td> <td>講義振り返りと夏休みの課題など</td> </tr> </table>	第1週	ガイダンス	第2週～5週	考え方、問題意識の設定 社会・経済問題のテーマを見つける	第6週～9週	レポート・論文の書き方(その1) 課題についてレポート作成	第10週～12週	CIS行動学による実践的講義Ⅰ（ゼミ合同による） テーマを見つけ、実際に行動する	第13週～15週	レポート・論文の書き方(その2) 課題についてレポート作成	第16週
第1週	ガイダンス											
第2週～5週	考え方、問題意識の設定 社会・経済問題のテーマを見つける											
第6週～9週	レポート・論文の書き方(その1) 課題についてレポート作成											
第10週～12週	CIS行動学による実践的講義Ⅰ（ゼミ合同による） テーマを見つけ、実際に行動する											
第13週～15週	レポート・論文の書き方(その2) 課題についてレポート作成											
第16週	講義振り返りと夏休みの課題など											

テキスト・参考文献・資料など
『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

学びの手立て
毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 CIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。 これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。

評価
出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 専門演習

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	授業の前後の時間に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅰ，Ⅱ，Ⅲを前提として，論文・レポートの書き方や文献・資料の調べ方，プレゼンテーションの仕方などについて，より深く学ぶ。実践として，学術書の輪読を基礎とし，文章を読むことや書くことを習慣化するとともに，ゼミ生同士のディスカッションを通じて，他者の意見から学びつつ，自身の考える力を養うことを目標とする。	ゼミのメンバーとコミュニケーションをとりながら，テーマを設定し，論理的なプレゼンテーションを完成させましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術書の内容を理解し，適切に要約することができる 2. 他者とコミュニケーションを取りながら，文章の理解をすすめ，オリジナルな主張をまとめることができる 3. 他者の異なる考え方を理解し，論理的に批判することができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方・評価方法などについて	シラバスを読む
	2	輪読のための準備：レジュメ作りの基礎	
	3	輪読1-1：教科書のレジュメ作成と議論	事前：教科書を読む
	4	輪読1-2：教科書のレジュメ作成と議論	事前：教科書を読む
	5	輪読1-3：教科書のレジュメ作成と議論	事前：教科書を読む
	6	輪読1-4：教科書のレジュメ作成と議論	事前：教科書を読む
	7	輪読1-5：教科書のレジュメ作成と議論	事前：教科書を読む
	8	輪読1のまとめ（ディスカッション）	事後：課題
	9	輪読2-1：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む
	10	輪読2-2：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む
	11	輪読2-3：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む
	12	輪読2-4：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む
	13	輪読2-5：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む
14	輪読2-6：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む	
15	輪読2-7：課題図書レジュメ作成と議論	事前：課題図書を読む	
16	総括	事後：課題	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携！）：井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科 未来を語るために』有斐閣，2017年。 参考書：①松元茂，河野哲也『大学生のための読む，書く，プレゼン，ディベートの方法（改訂第二版）』玉川大学出版部，2015年。 / ②橋本努『学問の技法』筑摩書房，2013年。		
学びの手立て	他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。		
評価	受講態度（グループ・ワークへの貢献度，ゼミ中の発言など）40%，複数回の課題（最終レポート，レポート準備のための課題など）40%，ゼミ生同士の相互評価 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本基礎演習は、前期に引き続き後期に於いても論文・レポートの書き方や文献・資料などの調べ方、プレゼンテーションなど学生として基本的能力を向上させることを目的としている。	メッセージ 講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、テキストは十分読み込んで、実際にレポートがスムーズに書けるように努力してください。
	到達目標 本演習を通して 1. レポート等の文書作成ができるようにする。 2. 日頃から問題を収集することができるようにする。 3. 自ら問題に対して解決策を考えさせるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1 第1週	1. ガイダンス	テーマを見つけ実際に行動する
	2 第2週	2. C I S 行動学による実践的講義Ⅱ (合同ゼミ)	グループによる資料収集
3 第3週	3. C I S 行動学による実践的講義Ⅱ (合同ゼミ)	今後の方針を立てる	
4 第4週	4. グループ別テーマ研究	同上	
5 第5週	5. テーマ研究	同上	
6 第6週	6. テーマ研究	同上	
7 第7週	7. テーマ発表	同上	
8 第8週	8. テーマ研究	同上	
9 第9週	9. テーマ研究	同上	
10 第10週	10. テーマ発表	同上	
11 第11週	11. テーマ研究	同上	
12 第12週	12. テーマ研究	同上	
13 第13週	13. テーマ研究	同上	
14 第14週	14. テーマ研究	同上	
15 第15週	15. テーマ研究	同上	
16 第16週	期末レポート		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト 『知のツールボックス』専修大学出版会 『レポート・論文の書き方入門』慶応義塾大学出版会		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールで連絡してください。 2. 講義では積極的に意見を述べて下さい。 3. C I S 行動学を実践してください。 4. レポートを課すことがあります。		
	評価 評価方法は、 1. 担当割当部分の発表 (30%) 2. 質問すること (10%) 3. 出席状況・授業態度 (20%) 4. 期末レポート (40%) 5. 評価は総合で行う。 6. 欠席が1/3以上を超える者は単位を認定しない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 学んだことを生かせるように、情報収集・論理的思考を持ち自主的に将来に生かせるような科目にすること。
-------	---

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>第1回 オリエンテーション(基礎演習Ⅲの総括) 第2回～第8回 プレゼンテーションと質疑応答①～⑦ 第9回 社会人特別講師による講義 第10回～第14回 プレゼンテーション⑧～⑫ 第15回 まとめ</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>必要に応じて適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>
	<p>評価</p> <p>受講意欲(30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション(40%)、課外学習における貢献度(30%)を総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習ⅠA、ジョブインタビュー入門(共通)、文章表現入門(共通)</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について、一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	ゼミ生どうし親睦を深めるための自主企画も歓迎します。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています

到達目標
レポートなど文書を作成することができる。
論理的に発言することができる。
課題解決のための適切な情報を収集することができる。
自ら考え、行動することができる

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 ガイダンス	
	2	第2週～第3週 CIS行動学による実践的講義Ⅱ（ゼミ合同による）	テーマを見つけ、実際に行動する
	3	第3週～第15週 レポートの発表、テーマ別グループ発表、グループ間ディベートなど	グループによる資料収集など
	4	第16週 後期ゼミの振り返り	3年次の目標を立てる
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局
『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版
『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社

学びの手立て
毎回の出席が重要になる。
ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。
CIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。

評価
出席状況と受講態度、及びレポート、発表内容により総合的に評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目
自ら考え、意見を発表できる基礎力が形成されたことを踏まえ、専門演習でさらにその力を向上させる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	2年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「フェイク・ニュース」という言葉が注目を集めています。何が真実で何がそうでないのか。時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく把握し、その理解に基づき問題・課題を自分の頭で考え、問題・課題に対する自分なりの答えを導き出すことが今日大変重要になってきています。そのため演習Ⅳでは引き続き考える能力を養うことを「ねらい」とします。</p>	<p>礎演習を通じて、知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを獲得することにより、「ケイパビリティ（潜在能力）」を高めて将来の選択肢を増やせるようにしましょう。そのため、ゼミでの勉強だけでなく合宿等の課外活動にも積極的に参加してください。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・経済的に存在する様々な問題・課題を発見し分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。 ・問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。 ・その論理が正しいかどうかを統計等を用いて検証したり、議論の中で確認し、正しければそれにもとづいて問題を解決する方法を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。間違っていることが分かった場合、更なる情報収集・分析・考察を通じて考えることができる。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第1週 オリエンテーション（演習の進め方等） 第2週 調査テーマ・課題等の設定、各自の役割分担等 第3-14週 プレゼンテーションと質疑応答・議論 第15週 まとめ （なお、第3-15週の間合宿を入れ、授業2回分あるいは3回分程度を割り当てる予定）</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>基礎演習では知識等の認知スキルだけでなく、それ以外のやりぬく力、忍耐力、協調性、リーダーシップ、人の話を聞く等の非認知スキルの獲得も重要です。このことを心にとめて積極的に行動するよう心掛けてください。</p>
評価	<p>欠席が3分の1以上の場合は不可とする。 評価は、授業参加度（30%）、プレゼン・課題提出・発言等の認知スキルに関する部分（40%）、リーダーシップ・忍耐力・協調性・やり抜く力・課外学習における諸活動等の非認知スキルに関する部分（30%）により総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>専門演習ⅠA、産業組織論、中小企業論</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本基礎演習は、基礎演習Ⅰ・Ⅱを踏まえ、論文・レポートの書き方や文献、資料などの調べ方、プレゼンテーションの仕方など経済学 科の学生としての基本的能力を育てることを目的とする。また、現実の経済問題について一緒に議論しながら、問題の定義、問題分析の構造化など考える技術を磨く。	メッセージ ゼミ生同士の親睦を 深めながら、切磋琢磨してほしい。この年次では大学生活を有意義に過ごすための動機付けも重要だと考えています。
	到達目標 レポートなど文書を作成することができる。 論理的に発言することができる。 課題解決のための適切な情報を収集することができる。 自ら考え、行動することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1週 ガイダンス 第2週－3週 CIS行動学による実践的講義Ⅱ（ゼミ合同による） 第4週－15週 レポート・論文の書き方、文献の読見方、資料の調べ方
	テキスト・参考文献・資料など 『知のツールボックスー新入生援助集ー』 専修大学出版局 『レポート・論文の書き方入門』 慶應義塾大学出版 『考える技術・書く技術』 ダイヤモンド社
	学びの手立て 毎回の出席が重要になる。 ただ出席するだけでなく、積極的に発言したり他人の意見を聞くようにする。 CIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものである。 これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となる。
	評価 出席状況とレポート、発表により総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習IV	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 基礎演習IIIを踏まえ、グループワークと個人で設定した課題もしくはテーマについて情報収集から分析、発表までを行う。テーマに関してより一層の高い専門知識を求めます。	メッセージ テーマに沿ってグループもしくは個人でも適正な情報収集と分析、さらに発表を行う事で、3年次で行うゼミ論や論述手法を習得することができる。また、学外課題なども積極的に提案して下さい。
	到達目標 演習終了後： 1. 自ら課題を設定し、グループ作業の中で対人関係の構築や学びの喜びを習得することが出来る。 2. 体系的な解決手法を踏まえ、課題解決に向けた思考を身につけることが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業のガイダンス（説明、前期の振り返り等々）	シラバスを読む
	2	テーマ、課題をグループでディスカッション①	各自で関心事項を選択
	3	テーマ、課題をグループでディスカッション②	グループで関心事項を選択・決定
	4	テーマに沿ったグループでディスカッション	グループでディスカッション
	5	テーマに沿ったグループで情報収集	グループでディスカッション
	6	テーマに沿ったグループで分析	グループでディスカッション
	7	テーマに沿ったグループで論点の整理①	グループでディスカッション
8	テーマに沿ったグループで論点の整理②	グループでディスカッション	
9	テーマについての報告・発表①	テーマの報告・発表	
10	テーマについての報告・発表②	テーマの報告・発表	
11	テーマについての課題解決に向けてのディスカッション①	問題解決手法を習得	
12	テーマについての課題解決に向けてのディスカッション②	問題解決手法を習得	
13	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン作成①	アクションプラン作成	
14	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン作成②	アクションプラン作成	
15	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン報告・発表①	アクションプラン発表	
16	テーマについての課題解決に向けてのアクションプラン報告・発表②	アクションプラン発表	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜配布します。 参考資料：問題解決ファシリテーター 堀公俊 やる気の構造 クレイア・コンサルティング 自己評価メソッド クリスト・アンドレ		
	学びの手立て 毎日身の回りで起きている諸問題に関心をもつこと。 その関心から自分の意見を持ち、他者の意見に耳を傾け、議論できることを心がけて下さい。		
	評価 授業態度、提出物、出席、それらを総合的に鑑み、評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目 専門演習IA 専門演習IB
-------	---

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	2年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習Ⅲを踏まえ、グループワークと個人報告を中心に、文献読解と情報分析、プレゼンテーション能力の涵養をはかっていきます。テーマに関してはより専門性の高い内容を求めています。	基礎演習Ⅲから専門性と密度を持った議論を求めます。グループ学習における自らの役割を自覚し、より積極的に演習に参加する必要があります。個々人の能力を高めるため、それぞれがテーマ設定、情報収集、分析、資料作成、報告といった一連の作業が出来るよう相応の準備が必要です。課外活動等も積極的に提案、参加してください。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことが出来る。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー前期、夏休みを振り返って、演習の進め方について	シラバスを読む
	2	報告とディスカッション①	※合同ゼミ
	3	報告とディスカッション②	同上
	4	グループ報告の準備ーグループ分け、テーマ設定	各自関心のあるテーマを探す
	5	グループ報告とディスカッション①	グループ報告の準備
	6	グループ報告とディスカッション②	グループ報告の準備
	7	グループ報告とディスカッション③	グループ報告の準備
	8	個人報告の準備ーテーマ探しと資料収集	個人テーマ探索
	9	個人報告の準備ー文献整理と先行研究整理の方法	資料収集と整理を行う
	10	個人テーマの発表①ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備
	11	個人テーマの発表②ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備
	12	個人テーマの発表③ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備
	13	個人テーマの発表④ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備
14	個人テーマの発表⑤ー文献紹介と論点整理	文献リストの作成と紹介の準備	
15	基礎演習の振り返りと専門演習に向けて	講義の振り返り	
16	※CIT行動学に基づく実践的講義（合同ゼミ）を開催予定（後期前半）		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特に使用しませんが、グループ、個人報告に関する文献、資料等については適宜紹介します。</p> <p>※後期前半に予定している合同ゼミで学ぶCIS行動学とは、C（コミュニケーション）、I（イマジネーション：想像力、発想力）、S（センス：感性、着想力）を鍛え、自ら考え行動することができることを目指すものです。これは外部からの講師を迎え、複数のゼミの合同での講義となります。</p>		
学びの手立て	<p>○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。担当を決め、新聞記事等の報告を行います。自ら学ぶ姿勢と考える習慣を身につけ、他者と意見を交換する絶好の機会として捉えてください。</p> <p>○学びを深めるために 自ら課題を探していくことが求められます。日ごろから経済ニュース、時事問題に関心を持ち、自らの考えを持つように心がけてください。</p>		
評価	<p>出席を重視し、演習内での課題提出、発表により総合的に評価します。</p> <p>主体性を求めるため、演習での意見や議論への積極的な参加が評価のポイントとなります。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>【関連科目・次のステージ】 専門演習ⅠA、専門演習ⅠB</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①コミュニケーション力 ②社会全般に関する知見を広げる力 ③現状を分析する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	2年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、グループ研究を通じて、情報の探索、課題の考察・整理、論理的な展開などの方法、集団で物事を進めることの重要性を学びます。グループ研究では、与えられた課題について、問題の設定、調査・研究、発表を行い、討議していきます。社会現象に対する見方・考え方を向上させることは、レポート・論文を書く能力・スキル、社会に通じる基本的能力を高めることにつながります。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業で取り上げるテーマに関連した経済社会現象を発見し、そこで生じている問題を客観的かつ多面的に分析することができる。 2. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べるができる。 3. グループ・ワークにおいて、役割分担して、設定したテーマについて考察し、プレゼンテーションすることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	グループ研究の作成指導① 課題テーマの発表・文献の読み方・グループの決定	文献を要約し、関連事項を調べる
	3	グループ研究の作成指導② 課題の設定・リサーチクエストを考える	課題関連事項を調べる
	4	グループ研究の作成指導③ リサーチクエストの絞り込み・仮説を立てる	課題関連事項を調べる
	5	グループ研究の作成指導④ 情報の探索・入手	リストを作成し、情報を入手する
	6	グループ研究の作成指導⑤ 入手した情報の取捨選択・整理	情報を読解し、整理する
	7	グループ研究の作成指導⑥ リサーチクエストの確認・修正・アウトラインの作成	情報を読解し、整理する
	8	グループ研究の作成指導⑦ アウトラインの決定・発表資料の作成	アウトラインを作成する
	9	グループ研究の作成指導⑧ 発表資料の作成	発表資料を作成する
	10	グループ研究の作成指導⑨ 発表資料の作成	発表資料を作成する
	11	グループ研究の作成指導⑩ 問題提起と結論の対応・論理一貫性の確認 発表資料の作成	発表資料を作成する
	12	グループ研究発表① PPTを使用したプレゼンテーション	発表資料の完成・発表の準備
	13	グループ研究発表①の講評・グループ研究発表②の進め方・グループ研究発表②の準備	発表資料を作成する
14	グループ研究発表②の準備：ポスターの作成	発表資料を作成する	
15	グループ研究発表② ポスターを使用したプレゼンテーション・グループ研究発表②の講評	発表資料の完成・発表の準備	
16	総括		
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用しません。 参考文献は授業で適宜紹介します。		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】		
	・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。		
	・この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみなさんにも、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気貢献してください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。		
	【学びを深めるために】		
	・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、様々な時事問題に関心を持ってほしいと思います。		
	評価		
	・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。		
	・「グループ研究発表」（準備を含む）60%、「グループ・ワークにおける貢献度」20%、発言など授業での「平常点」20%で評価します。		
	・到達目標1、2は「グループ研究発表」「グループ・ワークにおける貢献度」「平常点」のそれぞれにおいて、到達目標3は「グループ研究発表」「グループ・ワークにおける貢献度」で確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」は、3年次の「専門演習ⅠA」「専門演習ⅠB」の先修科目として位置づけられています。2年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 ・「基礎演習Ⅲ」「基礎演習Ⅳ」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅳ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	2年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献等の講読を通じて経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、グループ調査・ディベート等を行うことでプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の動きを論理的に説明できる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義説明、基礎演習Ⅳの目標設定、アンケート等 -	
	2	大学生活に関する自己評価① - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の自己評価
	3	大学生活に関する自己評価② - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の自己評価
	4	大学生活に関する自己評価③ - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -	大学生活の自己評価
	5	沖縄経済に関するグループ調査① - テーマ選定、グループ分け、構成案等の検討 -	グループワーク
	6	沖縄経済に関するグループ調査② - データ収集、調査等 -	グループワーク
	7	沖縄経済に関するグループ調査③ - データ収集、調査等 -	グループワーク
	8	グループ調査中間報告 - 目次、構成案、問題意識、予想される結論等 -	グループワーク、資料作成
	9	沖縄経済に関するグループ調査④ - パワーポイント資料作成等 -	グループワーク、資料作成
	10	沖縄経済に関するグループ調査⑤ - パワーポイント資料作成等 -	グループワーク、資料作成
	11	グループ調査報告① - パワーポイントを用いた報告 -	グループワーク、資料作成
	12	グループ調査報告② - パワーポイントを用いた報告 -	グループワーク、資料作成
	13	レポートの書き方① - グループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出 -	指定文献の精読
	14	レポートの書き方② - グループ調査、個人報告等を踏まえて、今後の課題を抽出 -	指定文献の精読
15	講義のまとめ①		
16	講義のまとめ②		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。		
	学びの手立て 沖縄県経済に関する文献・レポートに目を通しておくこと。		
	評価 講義姿勢 (50%)、提出物 (50%) で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅠA
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	キャリアデザイン論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業から与えられたミッション（課題）に対して、グループに分かれて作業を分担し、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。したがって、プレゼン力、コミュニケーション力が養われ、本格的な就職活動に向けて、自分に相応しい職業や進路を見出すきっかけとなることができる。	メッセージ この講義は PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）形式の講義である。PBLとは、「課題解決型授業」のことで、通常の座学中心の講義とは一線を画するものである。時間外に会社訪問や打ち合わせ等あり、大変ではあるが、企業の方も学生への課題解決のため協力してくれる。講義を通して社会人との交流が深まる。大学生活をもっと積極的にしたい人向け。
	到達目標 自ら課題を見つけ、解決するための行動を起こすことができる。 仲間と一緒に考えたり、自分の意見を言うなどのコミュニケーション力がつく。 自らの言葉で発表することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスをよく読むこと
	2	チームづくりと1シート企画	企画提案のしかた
	3	企業からのミッション	ミッションに対する解決法を考える
	4	チームワークとCIS	チームメンバーをよく知る
	5	課題解決（1）～企業ミッションと課題を探る～	ミッションに対する解決法の検討
	6	課題解決（2）～課題解決のアプローチ方法～	企業訪問・インタビューなど、打ち合わせや情報収集を行う
	7	課題解決（3）～ユニーク発想法～	同上
	8	課題解決（4）～提案の事業プランの作り方～	同上
9	中間プレゼンテーション	企画書の検討	
10	プレゼンテーション技術基礎～プレゼン本番に向けた企画書のブラッシュアップ～	同上	
11	課題解決（5）	同上	
12	課題解決（6）	発表の事前練習	
13	プレゼン本番前リハーサル	本番に向けた準備と練習	
14	プレゼン本番	提案に対する事後評価	
15	各チーム企画提案書の振り返り	自身の行動指針を立てる	
16	自身の学びの振り返り		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にな 講義時にプリント等を配る。		
	学びの手立て 出席を重視する。 講義のねらいをしっかりと自覚し、積極的に発言、チーム活動に参加すること。 チームとしての活動が中心になるので、チームリーダー及びメンバーの役割分担が重要になる。 社会人との交流もあるので、社会人としてのマナーを守ることを心がけること。 3大学（沖国大、琉大、女子短大）合同プレゼン大会も予定しており、他大学との競合を通してプレゼン力に磨きをかけることができる。2017年度は、沖国大のグループが最優秀賞をもらった。		
	評価 出席、グループワークの進め方、プレゼンの結果を総合的に勘案して評価する。 出席と毎回提出するリアクションペーパー（80点） プレゼン結果（20点）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自らの行動力や課題解決力が高まっているので、目的を持って専門科目等をとることができる。また、学外活動も積極的に行う。 就職活動に対しても積極的に取り組むことができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、特定業界を事例に取り上げながら、企業とは何か、経営とは何かなどを考えることが目的である。また、大企業や中小企業、経営組織や経営戦略、経営の歴史や現状など幅広く経営学の入門科目として講義する。	メッセージ 1)経営学Ⅱを履修する前提で経営学Ⅰを履修すること。 2)起業、企業、経営の用語の意味を理解することが大切である。
	到達目標 1)企業の有する社会性と経済性について理解できる。 2)情報の非対称性の意味が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）	講義ノートの点検
	2	経営学とは何か？	配布資料の精読、講義ノートの点検
	3	規制緩和と企業経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	4	食品企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	5	タバコ企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	6	通信企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	7	道路関係企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	8	中間試験	
	9	戦争ビジネス① - 軍産複合体を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検
	10	戦争ビジネス② - 戦争の民営化を考える -	配布資料の精読、講義ノートの点検
	11	電力企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	12	醸造企業の経営	配布資料の精読、講義ノートの点検
	13	企業経営の理解	配布資料の精読、講義ノートの点検
	14	企業の社会的責任	配布資料の精読、講義ノートの点検
	15	経営学Ⅰのまとめと質疑応答	配布資料の精読、講義ノートの点検
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など 日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年 学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。		
	学びの手立て ①履修の心構え 出席するだけでは単位の修得にはつながらない。講義ファイルの予習・復習に取り組むこと。 ②講義レジュメ 講義レジュメは各自で指定サイトからダウンロードすること（講義開始時に指示する）。 ③学びを深めるために 私たちの生活に企業の存在は欠かせない。アルバイトや日頃の生活から企業の存在を理解してほしい。		
	評価 小テスト(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自己表現入門、ジョブインタビュー入門ならびにキャリア・デザイン（いずれも共通科目）、経営学Ⅱ、理論と実証双方から企業を対象とする学問全般。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	2年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、「経営学Ⅰ」の応用科目と位置づける。大企業や中小企業の経営を基礎に、昨今、一部の企業で取り組まれている社会的企業、ソーシャルビジネス、さらには貧困ビジネスやブラック企業などについて触れ、企業の形態や社会貢献の相違などを比較しながら、企業とは何か、経営とは何かという課題に理解を深めていく。	1) 起業、企業、経営の用語の意味を理解することが大切である。 2) 経営学Ⅰを履修した者のみ経営学Ⅱの履修を認める。
到達目標	1) 継続事業体としての企業が理解できる。 2) ソーシャルビジネスの意味が理解できる。 3) 各地に存在する企業の取り組みが理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義の説明と評価の方法について）	リアクションペーパー（RAP）提出
	2	企業の目的、組織、形態	RAP提出、資料精読
	3	ビジネスを理解するための用語解説	RAP提出、資料精読
	4	社会貢献ビジネス	RAP提出、資料精読
	5	社会的企業と公益事業	RAP提出、資料精読
	6	データ比較による企業分析	RAP提出、資料精読
	7	労働と企業	RAP提出、資料精読
8	中間試験		
9	企業の変遷	RAP提出、資料精読	
10	ベンチャービジネスとは何か？	RAP提出、資料精読	
11	社会的排除と経営学の役割	RAP提出、資料精読	
12	貧困ビジネス、ブラック企業（ブラックバイト）の現状と課題そして対策	RAP提出、資料精読	
13	企業の本質	RAP提出、資料精読	
14	社会的企業とNPO	RAP提出、資料精読	
15	経営学Ⅱのまとめと質疑応答	RAP提出、資料精読	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	日本比較経営学会編『会社と社会』文理閣、2006年 学習に必要な文献は、適宜講義中に指示する。		
学びの手立て	①履修の心構え 出席するだけでは単位の修得にはつながらない。講義ファイルの予習・復習に取り組むこと。 ②講義レジュメ 講義レジュメは各自で指定サイトからダウンロードすること（講義開始時に指示する）。 ③学びを深めるために 私たちの生活に企業の存在は欠かせない。アルバイトや日頃の生活から企業の存在を理解してほしい。		
評価	小テスト(50%)＋試験(中間25%＋期末25%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 自己表現入門、ジョブインタビュー入門およびキャリア・デザイン（いずれも共通科目）、理論と実証双方から企業を対象とする学問全般。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学史 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済学がどのように成立したかを知ることは、経済学を理解するために役立つ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ることによって、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	イントロダクション～経済とは？経済学とは？	事後課題に取り組む。
	3	経済学成立の背景1：資本主義と産業革命	事後課題に取り組む。
	4	経済学成立の背景2：ジョン・ロック	事後課題に取り組む。
	5	経済学の産声1：アダム・スミスと道徳哲学	事後課題に取り組む。
	6	経済学の産声2：市場社会の基礎理論	事後課題に取り組む。
	7	古典派の経済学者たち1：リカード	事後課題に取り組む。
	8	古典派の経済学者たち2：マルサス	事後課題に取り組む。
	9	古典派の経済学者たち3：J. S. ミル	事後課題に取り組む。
	10	カール・マルクスの経済学	事後課題に取り組む。
	11	限界革命：新古典派経済学への道	事後課題に取り組む。
	12	限界革命トリオの経済学	事後課題に取り組む。
	13	新古典派経済学1：マーシャルと経済成長	事後課題に取り組む。
	14	新古典派経済学2：マーシャルと進化論	事後課題に取り組む。
15	まとめ	事後課題に取り組む。	
16	期末試験	全講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：江頭進『はじめての人のための経済学史』（経済学叢書Introductory) 新世社，2015年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験40%，複数回の事後課題（ミニレポートなど）40%，受講態度（グループワークへの参加など）30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史IIでは、この時代以降を扱う。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学史Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	2年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済学史Ⅰに引き続き、経済学がどのように成立したかを学ぶ。さらに、その理論がうみだされた歴史的背景を知ること、経済学が社会の問題と関わって発展してきたことを理解してほしい。なお、本講義は経済学史Ⅰを受講済みであることを前提として進める。	メッセージ ・前期開講の経済学史Ⅰを受講済みであることを前提に講義を行うため、前期を受講した上での履修を強く勧めます。 ・知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 経済学の理論の背景にある考え方、さらに、その理論が生まれた時代や社会の状況を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読む
	2	イントロダクション～経済学史Ⅰの復習	事後課題に取り組む。
	3	ソーステイン・ヴェブレン1：進化論と経済学	事後課題に取り組む。
	4	ソーステイン・ヴェブレン2：もの作り本能と競争心	事後課題に取り組む。
	5	ソーステイン・ヴェブレン3：顕示的消費	事後課題に取り組む。
	6	ジョン・メイナード・ケインズ1：ケインズ経済学とは	事後課題に取り組む。
	7	ジョン・メイナード・ケインズ2：経済政策～国家と国民	事後課題に取り組む。
	8	フリードリッヒ・ハイエク1：経済理論	事後課題に取り組む。
	9	フリードリッヒ・ハイエク2：社会観・人間観	事後課題に取り組む。
	10	ミルトン・フリードマン1：実証主義へのこだわり	事後課題に取り組む。
	11	ミルトン・フリードマン2：自由論	事後課題に取り組む。
	12	グループ・ワーク：自由主義について考える	事後課題に取り組む。
	13	ゲーム理論と経済学	事後課題に取り組む。
	14	経済学の未来	事後課題に取り組む。
15	まとめ	全講義の復習	
16	期末試験	全講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト（必携）：江頭進『はじめての人のための経済学史』（経済学叢書Introductory)新世社，2015年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験40%，複数回の事後課題（ミニレポートなど）40%，受講態度（グループワークへの参加など）30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学特別講義Ⅰ（経済理論及び政策）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高橋 豊治	2年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 資産運用・投資信託など知っているようで学んだことのない分野を理解する。	メッセージ 資産運用とは何かきちんと説明できますか？ 投資信託を勧められたとき、何を基準に判断すればいいのでしょうか？ バイト代・お年玉を預金しておくことは賢い行動でしょうか？ 講義を通して考えていきます。
	到達目標 資産運用・投資信託の内容を理解する。 金融業界における専門用語を理解する。 資産運用・投資のパフォーマンス評価について基準を理解し、投資判断力を育成する。	

学びの準備	到達目標 資産運用・投資信託の内容を理解する。 金融業界における専門用語を理解する。 資産運用・投資のパフォーマンス評価について基準を理解し、投資判断力を育成する。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	投資のリターンとリスク	
	3	データによる分析(1)	
	4	ポートフォリオのリスクとリターンの関係	
	5	データによる分析(2)	
	6	最適ポートフォリオの決定メカニズム	
	7	最小分散ポートフォリオ、マーケットモデル	
	8	CAPMとその利用方法	
	9	中間テスト	
	10	時間価値	
	11	株式評価モデル(1)	
	12	株式評価モデル(2)	
	13	債券の種類と各種債券利回り	
	14	債券の価格変動リスク	
	15	最終テスト	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指示する
-------	----------------------------

学びの実践	学びの手立て 遅刻禁止 授業内に小テストあり
-------	------------------------------

学びの実践	評価 出席・小テスト・中間テスト・最終テスト
-------	---------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 「証券市場論Ⅰ」証券市場論Ⅱ「金融論Ⅰ」「金融論Ⅱ」
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学特別講義Ⅱ（国際経済）	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-橋本 理	2年	授業終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、①NPOや社会的企業に注目が集まる背景は何か、②NPOや社会的企業に関する今日の動向はどのようなものであるかについて、理論と現実の双方から理解することを目的とする。</p>	<p>地域の産業経済や福祉の担い手として注目を集めているのが、NPOや社会的企業といった新たな事業主体である。これらの事業主体は従来型の企業とはどのような違いがあるのか。また、政府や行政機関との違いはどのような点にあるのか。講義を通じてこれらの課題に取り組むので、受講者は各自、問題意識を持って講義にのぞむこと。</p>
到達目標	<p>1. NPO論・社会的企業論の基本的な論点について理解する。 2. NPO・社会的企業の具体的な実践事例やそれに関わる社会課題・施策等の現実の動きについて知る。 3. 現代の産業社会が抱える矛盾との関わりから、NPOや社会的企業の今日的意義と、その課題について理解する。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスを熟読する
	2	NPOとは？①—NPO台頭の背景	紹介した事例に関する理解を深める
	3	NPOとは？②—福祉国家の変遷とサードセクター	紹介した事例に関する理解を深める
	4	NPOとは？③—国・企業とNPOの役割	紹介した事例に関する理解を深める
	5	NPOとは？④—事業化するNPO、コミュニティビジネスの台頭	紹介した事例に関する理解を深める
	6	NPOとは？⑤—様々な定義と法人制度	定義・法制度の内容を整理する
	7	NPO法人の実態—福祉系NPOを中心に	法制度の内容を整理する
	8	NPOの存在意義に関する理論	関連用語の理解を深める
	9	ホームレス問題、貧困問題と困窮者支援	紹介した事例に関する理解を深める
	10	ホームレス問題とNPOの役割	紹介した事例に関する理解を深める
	11	社会的企業の実践事例	紹介した事例に関する理解を深める
	12	転換期を迎えた福祉国家政策—福祉と就労	紹介した事例に関する理解を深める
	13	社会的企業とは何か	関連用語の理解を深める
	14	社会的企業における就労	関連用語の理解を深める
15	まとめ	講義内容全体を整理する	
16	期末試験		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しない。講義用プリントを配布する。参考文献は以下のとおり（講義時にも適宜指示する）。</p> <p>橋本理 『非営利組織研究の基本視角』 法律文化社、2013年 中山徹・橋本理 編 『新しい仕事づくりと地域再生』 文理閣、2006年 田尾雅夫・吉田忠彦 『非営利組織論』 有斐閣、2009年 小松章 『企業形態論〔第3版〕』 新世社、2006年</p>
----	--

学びの手立て	<p>受講に際しては、経済や経営に関する基礎的な用語について関連の講義やテキストによって学習しておくこと。事例を多く紹介するので、各自、興味を持った事柄について関連の文献やインターネットなどで情報収集し、事例に関する理解を深めること。参考文献にあげた図書、授業時に紹介する文献などに触れることにより、学習を深めること。</p>
--------	---

評価	<p>「平常点40%+期末試験60%」（平常点=講義時にミニレポートを課す。講義内容について理解度を確認する。その評価点。）（期末試験は以下の3点から評価する。1. NPO論・社会的企業論の基本的な論点について理解できているか、2. NPOや社会的企業の活動事例（その意義と課題）を説明できるか、3. NPOや社会的企業といった概念が注目を集めるようになった理由を、現代社会が抱える矛盾との関わりから説明できるか。）</p>
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学入門	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学の入門的な内容について学習する。経済学科の専門科目担当者がそれぞれの分野について入門的内容をかみ砕いて講義する。この講義をとおして、経済学とはどのような分野なのかを直感的に理解してもらいたい。多くの学生が経済学に関心を持てるようになることが本講義の目的である。	メッセージ マクロ経済学A B・ミクロ経済学A B等の科目において、授業で得た知識は役に立ちます。
	到達目標 経済学とはどのような学問なのかを理解する。 経済学に対する興味・関心の向上。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス（講義計画、成績評価方法について）（安藤）
	2	入門・ファイナンシャルプランニング（安藤）
	3	入門・日本経済論（湧上）
	4	入門・経営学（村上）
	5	入門・創造産業と経済学（浦本）
	6	入門・労働経済学（名嘉座）
	7	入門・地域経済（平敷）
	8	入門・企業と産業の経済学（宮城）
学びの実践	9	入門・計量経済学（金城）
	10	入門・経済地理（崎浜）
	11	入門・国際経済（新垣）
	12	入門・企業分析（安藤）
	13	入門・財政学（長嶋）
	14	入門・経済学史・経済史（生垣）
	15	入門・公共経済学（比嘉）
	16	総括・レポート（安藤）
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 沖縄国際大学経済学科編(2014)「沖縄経済入門」東洋企画	
学びの実践	学びの手立て 本科目で経済学のイメージを理解した上で、今後日本経済、アジア経済、グローバル経済へと繋げていく。	
学びの実践	評価 レポートの水準・提出状況、授業態度、講義中の発言などを総合的に評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 マクロ経済学A B、ミクロ経済学A B、経済学科の各専門科目
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済史入門	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済という切り口で世界や日本の歴史を学ぶことで、経済学そのものの理解を促すことをねらいとする。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるために個人ワークやグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 世界史における経済に関する知識および戦後の日本経済史を学ぶことにより、経済や経済学に関する知識を深めることができる。	

学びの準備	ねらい 経済という切り口で世界や日本の歴史を学ぶことで、経済学そのものの理解を促すことをねらいとする。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるために個人ワークやグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 世界史における経済に関する知識および戦後の日本経済史を学ぶことにより、経済や経済学に関する知識を深めることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	シラバスを読んでおく
	2	イントロダクション：経済とは何か？	事前：教科書を読む，事後：課題
	3	世界の経済史1：古代から中世	事前：教科書を読む，事後：課題
	4	世界の経済史2：近代（産業革命期のイギリス）	事前：教科書を読む，事後：課題
	5	世界の経済史3：資本主義の発展	事前：教科書を読む，事後：課題
	6	世界の経済史4：アメリカ経済の発展	事前：教科書を読む，事後：課題
	7	世界の経済史5：20世紀の世界経済	事前：教科書を読む，事後：課題
	8	世界の経済史～まとめ	事前：教科書を読む，事後：課題
	9	日本の経済史1：「豊かさ」と日本経済	事前：教科書を読む，事後：課題
	10	日本の経済史2：第二次大戦後の復興	事前：教科書を読む，事後：課題
	11	日本の経済史3：「戦後は終わった」とは何か	事前：教科書を読む，事後：課題
	12	日本の経済史4：高度経済成長の意味	事前：教科書を読む，事後：課題
	13	日本の経済史5：経済大国としての日本	事前：教科書を読む，事後：課題
	14	日本の経済史6：バブル経済とその後	事前：教科書を読む，事後：課題
	15	日本の経済史～まとめ	事前：教科書を読む，事後：課題
16	期末試験	全講義の復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：橋本寿朗『戦後の日本経済』（岩波新書）岩波書店，1995年。 （世界の経済史に関しては，資料を配布する。）
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：橋本寿朗『戦後の日本経済』（岩波新書）岩波書店，1995年。 （世界の経済史に関しては，資料を配布する。）
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：橋本寿朗『戦後の日本経済』（岩波新書）岩波書店，1995年。 （世界の経済史に関しては，資料を配布する。）
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学史Ⅰ，経済学史Ⅱ，西洋経済史Ⅰ，西洋経済史Ⅱ，日本経済史Ⅰ，日本経済史Ⅱ
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 経済社会学	期別 後期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 平敷 卓	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ t.heshiki@okiu.ac.kp	

学びの準備	ねらい 現代の社会問題を経済学的視点から考察し、どのような解を提示できるのか考える機会を提供します。講義前半では、資本主義の発展過程とそこで生じてきた経済社会問題、それに対応する国家の姿を捉えます。講義後半では具体事例（貧困問題等）を取り上げながら、それらを解決するための経済学的な考え方とアプローチを学びます。	メッセージ 貧困や格差といった現代の経済社会問題に興味や関心、問題意識を持っている人に履修をお勧めします。具体事例を交えながら現代の福祉や社会保障のあり方、今後の展望について考えていきます。
	到達目標 ①現代資本主義国家の成り立ちについて学び、第二次大戦後の福祉国家の形成と変遷について理解する。 ②経済政策としての社会保障制度や福祉政策が果たしてきた役割や意義を理解する。 ③少子高齢化、貧困、労働問題といった現在日本が抱える問題に対し、課題設定し、解決方策について自らの考えを持つ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	人間と社会と自然—経済と社会の関係	参考文献①、②を読む
	3	ポリティカル・エコノミーとは？	参考文献①、②を読む
	4	資本主義の生成と発展	参考文献③を読む
	5	資本主義と現代の国家①	参考文献③を読む
	6	資本主義と現代の国家②	参考文献③、④、⑤を読む
	7	福祉国家とその変容①	参考文献④、⑤を読む
	8	福祉国家とその変容②	参考文献④、⑤を読む
	9	講義前半のまとめ-資本主義の発展と福祉国家の登場	講義前半の振り返り
	10	日本型福祉国家とその特徴（※小テスト）	参考文献④を読む
	11	福祉国家の転換と展望-労働政策と社会保障制度	参考文献④を読む
	12	資本主義国家と労働政策の展開	参考文献①、②を読む
	13	日本の労働問題—派遣・非正規労働	参考文献④を読む
	14	日本の社会保障政策-雇用保険、生活保護制度	貧困・格差問題を調べる
	15	講義後半のまとめ	講義後半の振り返り
	16	期末テスト	講義のまとめ
	テキスト・参考文献・資料など		
	<p>テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用して下さい。他、必要に応じ講義中適宜提示します。</p> <p>【参考文献・資料】①宇仁宏幸他「入門社会経済学【第2版】」ナカニシヤ出版、②若森章孝他著（2007）『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房、③田代洋一他（2011）『現代の経済政策【第4版】』有斐閣ブックス、④林建久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会、⑤G. エスピン-アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房</p>		
	学びの手立て		
	<ul style="list-style-type: none"> ○履修の心構え 講義時間中の私語、スマホ利用、遅刻などは厳禁です。毎回、出欠確認を行います。講義に関する質問や意見を求めるため講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 現代国家が抱える課題に関し、経済政策の理念と政策手段の変化を追っていきます。福祉国家論、社会保障に関する講義をあわせて履修することを勧めます。 		
	評価		
	<ul style="list-style-type: none"> ○平常点（15%） 小テスト（25%） 期末テスト（60%） ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。 ○平常点（フィードバックペーパー）により到達目標の③を評価、小テスト、期末テストにより到達目標の①、②、③を総合評価します。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>本講義では、現代の労働問題と労働政策、福祉国家と財政、社会保障制度に関する問題を扱います。次の関連科目を履修し、理解を深めることを勧めます。</p> <p>【関連科目と次のステージ】 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、福祉国家論、社会保障論</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報処理 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	3年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>現在では、パソコンを駆使しインターネットを自由自在に使うことで、様々な情報を集めたりすることが当たり前になってきている。本講義では、経済の研究、調査・研究のため統計データの分析の基礎を学ぶ。</p>	<p>今日大量のデータが社会にあふれているなかで、そこから論文を含め、様々なデータを収集してまとめて、分析することは重要であると思います。統計学 I もしくは統計学 II などを履修していることが望ましいが履修していない場合でも簡単な統計の解説なども行いたいのでわからない場合は適宜、質問してください。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論文などのデータの構成を理解する 2. 統計に関連する基礎を理解する 3. エクセルやRなどのソフトウェアの利用に慣れることができる
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済に関連する質的データと量的データ 2. 論文などデータの収集 (論文の構成) 3. 論文などデータの収集 (論文要約) 4. 論文などデータの収集 (プレゼン作成) 5. 論文などデータの収集 (関連のサーベイ) 6. まとめの発表 7. 統計データの基礎 (データ収集) 8. 統計データの基礎 (記述統計 / 平均値の差の検定) 9. 統計データの基礎 (回帰分析) 10. 統計データの基礎 (重回帰分析) 11. まとめの発表 12. 統計データの応用 (R入門) 13. 統計データの応用 (多変量解析の基礎) 14. レポート作成 (データ収集) 15. レポート作成 (分析) 16. 最終発表
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>里村卓也, 金明哲 (編集) 「マーケティング・サイエンス」 共立出版 (2010)</p> <p>椿広計 岩崎正和 「Rによる健康科学データの統計分析」 朝倉書店 (2013)</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な概説をしたあとに演習をして実際に計算を行うので、毎回出席することが重要。 ・またノート毎回を取ること
	<p>評価</p> <p>レポート (3割) 及び出席にかわる毎回の課題提出 (7割) を総合的に評価する。全体の3分の1を欠席すると不可とします。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>数学 I や統計学 I で統計の基礎について学ぶので参考にするとよい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済情報処理Ⅱ	後期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	3年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>現在では、パソコンを駆使しインターネットを自由自在に使うことで、様々な情報を集めたりすることが当たり前になってきている。本講義では、経済の調査・研究のためインターネットとコンピュータを活用してデータを加工・分析する方法を学ぶ。具体的には、回帰分析や分散分析、因子分析を学んだあとに、経済統計によく用いられる時系列分析などの方法について学ぶ。</p>	<p>今日大量のデータが社会にあふれているなかで、そこからデータを収集して分析することは重要であると思います。統計学Ⅰもしくは統計学Ⅱなどを履修していることが望ましいが履修していない場合でも簡単な統計の解説なども行いたいのでわからない場合は適宜、質問してください。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データをみずから収集できるようになる 2. エクセルやRなどのソフトウェアの利用に慣れることができる 3. 収集したデータをもとに統計分析（記述統計・推測統計の基礎）ができるようになる 	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本統計量、ヒストグラム、相関係数の算出とRの導入 2. 回帰分析（回帰モデルの考え方） 3. 回帰分析（単回帰モデルと重回帰モデルの構築と推計） 4. 分散分析Ⅰ（分散分析の考え方） 5. 分散分析Ⅱ（1要因による分散分析と2要因による分散分析） 6. 因子分析によるデータ解析（因子分析の考え方） 7. 因子分析によるデータ解析（データを用いた推計） 8. Rによる時系列データの扱い 9. 時系列データを用いた回帰分析（考え方と推計） 10. 定常時系列分析（時系列モデルの考え方と自己相関） 11. 定常時系列分析（ARモデル、MAモデル、ARIMAモデル） 12. 非定常時系列分析（ARCHモデルとGARCHモデル） 13. 多変量時系列分析（VARモデル） 14. 共分散分析（単位根と共積分） 15. まとめとレポートの解説 16. 質問
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特に使用しない。その都度、資料等を配布する</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な概説をしたあとに演習をして実際に様々なデータの処理を行うので、毎回出席することが重要です。 ・実行中にエラーがでますが、なるべく自分で対応することで実力がつきます。それでも分からない場合は、質問してください。
	<p>評価</p> <p>提出物（論文・レポートなど）、出席回数</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済情報処理Ⅰで上記のような分析以外の様々な統計学的手法を扱うので合わせて履修するとよい。また、計量経済学など経済により密接に関連する分野もあります。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1 年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、消費者や企業の意思決定など経済学の様々な場面で利用されている「最適化」について学びます。そのため基礎となる微分について復習を前半で行います。後半でこれらを用いて最適化問題を解いていきます。演習を通じて個別にフォローします。</p>	<p>微分積分などの基礎から、最適化までを扱います。高校数学を復習しておくとうい。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微積分を理解する 2. 微積分を社会にどのように応用するかを理解する
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 集合論・関数の復習 3 微分積分の復習 4 微分積分：微分と関数の極値 5 微分積分：関数の展開 6 微分積分：不定積分・定積分 7 微分積分：偏微分 8 微分積分：テーラーの公式と極値 9 微分積分：ベクトル微分と条件付き極値問題 10 中間テスト 11 最適化：目的関数、凸関数、凹関数 12 最適化：古典的方法 13 最適化：ラグランジュ未定乗数法 14 最適化：非線形計画法 15 動学最適化の紹介：まとめ 16 レポート
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>A. C. チャン, K. ウェインライト「現代経済学の数学基礎<上><下>」シーエーピー出版; 第4版 西村清彦「経済学のための最適化理論入門」東京大学出版会</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回板書をするので、それを各自ノートに記載してください。 ・ 毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。
	<p>評価</p> <p>平常点としてノートのチェックをします。(50%) また、途中で行う課題・テストによって判定します。(50%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済数学 2 が続きの科目になります</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済数学Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	1年	keita.kinjo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、今日の経済学を考えるうえでは欠かせない、個人の意味決定の理論および、複数の個人・企業の意味決定の理論としてゲーム理論の数理、さらに動学的な最適化を学びます。それぞれ問題や事例を取り上げて説明していきます。</p>	<p>数学的に難しいことはあまり扱わないので、適宜わからないことがあれば質問してください</p>

学びの準備	到達目標
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 意思決定に関する数理について理解する 2. ゲーム理論の基礎について理解する

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2 意思決定：バイアス 3 意思決定：確率と統計、リスク下の意思決定 4 意思決定：不確実性下の意思決定 5 ゲーム理論：ゲーム理論とは 6 ゲーム理論：非協力ゲーム・戦略形ゲーム、 7 ゲーム理論：非協力ゲーム・ナッシュ均衡 8 ゲーム理論：非協力ゲーム・展開ゲーム、チェーンストアパラドックス、繰り返しゲーム 9 ゲーム理論：不完全情報ゲーム、協力ゲーム 10 動学最適化：微分の復習 11 動学最適化：積分 12 動学最適化：微分方程式 13 動学最適化：連立微分方程式 14 動学最適化：動学最適化の基礎 15 最終レポート：動学最適化 16 質問
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>武藤滋夫「ゲーム理論入門」日経新聞社</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回板書をするので、それを各自ノートを記載してください。 ・毎回、そのノートに課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。
	<p>評価</p> <p>平常点としてノートのチェックをします。(50%) また、途中で行う課題・テストによって判定します。(50%)</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ミクロ経済学、マクロ経済学、理論経済学などに関連します</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み解く能力を養う。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済政策総論Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、「成長」、「安定」、「分配」をキーワードに、政府が実施する経済政策の理論的根拠を学びつつ、実際の経済政策の効果を検証する。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 現実の経済社会の動きを経済学の理論を使って説明できる能力を養う。	

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション - 講義の進め方、本講義のキーワード、講義アンケート -	
	2	日本経済概観 - データでみる日本経済、地域経済 -	経済統計に関する予習
	3	幸福と経済 - GDPと幸福度、経済力と人間開発指数、国民総幸福量のはなし -	経済統計に関する予習
	4	経済政策の目標 - 経済政策を動かす主役、経済政策の3つの柱 -	経済理論の復習
	5	成長政策① - 成長政策の基本的な考え方：資本、労働、技術 -	参考文献の精読
	6	成長政策② - 市場の機能、競争政策、市場の失敗への対応 -	参考文献の精読
	7	安定化政策① - 安定化政策の基本的な考え方：財政政策と金融政策 -	参考文献の精読
	8	安定化政策② - 財政政策：有効需要の原理、財政再建と経済成長 -	参考文献の精読
学びの実践	9	安定化政策③ - 金融政策：中央銀行の役割 -	参考文献の精読
	10	再分配政策① - 再分配政策の基本的な考え方 -	参考文献の精読
	11	再分配政策② - セーフティネットとしての再分配政策、わが国の社会保障制度の課題 -	参考文献の精読
	12	再分配政策③ - わが国の再分配政策：諸外国との比較（所得格差、社会保障負担等） -	参考文献の精読
	13	地域経済と政策① - 地域政策の目的、国と地方の財政関係、公共投資と地域経済 -	地域経済に関する文献の精読
	14	地域経済と政策② - 沖縄の振興開発と中央政府の地域政策 -	沖縄経済に関する文献の精読
	15	本講義のまとめ、期末テスト説明	
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ（パワーポイント資料）を配布する。 井堀利宏（2003）『経済政策』新世社 飯田泰之（2010）『ゼロから学ぶ経済政策』角川書店		
	学びの手立て 日頃から経済新聞等に目を通しておくこと。		
	評価 期末テスト（60%）、レポート（20%）、小テスト（10%）、講義態度（10%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、財政学
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakhma@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することを目的としている。経済地理 I では、古典的な経済立地に関する諸理論の概要を通して、経済地理学の研究方法与視角、さらに諸産業（農業・工業）などの立地特性について検討する。	メッセージ ・経済地理学の理論と実際について、わかりやすく講義します。
	到達目標 ・経済立地論の基本的概念を理解する。 ・世界・日本における経済立地の特性を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. ガイダンス 2. 農業立地の理論 3. 農業立地論①－チューネンの農業立地論－ 4. 農業立地論②－チューネンモデルの事例－ 5. 現代日本の農業立地①－東日本を中心に－ 6. 現代日本の農業立地②－西日本を中心に－ 7. 沖縄県における農業立地の特性 8. 工業立地論①－ウェーバーの工業立地論－ 9. 工業立地論②－ウェーバー理論の実際－ 10. 工業立地論③－ウェーバー以後の工業立地論－ 11. 日本の工業地域 12. 日本における工業立地の特性①－関東地域－ 13. 日本における工業立地の特性②－名古屋地域－ 14. 日本における工業立地の特性③－関西地域－ 15. 農業立地論・工業立地論による空間構造の把握 16. 試験
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 【参考文献】 ・富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。 ・ディビット・グリッグ（山本正三ほか訳）：『農業地理学入門』原書房。
	学びの手立て ・出席確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず欠席・遅刻する場合は事前にメールなどで連絡すること。 ・講義中に課題を出す機会が多くあるので、時間内で提出すること。
	評価 ・定期テスト（50点） ・平常点：講義中の課題の提出・発表（50点）（出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる）

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済地理学の基本的概念を理解して、応用的科目の経済地理 II へ繋げる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済地理Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>経済地理学は、人文地理学の一部門であり、経済現象の地理的配置を説明し、経済地域的な成立・構造・機能を究明することは目的としている。経済地理Ⅱでは、中心地理論とオフィスの立地を中心とする都市・商業空間の編成過程を検討する。さらに、近年の観光地形成に関わる問題点を比較考察し、沖縄の観光地の特性を検討したい。</p>	<p>経済地理学の理論と実際について、現代的な課題を挙げながら講義します。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・商業を中心とする経済立地論の特性を理解する。 ・世界・日本における経済立地の諸問題を理解し、自分の言葉で説明できる。 	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人文地理学・経済地理学の概要 2. 中心地の立地理論①－クリスタラーの中心地研究－ 3. 中心地の立地理論②－中心地理論に関する実証的研究－ 4. 中心地の立地理論③－商業・サービス業の立地と中心地理論－ 5. 中心地の立地理論④－オフィス立地の理論と実際－ 6. 企業の立地戦略①－立地選択－ 7. 企業の立地戦略②－立地適応－ 8. 企業の立地戦略③－立地創造－ 9. 企業の立地戦略④－産業集積と立地－ 10. 企業の立地戦略⑤－立地ウォーズ－ 11. 観光産業と地域①－世界の観光地域－ 12. 観光産業と地域②－ヨーロッパ地域の観光地域－ 13. 観光産業と地域③－日本の観光地域－ 14. 観光産業と地域④－沖縄県の観光－ 15. 観光産業と地域⑤－沖縄県島嶼部の観光－ 16. 試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。適宜レジュメを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富田和暁（1996）『地域と産業－経済地理学の基礎－』大明堂。 ・川端基夫（2008）『立地ウォーズ 企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」』新評論。
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課題を出すこともあり、時間内で提出すること。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（50点） ・平常点：講義中における課題の提出と発表（50点）（出席状況については、無断欠席が5回以上の場合は「不可」となる）

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学と地理学における立地分析の方法を身につける。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済データ	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	1年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、調査・研究のための経済データの見方、扱い方について学ぶことを目的とする。調査研究は、知りたい事柄を明らかにするために調べることであり、そのために必要となる情報を収集し、体系的に整理することである。したがって、経済データを分析するためには、調査の目的を明確にし、必要に応じたデータを集め、データの背後にある要因について考察することが大切である。	統計に関する知識は必要としないが、経済・社会の問題に対し、常に関心を持ち、客観的なデータで実証する姿勢を習得して欲しい。
到達目標	経済分析のためのデータ収集及びその解釈が体系的にできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	
	2	経済分析の目的	どのような経済分析があるのか
	3	経済分析における問題意識、問題形成	経済分析とは何か考える
	4	様々な経済データ	様々な経済データを拾う
	5	データ処理Ⅰ（平均、最大、最小、分散について）	講義で示された課題を解く
	6	データ処理Ⅱ（年平均伸び率、構成比の計算など）	同上
	7	経済財政白書など白書を用いたデータ分析	同上
8	マクロ経済データ分析Ⅰ（GNPなど）	同上	
9	マクロ経済データ分析Ⅱ（各国比較、貧しい国と豊かな国）	同上	
10	県民所得のデータ分析（都道府県比較、沖縄は貧しい県か？）	同上	
11	所得格差関連のデータ（学力格差と所得格差の関係 沖縄の学力が低いのはなぜ？）	同上	
12	簡単な相関分析Ⅰ（相関関係とは）	同上	
13	簡単な相関分析Ⅱ（アイスクリームの売り上げと気温は関係あるか）	同上	
14	市町村の社会経済データⅠ（人口、市町村民所得、産業構造）	同上	
15	市町村の社会経済データⅡ（社会指標など）	同上	
16	テーマ分析とレポート提出要領	レポートの作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜紹介する。 特になし。その都度演習用の素材は提供する。		
	学びの手立て 毎回、出席をとるので、やむを得ず欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。 基本的にエクセルを使って講義を進めるので、基礎的な操作ができることが前提である。		
	評価 出席状況と毎回の課題提出、レポートを総合的に評価する。 出席及び課題提出・・・50% レポート・・・50% 全体の3分の1を欠席すると不可とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門科目においてデータ収集が必要な場合、仮説を設定し、体系的に分析する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 経済と社会	期別 後期	曜日・時限 木3	単位 2
	担当者 平敷 卓	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ t.heshiki@okiu.ac.kp	

学びの準備	ねらい 現代の社会問題を経済学的視点から考察し、どのような解を提示できるのか考える機会を提供します。講義前半では、資本主義の発展過程とそこで生じてきた経済社会問題、それに対応する国家の姿を捉えます。講義後半では具体事例（貧困問題等）を取り上げながら、それらを解決するための経済学的な考え方とアプローチを学びます。	メッセージ 貧困や格差といった現代の経済社会問題に興味や関心、問題意識を持っている人に履修をお勧めします。具体事例を交えながら現代の福祉や社会保障のあり方、今後の展望について考えていきます。
	到達目標 ①現代資本主義国家の成り立ちについて学び、第二次大戦後の福祉国家の形成と変遷について理解する。 ②経済政策としての社会保障制度や福祉政策が果たしてきた役割や意義を理解する。 ③少子高齢化、貧困、労働問題といった現在日本が抱える問題に対し、課題設定し、解決方策について自らの考えを持つ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス、授業評価方法等について
	2	人間と社会と自然—経済と社会の関係
	3	ポリティカル・エコノミーとは？
	4	資本主義の生成と発展
	5	資本主義と現代の国家①
	6	資本主義と現代の国家②
	7	福祉国家とその変容①
	8	福祉国家とその変容②
	9	講義前半のまとめ-資本主義の発展と福祉国家の登場
	10	日本型福祉国家とその特徴（※小テスト）
	11	福祉国家の転換と展望-労働政策と社会保障制度
	12	資本主義国家と労働政策の展開
	13	日本の労働問題—派遣・非正規労働
	14	日本の社会保障政策-雇用保険、生活保護制度
	15	講義後半のまとめ
16	期末テスト	
		時間外学習の内容
		シラバスを読む
		参考文献①、②を読む
		参考文献①、②を読む
		参考文献③を読む
		参考文献③を読む
		参考文献③、④、⑤を読む
		参考文献④、⑤を読む
		参考文献④、⑤を読む
		講義前半の振り返り
		参考文献④を読む
		参考文献④を読む
		参考文献①、②を読む
		参考文献④を読む
		貧困・格差問題を調べる
		講義後半の振り返り
		講義のまとめ

テキスト・参考文献・資料など
 テキストは特に指定せず、プリント・資料配布により講義を行います。事前・事後学習の助けとして以下の参考文献等を活用して下さい。他、必要に応じ講義中適宜提示します。
 【参考文献・資料】①宇仁宏幸他「入門社会経済学【第2版】」ナカニシヤ出版、②若森章孝他著（2007）『入門・政治経済学』ミネルヴァ書房、③田代洋一他（2011）『現代の経済政策【第4版】』有斐閣ブックス、④林建久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会、⑤G. エスピン-アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界-比較福祉国家の理論と動態』ミネルヴァ書房

学びの手立て
 ○履修の心構え
 講義時間中の私語、スマホ利用、遅刻などは厳禁です。毎回、出欠確認を行います。講義に関する質問や意見等を求めるため講義内容に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。
 ○学びを深めるために
 現代国家が抱える課題に関し、経済政策の理念と政策手段の変化を追っていきます。福祉国家論、社会保障に関する講義をあわせて履修することを勧めます。

評価
 ○平常点（15%） 小テスト（25%） 期末テスト（60%）
 ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。
 ○平常点（フィードバックペーパー）により到達目標の③を評価、小テスト、期末テストにより到達目標の①、②、③を総合評価します。

次のステージ・関連科目
 本講義では、現代の労働問題と労働政策、福祉国家と財政、社会保障制度に関する問題を扱います。次の関連科目を履修し、理解を深めることを勧めます。
 【関連科目と次のステージ】
 経済政策総論Ⅰ、公共経済学、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、福祉国家論、社会保障論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	公共経済学	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 市場の失敗を是正するための政府の役割について学ぶ。政府の経済活動を分析する学問として、他に財政学や経済政策論があるが、本講義は「政治の経済分析」や「政府による規制」等のトピックを扱うという点で、両科目とは講義内容が異なる。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 市場における政府の役割を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義の進め方、日常生活と公共部門、講義アンケート -
	2	公共経済学とは何か - 市場と政府 (概論) -
	3	市場メカニズムのはなし① - 需要と供給、市場経済の効率性 -
	4	市場メカニズムのはなし② - 市場の失敗と政府の失敗 -
	5	公共財① - 公共財の概念、「ただ乗り」の問題、「ただ乗り」問題の対策 -
	6	公共財② - 公共財の最適供給、地方公共財 -
	7	選挙と投票行動① - 中位投票者定理、投票のパラドックス -
	8	選挙と投票行動② - 有権者の政治行動 -
		時間外学習の内容
		経済理論の復習
		経済理論の復習
		経済理論の復習
		参考文献の精読
		参考文献の精読
		参考文献の精読
		参考文献の精読
		参考文献の精読
		参考文献の精読
		自治体のホームページの閲覧
		日本経済に関する文献の精読
		沖縄経済に関する文献の精読
	テキスト・参考文献・資料など 適宜レジュメ (パワーポイント資料) を配布する。 井堀利宏 (2000) 『基礎コース公共経済学』新世社 上村敏之 (2011) 『公共経済学入門』新世社	
	学びの手立て 公共経済学・財政学・経済政策に関する文献に目を通しておくこと。	
	評価 期末テスト (70%)、小テスト (20%)、講義態度 (10%) で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 財政学、経済政策総論Ⅱ、地方財政論
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	3年	講義終了後に教室で受け付ける	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・資金移動・国際投資・人の移動・多国籍企業などの動向を、貿易理論・為替変動メカニズム・国際収支・直接投資理論の枠組みの中で捉えることで理解を深め、日本経済ならびに国際経済の直面する課題を考察する。</p>	<p>まず国際経済の枠組み(国際貿易体制・国際金融制度)の変遷の大きな流れを理解し、為替・株価格・石油価格等の変動とそれに伴う対外直接投資で国境を超える多国籍企業の戦略と動向を理論的枠組み中でその根拠と要因の分析を通じて国際経済の直面する課題を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。</p>
到達目標	<p>国際的な経済現象を理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動の経済指標の動向に関連する経済解説記事をはじめ、その為替変動に伴って採用される多国籍企業の戦略・活動の動向、そして政府の対応政策などのある程度理解できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	グローバル経済と日本	テキスト第1章の1節の予習
	3	グローバル化と日本経済構造	同上
	4	世界経済の潮流	同上
	5	戦後の国際経済体制	テキスト第1章の2節の予習
	6	固定相場制から変動相場制へ	同上・参考文献②の第8章
	7	1980年代以降の世界経済	テキスト第1章の2節の予習
	8	為替レートと日本経済	テキスト第2章の第1節の予習
	9	為替レートの変動メカニズム	同上・参考文献①の第2章
	10	外国為替市場と為替レート	テキスト第2章の2節の予習
	11	為替リスクとヘッジング・為替投機	同上・参考文献③の第13章
	12	外国為替市場への介入	テキスト第2章の2節の予習
	13	購買力平価説・アセット・アプローチ	テキスト第2章の3節の予習
	14	ファンダメンタルズ	同上
15	固定相場制	テキスト第2章の4節の予習	
16	総括、期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など

テキストは「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重(著)日本経済新聞社を使用します。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として以下を推薦する。①「私たちの国際経済」東京経済大学国際経済グループ(著)有斐閣ブックス②「初めての国際経済」、浦田秀一郎・小川英治・澤田奉行(著)有斐閣アルマ③「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。

学びの手立て

履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②講義に遅れた場合は、教室前方の入り口から入室すること③理解度を確認するためにテキストの各章の各節ごとの小テストを行います。テキストは平易な日本語で執筆されているため各自で予習をすること。④講義は基本的にはテキストに沿って進めますが、理論の解説においては補足的に以下に挙げた参考文献に掲載された理論モデルの説明を行う場合があります。⑤経済学科以外の初学者でも理解できるよう、抽象的な経済用語や理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、受講生には私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関心を持ち、そして関連する新聞記事を読むことを強く要望します。⑥テキストは購入すること。

評価

小テスト(計5回)・期末テスト. 計70%
 平常点. . . 計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。

学びの継続

次のステージ・関連科目

日本経済への影響要因となりえる国際経済の変動を理論的な枠組みの中で把握し、将来起こりうる課題を分析する。経済基礎理論の習得のための、「経済学入門」、「経済学I・II」、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学I・II」、関連科目としては、「貿易実務I・II」、「証券市場論I・II」、「金融論I・II」。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済論Ⅱ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-当銘 学	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>国境を越えたさまざまな経済活動、すなわち貿易・資金移動・国際投資・人の移動・多国籍企業などの動向を、貿易理論・為替変動メカニズム・国際収支・直接投資理論の枠組みの中で捉えることで理解を深め、日本経済ならびに国際経済の直面する課題を考察する。</p>	<p>国際経済の枠組み(国際貿易体制・国際金融制度)の変遷の大きな流れを理解し、経常収支・為替等の変動、対外直接投資に伴う国境を超える多国籍企業の動向を理論的枠組みの中でその根拠と要因の分析を通じて国際経済の直面する課題を理解していく講義内容となりますが、できるだけ初学者にも理解できる平易な言葉で解説・説明します。</p>
到達目標	<p>国際的な経済現象を大まかに理解できるようになる。具体的には、経済新聞に掲載されている為替変動・原油価格等の経済指標の動向に関連する経済解説記事をはじめ、貿易・資本移動等の国際経済における日本経済の動向を映す国際収支統計の数値変動等を、大まかではあるが程度理解できるようになる。さらには、これまでの貿易体制から通商問題(TPP)等などの国際社会が直面する課題も理解できるようになるでしょう。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・前期のReviewと国際経済はいま	時事経済問題に関心をもつ
	2	国際化するマクロ経済問題	テキスト第3章の1節の予習
	3	国際収支とはなにか	テキスト第3章の2節の予習
	4	国際マクロ経済学	テキスト第3章の3節の予習
	5	開放経済のマクロ経済政策	同上・参考文献③の第16章
	6	拡大する国際金融取引	テキスト第4章の1節の予習
	7	資本移動のメカニズム	同上・参考文献③の第9章
	8	累積債務問題	テキスト第4章の4節の予習
	9	貿易の基礎理論	テキスト第5章の2節の予習
	10	同上	同上・参考文献③の第2章～第5章
	11	産業内貿易の理論	テキスト第5章の3節の予習
	12	通商問題の変貌とWTO体制の機能と課題	テキスト第6章の1節・6節の予習
	13	貿易政策の基礎理論	テキスト第6章の7節の予習
14	同上	同上・参考文献③の第7章	
15	直接投資の理論と直接投資のインパクト	テキスト第7章の2節・3節の予習	
16	総括と期末テスト	参考文献②の第4章の3節	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは「ゼミナール国際経済入門」伊藤元重(著)日本経済新聞社を使用します。時間外学習の際の自主学習のための参考文献として、以下を推薦する。①「私たちの国際経済」東京経済大学経済グループ(著)有斐閣ブックス②「初めての国際経済」浦田秀四郎・小川英治・澤田奉康幸(著)有斐閣アルマ③「コア・テキスト国際経済学」大川昌幸(著)新世社。</p>		
学びの手立て	<p>履修のための留意点を以下に挙げる。①毎回、出欠確認をとります。不可抗力の理由等があれば必ず欠席届を提出すること。②講義に遅れた場合は、教室前方の入り口から入室すること③理解度を確認するためにテキストのほぼ各章ごとの小テストを行います。テキストは平易な日本語で執筆されているため各自で予習をすること。④講義は基本的にはテキストに沿って進めますが、理論の解説においては補足的に以下に挙げた参考文献に掲載された理論モデルの説明を行う場合があります。⑤経済学部以外の初学者でも理解できるよう、抽象的な経済用語や理論をできるだけ平易な言葉で説明・解説に努めますが、受講生には私たちの生活に影響を与える経済時事問題に関心を持ち、そして関連する新聞記事を読むことを強く要望します。⑥テキストは購入すること。</p>		
評価	<p>小テスト(計5回)・期末テスト.....計70% 平常点...計30% 講義中の態度や積極性。例えば、質問に答えると適宜加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目としては、経済基礎理論の習得のための「経済学入門」、「経済学I・II」、「ミクロ経済学I・II」、「マクロ経済学I・II」。関連科目としては、「応用マクロ経済学」、「貿易実務I・II」、「証券市場論I・II」、「金融論I・II」。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織論 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那覇 徹也	3年	yonaha-t@niac.or.jp 講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>産業組織論は、様々な業界の市場構造、企業の行動パターン・戦略、政府の規制・競争政策等を分析対象とする現実的かつエキサイティングな学問分野である。新聞紙上では企業の開業・廃業、企業戦略、談合やカルテル、合併や買収など産業組織論に関する話題が毎日のように賑わっている。この講義では、これらの話題をどのように分析し、評価し、政策提言を行うのかについて考える。</p>	<p>産業組織論はミクロ経済学の応用分野ですが、基礎知識がなくても授業を理解できるように解説します。就職活動を進める上で業界研究を行う際の参考になります。</p>
到達目標	<p>①産業組織論で用いる基本的な考え方を理解する。 ②産業・企業の経済活動について産業組織の視点から考察できるようになる。 ③政府の役割や競争政策等について産業組織の視点から考察できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション：講義内容の紹介、評価方法、注意事項等	シラバスの確認
	2	国内、県内における産業の現状と動向	新聞やニュースでの情報収集
	3	産業組織論の2つのアプローチ	講義資料、参考文献の予習・復習
	4	完全競争と不完全競争	講義資料、参考文献の予習・復習
	5	費用の諸概念と企業の行動	講義資料、参考文献の予習・復習
	6	独占企業の価格設定	講義資料、参考文献の予習・復習
	7	自然独占と規制	講義資料、参考文献の予習・復習
8	参入の経済効果	講義資料、参考文献の予習・復習	
9	コンテストアブル市場理論	講義資料、参考文献の予習・復習	
10	参入規制の経済効果と規制緩和	講義資料、参考文献の予習・復習	
11	独占的競争	講義資料、参考文献の予習・復習	
12	産業組織論とファイブフォース分析	業界研究の為の情報収集	
13	産業組織論とファイブフォース分析	業界研究の為の情報収集	
14	産業組織論とファイブフォース分析	業界研究の為の情報収集	
15	まとめ	講義資料の予習・復習	
16	最終課題	講義資料の予習・復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストなし。毎回資料を配付します。</p> <p>参考文献 泉田成美・柳川隆著『プラクティカル 産業組織論』、有斐閣、2008年 小田切 宏之『競争政策論 [第2版]』、日本評論社、2017年</p>		
学びの手立て	<p>毎回、出欠確認を行います。発言等授業への参加を重視します。講義内容は学生の興味や理解度に応じて変更する場合があります。分からないことがあった場合は適宜質問してください。</p>		
評価	<p>平常点・講義態度：50%、課題提出・内容：50% ※3分の1以上の欠席は不可となります。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	産業組織論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那覇 徹也	3年	yonaha-t@niac.or.jp 講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>産業組織論は、様々な業界の市場構造、企業の行動パターン・戦略、政府の規制・競争政策等を分析対象とする現実的かつエキサイティングな学問分野である。新聞紙上では企業の開業・廃業、企業戦略、談合やカルテル、合併や買収など産業組織論に関する話題が毎日のように賑わっている。この講義では、これらの話題をどのように分析し、評価し、政策提言を行うのかについて考える。</p>	<p>産業組織論はミクロ経済学の応用分野ですが、基礎知識がなくても授業を理解できるように解説します。就職活動を進める上で業界研究を行う際の参考になります。</p>
到達目標	<p>①産業組織論で用いる基本的な考え方を理解する。 ②産業・企業の経済活動について産業組織の視点から考察できるようになる。 ③政府の役割や競争政策等について産業組織の視点から考察できるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション：講義内容の紹介、評価方法、注意事項等	シラバスの確認
	2	国内、県内における産業の現状と動向	新聞やニュースでの情報収集
	3	ゲーム理論の基礎	講義資料、参考文献の予習・復習
	4	寡占市場理論	講義資料、参考文献の予習・復習
	5	寡占市場理論	講義資料、参考文献の予習・復習
	6	カルテル	講義資料、参考文献の予習・復習
	7	市場支配力と集中度	講義資料、参考文献の予習・復習
8	合併と企業結合規制	講義資料、参考文献の予習・復習	
9	戦略的行動と市場の独占化	講義資料、参考文献の予習・復習	
10	イノベーションと知的財産権	講義資料、参考文献の予習・復習	
11	垂直的統合と制限	講義資料、参考文献の予習・復習	
12	産業組織論とファイブフォース分析	業界研究の為の情報収集	
13	産業組織論とファイブフォース分析	業界研究の為の情報収集	
14	産業組織論とファイブフォース分析	業界研究の為の情報収集	
15	まとめ	講義資料の予習・復習	
16	最終課題	講義資料の予習・復習	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストなし。毎回資料を配付します。</p> <p>参考文献 泉田成美・柳川隆著『プラクティカル 産業組織論』、有斐閣、2008年 小田切 宏之『競争政策論 [第2版]』、日本評論社、2017年</p>		
学びの手立て	<p>毎回、出欠確認を行います。発言等授業への参加を重視します。講義内容は学生の興味や理解度に応じて変更する場合があります。分からないことがあった場合は適宜質問してください。</p>		
評価	<p>平常点・講義態度：50%、課題提出・内容：50% ※3分の1以上の欠席は不可となります。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財政学 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私たちの日々の生活は政府の活動によって支えられています。その活動領域は経済の発展とともに、量的にも質的にも大きく変化しており、近年では年金などの社会保障分野で多くの批判にさらされています。この授業では、私たちが直面している経済社会の課題に対し、財政が果たすべき役割と機能を考える力を養い、財政における課題と解決策について自分なりに提言できるようにします。	授業では、社会の基礎をなす組織・制度・慣習を分析の中心に据えて、財政に関する原理原則・制度・政策について取り上げます。財政学の予備知識がない学生にも理解できるように分かりやすく説明し、財政に係わる事象に関心が持てるようにします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財政学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 日本や諸外国の財政に関する現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。 3. 日本や諸外国の財政の問題点を明らかにし、その問題点を多面的に検討し、自身の考えを述べることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：財政を学ぶ視点	シラバスを読む
	2	国民経済と財政：財政とは何か・市場社会における財政の役割は何か	事後：「考えてみよう」を解く
	3	財政の機能：財政はどのような機能をもつのか	事後：「考えてみよう」を解く
	4	現代財政の特質：財政の特質は何か ・日本財政の特徴は何か	事後：「考えてみよう」を解く
	5	予算制度①：予算とは何か ・予算は憲法、法律でどのように規定されているのか	事後：「考えてみよう」を解く
	6	予算制度②：財政をコントロールする予算原則とは何か ・予算はどのような機能をもつのか	事後：「考えてみよう」を解く
	7	予算制度③：予算はどのように決定され、執行されるのか	事後：「考えてみよう」を解く
8	経費：政府が提供する財・サービスはどのように定義できるのか	事後：「考えてみよう」を解く	
9	租税の意義と原則：租税はなぜ必要なのか・租税の基本的な原則はどのようなものか	事後：「考えてみよう」を解く	
10	租税の分類と体系：租税はどのように分類できるのか・租税は最終的に誰が負担するのか	事後：「考えてみよう」を解く	
11	租税制度①：所得をどのようにとらえるのか ・日本の所得税はどのようなしくみか	事後：「考えてみよう」を解く	
12	租税制度②：なぜ法人に課税するのか ・日本の法人税はどのようなしくみか	事後：「考えてみよう」を解く	
13	租税制度③：消費税はどのように発展してきたか ・日本の消費税はどのようなしくみか	事後：「考えてみよう」を解く	
14	租税制度④：資産課税にはどのような種類があるのか ・日本の資産課税はどのようなものか	事後：「考えてみよう」を解く	
15	復習・総括	事後：前期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前：期末試験の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神野直彦. 2007年. 『財政学』改訂版. 有斐閣. ・重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編. 2009年. 『Basic現代財政学』第3版. 有斐閣. ・池上岳彦編. 2015年. 『現代財政を学ぶ』有斐閣. ・『図説日本の財政』最新版. 東洋経済新報社. 	
	学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業回数3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。 ・ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済みもしくは履修中であることが望ましいです。 <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の財政問題に関心を持ってほしいと思います。 ・理解を深めるために、また自身の考えをまとめるために、事後学習として、配布資料の最後にある「考えてみよう」を解いてください。 	
	評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業回数3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内小テスト、授業のふり返り等の授業での「平常点」30%、「課題レポート」20%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「課題レポート」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。 	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>次の関連科目を履修して、現在の財政の理解を深め、課題を見出し、解決策を考えてください。</p> <p>【関連科目】 ・財政学Ⅱ ・公共経済学 ・福祉国家論 ・地方財政論Ⅰ ・地方財政論Ⅱ</p>

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財政学Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私たちの日々の生活は政府の活動によって支えられています。その活動領域は経済の発展とともに、量的にも質的にも大きく変化しており、近年では年金などの社会保障分野で多くの批判にさらされています。この授業では、私たちが直面している経済社会の課題に対し、財政が果たすべき役割と機能を考える力を養い、財政における課題と解決策について自分なりに提言できるようにします。	授業では、社会の基礎をなす組織・制度・慣習を分析の中心に据えて、財政に関する原理原則・制度・政策について取り上げます。財政学の予備知識がない学生にも理解できるように分かりやすく説明し、財政に係わる事象に関心が持てるようにします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財政学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 日本や諸外国の財政に関する現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。 3. 日本や諸外国の財政の問題点を明らかにし、その問題点を多面的に検討し、自身の考えを述べるることができる。 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：財政を学ぶ視点・財政学Ⅰとの関連	シラバスを読む
	2	公債①：公債とは何か・公債負担の考え方の違いは何か・公債管理はどのように行われているか	事後：「考えてみよう」を解く
	3	公債②：日本の公債制度はどのようなものか ・日本の財政の持続可能性をどのように考えるか	事後：「考えてみよう」を解く
	4	財政政策①：財政政策にはどのような意義、効果があるのか	事後：「考えてみよう」を解く
	5	財政政策②：日本の財政政策は効果があるのか	事後：「考えてみよう」を解く
	6	公企業と財政投融资：財政投融资はどのような役割や機能をもつのか	事後：「考えてみよう」を解く
	7	社会保障と財政：日本の国民生活を支えるための財政の役割は何か	事後：「考えてみよう」を解く
	8	社会保障制度：日本の公的年金、医療保険、介護保険、社会福祉はどのようなしくみか	事後：「考えてみよう」を解く
9	公共投資と財政：公共投資はどのようなしくみで行われるのか ・公共投資の課題は何か	事後：「考えてみよう」を解く	
10	環境と財政：環境保全のための税制や公共政策はどのような手段で行われているか	事後：「考えてみよう」を解く	
11	グローバル化と財政：グローバル化において財政はどのような役割を果たしているのか	事後：「考えてみよう」を解く	
12	政府間財政関係：中央政府（国）と地方政府の財政はどのように関係しているのか	事後：「考えてみよう」を解く	
13	日本の地方財政①：地方税とは何か・地方税に対する国の統制の意義、課題は何か	事後：「考えてみよう」を解く	
14	日本の地方財政②：国から地方自治体への財政移転の意義、課題は何か	事後：「考えてみよう」を解く	
15	復習・総括	事後：後期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前：期末試験の準備	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神野直彦. 2007年. 『財政学』改訂版. 有斐閣. ・池上岳彦編. 2015年. 『現代財政を学ぶ』有斐閣. ・重森暁・鶴田廣巳・植田和弘編. 2009年. 『Basic現代財政学』第3版. 有斐閣. ・神野直彦・小西砂千夫. 2014年『日本の地方財政』有斐閣. ・『図説日本の財政』最新版. 東洋経済新報社. 	
学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業回数3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。 ・財政学Ⅰを履修済み、ミクロ経済学・マクロ経済学を履修済みもしくは履修中であることが望ましいです。 <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の国・地方の財政問題に関心を持ってほしいと思います。 ・理解を深めるために、また自身の考えをまとめるために、事後学習として、配布資料の最後にある「考えてみよう」を解いてください。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業回数3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内小テスト、授業のふり返り等の授業での「平常点」30%、「課題レポート」20%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「課題レポート」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次の関連科目を履修して、現在の財政の理解を深め、課題を見出し、解決策を考えてください。</p> <p>【関連科目】・財政学Ⅰ ・公共経済学 ・福祉国家論 ・地方財政論Ⅰ ・地方財政論Ⅱ</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会思想史	後期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	1年	授業の前後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 社会を見る目を養うための知識として歴史及び時代ごとの思想を理解することをねらいとする。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 西洋の思想について、時代を区切りそこで展開した思想の内容と意味・意義を理解することで、社会や人間の思考やそれに基づく活動について理解したり、考えたりすることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前にシラバスを読むこと
	2	イントロダクション1：西洋の歴史を振り返る	事前：教科書を読む，事後：課題
	3	イントロダクション2：西洋社会の思想史概略	事前：教科書を読む，事後：課題
	4	近代と現代の意味	事前：教科書を読む，事後：課題
	5	中世の思想	事前：教科書を読む，事後：課題
	6	マキアヴェリの思想	事前：教科書を読む，事後：課題
	7	近代の亀裂1～スピノザ	事前：教科書を読む，事後：課題
	8	近代の亀裂2～デカルト	事前：教科書を読む，事後：課題
	9	民主政治の罨1～モンテスキューとルソー	事前：教科書を読む，事後：課題
	10	民主政治の罨2～アダム・スミス	事前：教科書を読む，事後：課題
	11	19世紀の思想1～マルクス	事前：教科書を読む，事後：課題
	12	19世紀の思想2～ニーチェ	事前：教科書を読む，事後：課題
	13	ヴェーバーと近代への憂慮	事前：教科書を読む，事後：課題
	14	現代思想の諸問題～近代の危機から新しい潮流へ	事前：教科書を読む，事後：課題
15	まとめ	事前：教科書を読む，事後：課題	
16	期末試験	全講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：的場昭弘『近代と反近代との相克—社会思想史入門』お茶の水書房，2006年．参考書については，授業内で紹介する．		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします．場合によっては，退室を求めます．		
	評価 期末試験40%，複数回の事後課題（ミニレポートなど）40%，受講態度（グループワークへの参加など）30%．		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会保障論	前期	火1	2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、少子高齢化の進行、低成長時代への移行、人々の働き方の多様化など社会経済状況が大きく変化する中、国民生活の安心を確保するために、社会保障制度の改革が頻繁に行われています。この授業では、社会・経済のさまざまな変化に対応した社会保障の制度やしきみのあり方について考える力を養い、制度やしきみの問題点を見出し、その解決策について自分なりに提言できるようにします。	授業では、社会保障制度の存在理由、社会保障制度やしきみ全体に関する議論に加え、日本の年金・医療・介護・子育てなど社会保障に関する制度・政策・課題について取り上げます。予備知識がない学生にも理解できるように分かりやすく説明し、社会保障に係わる事象に関心が持てるようにします。
	到達目標	
	1. 社会保障の概念・理念、日本の社会保障制度とその特徴について理解することができる。 2. 日本の社会保障に関する諸現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。 3. 日本の社会保障の制度・しきみの問題点を明らかにし、その問題点を検討し、自身の考えを述べるることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：社会保障とは何か	シラバスを読む
	2	社会保障制度の機能と役割を理解する・日本の社会保障の給付と負担の実態を理解する	事後：「考えてみよう」を解く
	3	日本の社会保障の財政問題について考える	事後：「考えてみよう」を解く
	4	年金①：日本の公的年金制度の歴史としきみを理解する	事後：「考えてみよう」を解く
	5	年金②：日本の公的年金制度が抱える問題を見出し、そのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	6	医療：日本の公的医療保険制度のしきみを理解し、そのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	7	介護：日本の公的介護保険制度のしきみを理解し、そのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	8	公的扶助：日本の生活保護制度のしきみを理解し、そのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	9	労働・雇用：日本の労働・雇用に関する社会保障制度のしきみを理解し、そのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	10	社会福祉：日本の社会福祉サービスのしきみを理解し、そのあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	11	福祉と労働：社会保障政策と労働政策の連携のあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	12	貧困：所得格差が生まれる要因を見出し、解決策を考える	事後：「考えてみよう」を解く
	13	子ども・子育て：日本の子育て支援をめぐる課題を考える	事後：「考えてみよう」を解く
14	教育：社会保障との関連から教育について考える	事後：「考えてみよう」を解く	
15	総括：社会の実態から日本の社会保障のしきみとあり方を考える	事後：「考えてみよう」を解く	
16	期末試験	事前：期末試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など		
	毎回資料を配付します。テキストは特に指定しません。 【参考文献】 ・香取照幸. 2017年. 『教養としての社会保障』東洋経済新報社. ・小塩隆士. 2015年. 『18歳からの社会保障読本』ミネルヴァ書房. ・棕野美智子・田中耕太郎. 2018年. 『はじめての社会保障』第15版. 有斐閣.		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ・授業回数3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。 【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の社会保障の課題に関心を持ってほしいと思います。 ・理解を深めるために、また自身の考えをまとめるために、授業を受けた後、配布資料の最後にある「考えてみよう」を解いてください。		
	評価		
	・授業回数3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内小テスト、授業のふり返り等の授業での「平常点」30%、「課題レポート」20%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「課題レポート」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次の関連科目を履修して、社会保障関連サービス・財源の問題、労働を経済学的に考える際の視点等を学修し、現在の社会保障の制度やしきみの理解を深め、課題を見出し、解決策を考えてください。 【関連科目】・財政学Ⅰ・財政学Ⅱ・地方財政論Ⅰ・地方財政論Ⅱ・公共経済学・労働経済学Ⅰ ・労働経済学Ⅱ・福祉国家論

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論Ⅰ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	2年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	集落地理論Ⅰでは、集落の中でも「村落」の歴史地理に関する講義を行う予定である。とくに絵図資料や地図資料の読解方法、空中写真を用いた景観分析の方法、さらにフィールドワークの方法に重点を置く。また、映像資料、民俗学・地域史などの研究成果を盛り込みながら、沖縄村落の社会構造についてもふれる予定である。	本講義では、主に沖縄の集落について検討するため、沖縄関連の文献を渉猟していることが望ましい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・村落の立地・景観と社会構造の特性を関連づける。 ・沖縄村落の地理的・歴史的特性を説明できる。 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 村落地理学の研究史 2 村落と地図①－地形図の基礎－ 3 村落と地図②－地形図の利用方法－ 4 村落と地図③－空中写真の判読と利用方法－ 5 村落と地図④－国土基本図と地籍図－ 6 村落と地図⑤－古地図と絵図資料－ 7 村落の景観①－景観概念－ 8 村落の景観②－沖縄村落の景観－ 9 村落の景観③－景観研究の事例－ 10 村落の景観④－景観調査の方法－ 11 村落の景観⑤－景観調査の実際－ 12 村落の社会構造①－沖縄村落の歴史地理－ 13 村落の社会構造②－村落空間と祭祀構造－ 14 村落の社会構造③－村落社会調査の方法－ 15 村落の社会構造④－村落社会調査の実際－ 16 期末試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲松弥秀著『神と村』 鳥社 ・田里友哲著『論集 沖縄の集落研究』 離宇宙社
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課題を出すことも多くあるので、時間内で提出すること。
<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（40点） ・レポート（30点） ・平常点：講義中の課題提出と発表（30点）（出席状況については、無断欠席が5回以上になると、「不可」となる） 	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「村落」と「都市」との関係性について理解を深め、後期に開設される集落地理論Ⅱに繋げる。 ・現代社会の中で、どのような地域政策が必要かを考える契機になります。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	集落地理論Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-濱里 正史	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の地域と地域住民には自らの力で地域づくりをしていく力を養うことが求められる。そのための基礎は地域を知ることである。本講義では、集落地理のみならず人文・社会科学全般において重要な研究対象の1つである都市について、地理学的視点を重視しつつ身近な地域である「沖縄の集落と都市」を事例に学ぶことで、「地域づくりの力」の涵養に資することを目的とする。</p>	<p>地域づくりの力は、皆さんが社会に出て後、1市民としてあるいは職業人として必ず求められる力です。この力をどれだけ多くの人が習得できるかに、今後の沖縄社会、ひいては日本社会の行く末がかかっているといっても過言ではありません。こうした分野に興味を持ち積極的に参加したいという学生は、学年、学科を問わず、広く受け入れますので、ともに学びましょう。</p>
到達目標	<p>地域づくりの力の基礎は、①その地域が形成された過程とそのことに起因する現在の問題・課題を理解する、②それだけでなく、日々変化する地域の問題・課題についてアンテナを張り情報収集する習慣を身に付ける、の2点が重要である。本講義では、我々にとって最も身近な地域である沖縄本島中南部地域を事例に、その歴史と形成過程、その延長としての現在の問題・課題を学ぶだけでなく、新聞情報を活用して、現在進行形の問題・課題やその解決に向けたまちづくり・地域の取り組みを紹介する。そのことを通して、地域を見る目を養い、問題・課題を発見し、論理的に考え、解決策を立案する能力、いわゆる「地域づくりの力」の習得を目指す。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス及び集落地理・都市地理とは？	
	2	戦前における沖縄の集落と都市1（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	第2～10週：下記の通り
	3	戦前における沖縄の集落と都市2（自然条件から見た沖縄の集落と都市）	予習：配布資料を事前に読み込む
	4	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成1（基地と都市）	復習：紹介図書群を用いた発展学習
	5	沖縄本島中南部地域における戦後の都市形成2（沖縄コナベーション）	
	6	戦後の都市形成過程から生じる沖縄本島中南部地域の問題・課題の整理	
	7	戦後那覇市の都市形成と構造1（問題と課題）	
	8	戦後那覇市の都市形成と構造2（問題・課題の解決に向けて）	
	9	北谷町のまちづくり	
	10	読谷村のむらづくり	
	11	まちづくりと地域振興の先進事例1（県内外）	第11～13週：下記の通り
	12	まちづくりと地域振興の先進事例2（県内外）	最新情報を用いるため復習中心
	13	沖縄におけるまちづくりと地域振興の展望	復習：自ら新聞等で先進事例を探す
	14	都市国家・国際都市・海洋都市（シンガポール・香港・韓国済州島）	予習：配布資料を事前に読み込む
15	国際都市としての沖縄の未来	復習：紹介図書群を用いた発展学習	
16			

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 授業は配布資料を基に行う。</p>
-------	---

学びの手立て	<p><履修の心構え等>：前期、「集落地理論Ⅰ」を履修していることが望ましい。私語や携帯電話・スマホなど他人の迷惑、授業の妨害になるような行為は禁止（場合によっては退室、受講停止を命じる）。 <学びを深めるために> 「地域づくりの力」は短期間で涵養できるものではない。①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③実際の地域観察、④様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、本講義をキッカケに、講義期間中から可能な範囲で実践・継続することが学びを深める。</p>
--------	---

評価	<p><評価方法・割合>：出席30点満点（2点×15回）及びレポート70点満点。 <評価基準>：出席は、単純に出席したか否かではなく、授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問を書く形式。内容によって評価する（0～2点）。名前・学籍番号のみで授業内容のまとめやコメント・感想・意見・質問がないものは0点とするので注意すること。レポートは、①情報収集、②情報の整理、③収集した情報に基づく分析、④自分なりの意見・見解の有無、⑤プレゼン資料としての説得力などの点について評価する。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 <次のステージ>「地域づくりの力」には広範な知識、現場に関する見聞・経験が求められる。したがって、①本講義で紹介する発展学習のための参考図書での学習、②新聞やインターネットなどによる最新情報キャッチの日常習慣化、③関連する科目の受講、④実際の地域観察、⑤様々な人に地域の話聞き・意見交換する習慣の獲得などについて、可能な範囲で実践・継続することを望む。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	証券市場論 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	証券市場論は、株式や債券に投資した場合の評価方法を学びます。株式・債券は、企業を成長させる重要な資金です（直接金融）。株価は刻々と変化し、上がったたり下がったりします。この株価変動は儲けをもたらす反面、損失がいくらかわかわらない不安も与えます。証券市場論では投資のリターン・リスクを理解し、数値計算します。ポートフォリオの概念、分散投資の意味を学びます。	将来銀行員を目指している人にぜひ勉強してほしい科目です。「資産運用」「投資信託」を学びたい人におすすめします。証券市場論は、株式や債券に投資した場合の評価方法を学びます。「投資信託の中身は何か?」「株を選ぶとき、何を基準にすればいいのか?」に答えられるようになります。
到達目標	投資・資産運用を数値・データに基づき判断できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要・計画 2 投資（1）将来価値・現在価値 3 投資（2）年金の価値 4 投資（3）NPV、投資判断 5 証券投資（1）株式のリスク・リターン 6 証券投資（2）標準偏差 7 証券投資（3）相関係数 8 証券投資（4）分散投資 9 証券投資（5）分散投資 10 中間テスト 11 資本市場（1）債券のリスク・リターン 12 資本市場（2）債券の特徴 13 資本市場（3）株式の特徴 14 資本市場（4）株式の投資尺度 15 資本市場（5）投資信託・NISA 16 期末テスト
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>授業で学んだ内容を小テストで確認します。</p>
評価	小テスト20%、中間テスト40%、期末テスト40%

学びの継続	次のステージ・関連科目 証券市場論Ⅱ（証券市場論Ⅰの単位取得者のみ登録可能）、証券外務員、証券アナリスト資格
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	証券市場論Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>金融市場における重要な市場が、証券市場です。証券市場では、株式や国債・社債等が取引されています。前半の講義では、証券市場論Ⅰの理論をE X C E Lを活用して検証する。また株価情報の分析を実習形式で行う。後半の講義では、証券外務員二種試験の株式・債券・投資信託に関する範囲を学習する。</p>	<p><登録条件>証券市場論Ⅰの単位取得者。(特殊な場合は相談)</p> <p>P C教室で授業を行います。前半の講義では、証券市場論Ⅰの理論をE X C E Lを活用して検証する。また株価情報の分析を実習形式で行う。後半の講義では、証券外務員二種試験の株式・債券・投資信託に関する範囲を学習する。</p>
到達目標	E X C E Lを活用して、金融投資におけるリターン・リスクの判断ができる。証券外務員二種の主要範囲について、理解力を身につける。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要・計画 2 P C演習・データ収集 3 P C演習・理論検証Excel (1) 4 P C演習・理論検証Excel (2) 5 P C演習・株価分析Excel (1) 6 P C演習・株価分析Excel (2) 7 P C演習・株価分析Excel (3) 8 P C演習・株価分析Excel (4) 9 P C演習・株価分析Excel (5) 10中間テスト (P C) 11証券外務員 (株式) 12証券外務員 (株式) 13証券外務員 (債券) 14証券外務員 (投資信託) 15証券外務員 (投資信託) 16期末テスト
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>石野雄一『道具としてのファイナンス』日本実業出版社 2005年 証券外務員のテキストは講義内で指示します。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>P C演習では演習課題を授業時間内に提出すること。</p>
	<p>評価</p> <p>P C演習課題状況20%、中間テスト40%、期末テスト40%</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>証券外務員試験、証券アナリスト資格</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報システム I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真栄田 好史	2年	ptt027@okiu.ac.jpまでメールを送って下さい。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	システムには、人手で行う作業（以下アナログ）と、コンピュータを駆使した作業（以下デジタル）がありますが、要は速度と性能の違いだけ。アナログ作業を上手くデジタル化したら、労力を減らすことが出来ます。デジタル化に失敗したら、余計に人手がかかることがあります。また、システム化を考える場合は、必ず基本方針：コンセプトを決めて下さい。	情報システムという名称ですか、特定のコンピュータ言語は使いません。何か自分で作成したいシステムを決め、企画書や計画書の作成を行って貰います（この時、基本方針：コンセプトも決めてもらいます）。
到達目標	レポートやゼミ、卒論などの計画書の作成（+コンセプト決め）、または社会人になった場合の企画者の作成（+コンセプト）が、きちんと作成出来るようになって欲しい。計画表や企画書（基本方針：コンセプトは忘れないように）なしに、次のステップには、進めない。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	情報とシステム	復習
	3	情報とは：情報の分類	復習
	4	システムへの応用：システムの範囲	復習
	5	システムへの応用：目標と目的	復習
	6	システムへの応用：業務分析とシステム分析	復習
	7	システムへの応用：企画の立案、目標の設定と問題点の分析	復習
	8	システムへの応用：復習	復習
	9	練習問題	復習
	10	システム設計：自分で作成したいモノを決める	タイトルを決める
	11	システム設計：調査・分析	コンセプトを考える
	12	システム設計：調査・分析	コンセプトを考える
	13	システム設計：コンセプト決め	コンセプトを考える
14	システム設計：計画書または企画書のまとめ	計画書または企画書の見直し	
15	システム設計：計画書または企画書のまとめ	計画書または企画書の見直し	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など			
テキスト：毎回自作プリントを配布します。 紙は使用しません。			
学びの手立て			
<ul style="list-style-type: none"> ・受講時間になったら、速やかに、ログインして。名前と、学籍番号を入力して下さい（授業開始15分後まで）。 ・出席入力後、30分以上席を離れた場合、欠席扱いする。 ・授業後半に質問の時間を用意するので、可能な限り、質問して下さい。 ・授業中に、動画の閲覧やゲームを行って居る場合は、減点する。 ・Excel、Word、E-mailは、使用できるようにしておくこと。 ・課題またはレポートの提出はE-mailの添付ファイルで送付して貰う。 			
評価			
成績評価の方法は、 <ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（40%） ・最終課題（60%） なお、再試験、追試験は行わない。 レポート類は、減点法で評価を行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 流れ図を作成することで、全体の流れが、分かり易くなる。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報システムⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-真栄田 好史	2年	ptt027@okiu.ac.jpまでメールを送って下さい。	

学びの準備	ねらい プログラム言語に関係なく、処理の方法を書き出し、「開始」～「終了」までの一連の流れを、机上または頭の中で論理的に考えられるようになる。アナログ処理も同じです。論理設計を身につける事で、システム全体が見渡せるようになる。	メッセージ 特別にプログラミング言語を知らなくても、一連の処理を書くことが出来る。 フローチャートで表すことが出来れば、開発言語に関係なく、プログラムなどを書いてもらえる。 作業の分類が、上手になる。 問題は、めんどくさい。
	到達目標 いろいろな処理を、流れ図で表すことで、処理の状態が分かり易くなり論理設計（頭の中で処理を考える）を行うので、物事を深く考え事前ミスが減らすことが出来る。実際のプログラミング言語は知らなくても、全体の流れが分かるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	コンピュータの歴史：復習	復習
	3	プログラミングの初歩的な概念	復習
	4	アルゴリズムの基礎	復習
	5	流れ図の作成1：フローチャートの前	復習
	6	流れ図の作成2	復習
	7	練習問題	復習
	8	アルゴリズムについて：基本形	復習
	9	アルゴリズムについて：基本形2	復習
	10	アルゴリズムについて：分岐	復習
	11	アルゴリズムについて：繰り返し	復習
	12	アナログとデジタルの違い	論理設計の復習
	13	アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習
	14	アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習
	15	アナログで書かれたプログラム1	論理設計の復習
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：毎回自作プリントを配布します。 紙は使用しません。		
	学びの手立て ・受講時間になったら、速やかに、ログインして。名前と、学籍番号を入力して下さい（授業開始15分後まで）。 ・出席入力後、30分以上席を離れた場合、欠席扱いする。 ・授業後半に質問の時間を用意するので、可能な限り、質問して下さい。 ・授業中に、動画の閲覧やゲームを行って居る場合は、減点する。 ・Excel、E-mailは、使用できるようにしておくこと。 ・課題またはレポートの提出はE-mailの添付ファイルで送付して貰う。		
	評価 成績評価の方法は、出席状況および試験（若しくは提出されたレポート）によっての内容を総合して判断する。 なお、再試験、追試験は行わない。 レポート類は、減点法で評価を行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 論理思考とアルゴリズムを知れば、より深く物事を考えられると思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報処理概論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 絢子	1年	ptt1071@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報化社会にて必要とされる情報リテラシー力を身につけるために、ITハ スポ ートの内容を中心に学び、情報処理技術の基礎知識・技術を修得することをねらいとします。	メッセージ 板書や動画を中心に学びます。
	到達目標 情報処理技術の基礎・プログラミングの概念の修得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入-情報とは・コンピュータの歴史-	板書をノートにまとめ提出
	2	ハードウェア	板書をノートにまとめ提出
	3	ハードウェア	板書をノートにまとめ提出
	4	ソフトウェアとマルチメディア	板書をノートにまとめ提出
	5	ソフトウェアとマルチメディア	板書をノートにまとめ提出
	6	ネットワーク	板書をノートにまとめ提出
	7	ネットワーク	板書をノートにまとめ提出
	8	セキュリティ	板書をノートにまとめ提出
9	セキュリティ	板書をノートにまとめ提出	
10	データベース	板書をノートにまとめ提出	
11	データベース	板書をノートにまとめ提出	
12	アルゴリズムとデータ構造	板書をノートにまとめ提出	
13	アルゴリズムとデータ構造	板書をノートにまとめ提出	
14	アルゴリズムとデータ構造	板書をノートにまとめ提出	
15	まとめ・総括	板書をノートにまとめ提出	
16	最終テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献: 栢木厚「栢木先生のITハ スポ ート教室」技術評論社		
	学びの手立て 板書を自分なりに解釈しノートにまとめることで理解を深めます。各分野毎にITパスポート試験の過去問題を解説します		
	評価 レポートの提出状況(65%)+最終試験の点数(35%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目: コンピュータ概論
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報と社会	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	2年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人間は情報に対してどのように関わり、歩んできたのだろうか。現代社会の中で、情報の役割と情報技術がもたらす影響、インパクト、それに伴う人間社会の変容、さらに光と影を多面的に検討することをねらいとする。	情報化時代にどのような取り組みやどのような経済効果が期待されているかなどを体系的に学びます。
到達目標	1. ICTが及ぼす消費生活、経済、産業、政治、文化、教育などへの影響について説明することができる。 2. 今後ますます進歩し続ける情報技術とその社会に対して自分の意見を述べる事が出来る。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	1回目：情報に関し、収集、分析、判断、評価の定義 2回目：情報とメディアリテラシーの関係を見出す 3回目：人・社会・技術 (人間と情報とのかかわりを探り、ICT社会の未来を見つめる) 4回目：ユビキタス情報社会 (身のまわりにある情報化 (IT化) を認識し、どのような役割を担っている) 5回目：情報化と消費者心理 (行動心理学的な観点から情報化社会が生み出した行動変容を探る) 6回目：情報経済の構造 (ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する) 7回目：情報経済の構造 (ICTの社会的影響と情報経済を変化とその問題点を理解する) 8回目：情報の保管・運営 (日本における、コンテンツの利用法とアーカイブの役割を理解する) 9回目：情報化社会における創造性 (学校教育の役割と人材育成について理解を深める) 10回目：情報化社会における創造性 (学校教育の役割と人材育成について理解を深める) 11回目：通信と放送の融合 (コンテンツ作成手法と放送との融合メリットを探る) 12回目：情報社会の未来 (理想的なICT利用と新しいコミュニケーションの形を考える) 13回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。 14回目：補講 上記の授業について時間不足が生じた場合補講とする。 15回目：振り返り 16回目：最終試験
	テキスト・参考文献・資料など
特にテキストの指定はしない、適宜レジュメを配布する。 インストラクショナルデザインの原理 (鈴木克明監訳：北大路書房)、情報技術と社会 (大岩元、辰巳文雄：放送大学教育振興会)、各種統計 (総務省Webサイト参照)	
学びの手立て	
情報化時代において様々なメリットやデメリットが生じていて、その光と影が我々の生活や経済の中で影響を与えているかをテレビや新聞などのメディアに関心をもつこと。	
評価	
授業への参加姿勢 (20%)、最終試験 (80%) を総合的に判断、評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	沖縄においても日本においても、世界においても情報化の波は衰えることはなく、その情報化がどう経済に影響を与えているか、専門科目の基礎知識となる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報文化論 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	近年、情報文化という言葉が頻りに耳にするが、この言葉によって何を意図しようとするのかは、明確ではない。これは情報文化という概念がまだ定着しておらず、いろいろな意味合いで使用されているからである。そこで本授業では、情報文化の歴史を通して使用例、定義例を紹介し、それらと現在の情報環境を学で自分自身の定義を組み立てることをねらいとする。	メディアの歴史をとおして、どのように生まれ、どのように影響を与え、変遷してきたかを学ぶ科目である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報文化に関し自分の言葉で定義することができる 2. 情報リテラシー能力 (収集、分析、発信、著作など) を身につけることができる 3. 社会において情報文化がもたらす光と影を説明することができる 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1週目 授業内容の確認と事前テスト (情報、メディアに関するテスト) 2週目 情報文化に関する世界各国の定義 3週目 情報とメディアリテラシー 4週目 情報を運ぶ媒体の歴史 5週目 カルチャラル・スタディーズ 6週目 情報伝達の基本的理論と概念 7週目 メディアの時代 (新聞・印刷技術の発展) 8週目 中間試験 (習得度確認) 9週目 メディアの知 (プロパガンダ) 10週目 電話・電信の歴史と利用法 11週目 マス・メディアとしてのラジオ 12週目 テレビの変遷 (テレビの波及効果) 13週目 情報メディアがもたらす家族の変化 14週目 特別講義 (メディア企業関連) 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>レジメや資料を配布する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定
	<p>学びの手立て</p> <p>メディアの誕生と発展・発達に関心を持ち、メディアの重要性を理解する。</p>
評価	事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>情報文化論Iでは、メディアの歴史と変遷を学ぶと同時に、我々の生活の中での諸問題とどう向き合っているか問う情報文化論IIへ繋げていく。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報文化論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	情報文化論IIでは、情報文化論Iで習得した知識をさらに深め、様々な定義に基づいて情報文化の諸側面(情報の重要さ, 情報機器, 情報リテラシー, 情報管理体制, 制度, 文化的側面), 情報文化の事例, わが国、わが県における情報文化の特徴について学ぶ。また、県内企業との連携も図り現場での情報技術がどのように社会貢献しているか学ぶ。	情報に関わる方々にも講義を行ってもらい、情報が我々の生活の中でどのように文化として定着していくかなどを学ぶ。		
学びの準備	到達目標			
	1. 情報文化が社会にもたらす影響を説明することが出来る。 2. 情報技術を利用した現場を視察し、情報文化の動向を説明することが出来る。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)		
		1週目 授業内容の確認と事前テスト (情報文化論Iで学んだことも含む) 2週目 情報文化がもたらす社会への影響 (経済) 3週目 情報文化がもたらす社会への影響 (教育・家族) 4週目 複合的なメディアリテラシー 5週目 複合的なメディアリテラシー 6週目 事例を通して批判的理論と実践 7週目 事例を通して批判的理論と実践 8週目 中間試験 (習得度確認) 9週目 県内視察 (メディア関連施設) 10週目 情報文化における広告手法の変遷 11週目 アジアの情報文化事例 12週目 アジアの情報文化事例 13週目 特別講義 (IT企業関連) 14週目 情報文化における編集活動の変容 15週目 ふりかえり 16週目 最終試験		
	テキスト・参考文献・資料など	レジメや資料を配布する。 1. 総務省白書、2. 情報文化関連参考文献、3. 情報検定、4. DVD、ビデオ教材		
	学びの手立て	情報に関わる方を招いて、情報に関する事を多角的な視点から考えることが出来る。		
学びの継続	評価	事前・事後テスト、最終試験、授業・態度状況を総合的に鑑み、判断する。		
	次のステージ・関連科目	この科目をとおして、情報化時代の新たな可能性を探り、経済と結びつけ、情報化時代の巨大市場を専門的な角度から取り組み、専門演習などに繋げる。		

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那覇 徹也	1年	yonaha-t@niac.or.jp 講義終了後に教室でも適宜受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。	基礎的なパソコン操作を学びます。操作スキルに個人差があると思いますが、予習、復習を大事に、教え合ってください。分からないことがあった場合は適宜質問してください。

到達目標
①パソコンの基本的な操作方法を習得する。 ②Word、Excel、PowerPointの基本的な操作方法を身につける。 ③各機能を用いて、文書作成、表計算、プレゼンテーション等ができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	シラバスの確認
	2	基本的な操作方法と日本語入力の練習	パソコン操作に慣れる
	3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法	メール作成例の予習、復習
	4	ワードの操作方法（1）	基本的な文書作成の予習、復習
	5	ワードの操作方法（2）	基本的な文書作成の予習、復習
	6	ワードの操作方法（3）	各機能の予習、復習
	7	ワードの操作方法（4）	各機能の予習、復習
	8	エクセルの操作方法（1）	基本的な表計算の予習、復習
	9	エクセルの操作方法（2）	基本的な図表作成の予習、復習
	10	エクセルの操作方法（3）	基本的な図表作成の予習、復習
	11	エクセルの操作方法（4）	各機能の予習、復習
	12	エクセルの操作方法（5）	各機能の予習、復習
	13	パワーポイントの操作方法（1）	活用例の予習、復習
	14	パワーポイントの操作方法（2）	プレゼンテーションの準備
15	パワーポイントの操作方法（3）	プレゼンテーションの準備	
16	最終課題（プレゼンテーションを予定）	プレゼンテーションの準備	

テキスト・参考文献・資料など	テキストなし。毎回資料を配付します。
----------------	--------------------

学びの手立て	毎回、出欠確認を行います。 自主的にパソコン等で情報収集し、実際のビジネスメールや論文、統計データ、白書、プレゼン資料などに触れる機会を持ちましょう。
--------	--

評価	平常点・講義態度：50%、課題提出・内容：50% ※3分の1以上の欠席は不可となります。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 今後の大学生活や社会生活において広く必要とされる技能です。受講終了後も自主学習し、スキルアップを目指しましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	今後の大学生活や社会生活において必要とされる、情報機器の基礎的な操作技能の修得を目指します。具体的には、基礎的なコンピュータの操作方法やインターネット・メールの使い方等をはじめ、ワードやエクセル、パワーポイントの基本的な操作方法について説明します。	1年次必須科目です。クラス分けにしたがって登録してください。すでにPC操作に慣れている人もいます。全員が一定レベルの操作ができるように、助け合ってください。毎回出席し、課題を時間内に提出してください。

到達目標
大学ポータルサイトの活用、学内メールの使い方をマスターする。 ワード、エクセル、パワーポイントの基本的な操作方法を身につける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	基本的な操作方法と日本語入力の練習	
	3	インターネットの活用方法と電子メールの利用方法	
	4	ワードの操作方法 (1)	
	5	ワードの操作方法 (2)	
	6	ワードの操作方法 (3)	
	7	ワードの操作方法 (4)	
	8	エクセルの操作方法 (1)	
	9	エクセルの操作方法 (2)	
	10	エクセルの操作方法 (3)	
	11	エクセルの操作方法 (4)	
	12	エクセルの操作方法 (5)	
	13	パワーポイントの操作方法 (1)	
	14	パワーポイントの操作方法 (2)	
15	パワーポイントの操作方法 (3)		
16			

テキスト・参考文献・資料など
テキストは開講時に指示します。

学びの手立て
中間テスト・期末テストは行いません。 毎回の出席と課題提出が重要です。 課題を授業中に指示します。授業時間内に提出すること。

評価
課題(提出状況・内容)に基づき評価する。

学びの継続
次のステージ・関連科目 経済情報処理Ⅰ、経済情報処理Ⅱ等

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	西洋経済史 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済の歴史、とりわけ、西洋社会の経済の歴史を学ぶことで、経済学をはじめとした社会科学の理解を促すことをねらいとする。西洋経済史Iでは、古代から産業革命までを扱う。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 西洋社会の発展を経済的な側面から理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	
	2	イントロダクション1：世界史を振り返る	
		時間外学習の内容	
	3	イントロダクション2：経済史とは	事前にシラバスを読むこと
	4	古代から中世へ：ヨーロッパにおける市場社会の形成	事前：教科書を読む、事後：課題
	5	近世（1）ヨーロッパの成長と拡大	事前：教科書を読む、事後：課題
	6	近世（2）経済危機と国家の形成～イギリスを中心に	事前：教科書を読む、事後：課題
	7	近世（3）なぜ最初にヨーロッパが工業化したのか	事前：教科書を読む、事後：課題
	8	近世（4）産業革命をめぐる議論～経済史学説史	事前：教科書を読む、事後：課題
	9	近代（1）イギリス産業革命の諸相	事前：教科書を読む、事後：課題
	10	近代（2）産業革命の社会的帰結～生活水準論争	事前：教科書を読む、事後：課題
	11	近代（3）19世紀末の「第二次産業革命」～社会政策の始まり	事前：教科書を読む、事後：課題
	12	近代（4）北米経済の台頭	事前：教科書を読む、事後：課題
	13	近代（5）アメリカとヨーロッパの関係	事前：教科書を読む、事後：課題
	14	近代（6）世界大戦の経済史的意味	事前：教科書を読む、事後：課題
	15	まとめ	事前：教科書を読む、事後：課題
	16	期末試験	全講義の復習
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：奥西孝至ほか『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年。 参考書：秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』（中公新書2167）中央公論新社、2012年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験40%、複数回の事後課題（ミニレポートなど）40%、受講態度（グループワークへの参加など）30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 西洋経済史IIの受講を勧めます。
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	西洋経済史Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 経済の歴史、とりわけ、西洋社会の経済の歴史を学ぶことで、経済学をはじめとした社会科学の理解を促すことをねらいとする。西洋経済史Ⅱでは、先進資本主義国であったイギリスの発展を世界経済との関連に触れながら振り返り、現代のグローバルな経済の理解へとつなげる。なお、本講義は西洋経済史Ⅰを受講していることを前提として進める。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 西洋社会の発展を経済的な側面から理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等について	事前にシラバスを読むこと
	2	イントロダクション～西洋経済史Ⅰを振り返る	事前：教科書を読む、事後：課題
	3	現代アジアの経済的再興とイギリス帝国	事前：教科書を読む、事後：課題
	4	環太平洋世界と東インド（1）イギリス帝国の起源と商業革命	事前：教科書を読む、事後：課題
	5	環太平洋世界と東インド（2）イギリス北米植民地とアジア貿易	事前：教科書を読む、事後：課題
	6	環太平洋世界と東インド（3）イギリス産業革命はあったのか？	事前：教科書を読む、事後：課題
	7	自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ（1）自由貿易帝国主義	事前：教科書を読む、事後：課題
	8	自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ（2）ジェントルマン資本主義	事前：教科書を読む、事後：課題
	9	自由貿易帝国とパクス・ブリタニカ（3）ヘゲモニー国家イギリスと近代日本	事前：教科書を読む、事後：課題
	10	脱植民地化とコモンウェルス（1）帝国からコモンウェルスへ	事前：教科書を読む、事後：課題
	11	脱植民地化とコモンウェルス（2）脱植民地化の進展	事前：教科書を読む、事後：課題
	12	脱植民地化とコモンウェルス（3）パクス・アメリカーナへ	事前：教科書を読む、事後：課題
	13	グローバルヒストリーとイギリス帝国	事前：教科書を読む、事後：課題
	14	第二次大戦後の世界経済	事前：教科書を読む、事後：課題
15	まとめ	事前：教科書を読む、事後：課題	
16	期末試験	全講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：秋田茂『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』（中公新書2167）中央公論新社、2012年。 参考書：奥西 孝至ほか『西洋経済史（有斐閣アルマ）』有斐閣、2010年。		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 期末試験40%、複数回の事後課題（ミニレポートなど）40%、受講態度（グループワークへの参加など）30%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	3年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 2年次までに修得した知識や経験を活かし、経済学における調査・研究を行い、報告・議論を重ね、地域経済、沖縄経済、世界経済の動向や課題を解決法を授業の中で学ぶねらいがある。	メッセージ 論理的に考察するために、システム化された解決手法を修得し、与えられた課題に取り組んで欲しい。
	到達目標 経済・社会の問題を論理的考え、説明することができる。 調査・研究を学生どうしで協力し、問題解決することができる。 与えられた課題の発表し、企画を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 論的思考とは（第1回） 3. 論的思考とは（第2回） 4. 論的思考とは（第3回） 5. 図解思考法（第1回） 6. 図解思考法（第2回） 7. 図解思考法（第3回） 8. 経済問題に取り組む（第1回グループワーク） 9. 経済問題に取り組む（第2回グループワーク） 10. 経済問題に取り組む（第3回グループワーク） 11. 発表 12. 発表 13. 調査手法（事例：プロジェクト形式） 14. 調査手法（事例：プロジェクト形式） 15. 調査手法（事例：プロジェクト形式） 16. ゼミ調査の計画
	テキスト・参考文献・資料など 参考資料・文献として以下のような書籍を紹介する <ol style="list-style-type: none"> 1. 「実践行動経済学」リチャード・セイラー 2. 「プロジェクトなぜ失敗するのか」伊藤健太郎 3. 「問題解決手法」堀公俊 4. 「インストラクショナル・デザイン」島宗 理
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ形式の授業では1日休むとついて行けないことから、遅刻や欠席は避けること。 2. 目的意識をもって授業に臨むこと。積極的に調査・研究・発表をすること。
	評価 期末ではゼミ論を作成するので、それに向けての各段階での作業を行っているかは重要な評価対象である。

学びの継続	次のステージ・関連科目 期末に行う「ゼミ論」や4年次行う「卒論」に向けての取組を明確にすること。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業の前後の時間に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	1,2年次の基礎演習をもとに、論文・レポートの書き方や文献・資料の調べ方、プレゼンテーションの仕方などについて、より深く学ぶ。経済学や社会学など関連する学術書の輪読を基礎とし、文章を読むことや書くことを習慣化するとともに、ゼミ生同士のディスカッションを通じて、他者の意見から学びつつ、自身の考える力を養うことを目標とする。	多彩なメンバーと交流しながら、個々が楽しんで学べる空間をともに作りましょう。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術書の内容を理解し、適切に要約することができる 2. 他者とコミュニケーションを取りながら、文章の理解をすすめることができる 3. 他者の異なる考え方を理解し、論理的に批判することができる 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方・評価方法などについて／課題図書についての説明	シラバスを読む
	2	輪読のための準備：レジュメ作りの基礎／課題図書の決定	
	3	輪読1-1：教科書のレジュメ作成と議論	教科書を読む、レジュメ作成
	4	輪読1-2：教科書のレジュメ作成と議論	教科書を読む、レジュメ作成
	5	輪読1-3：教科書のレジュメ作成と議論	教科書を読む、レジュメ作成
	6	輪読1-4：教科書のレジュメ作成と議論	教科書を読む、レジュメ作成
	7	輪読2-1：課題図書のレジュメ作成と議論	教科書を読む、レジュメ作成
	8	輪読2-2：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成
	9	輪読2-3：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成
	10	輪読2-4：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成
	11	輪読3-1：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成
	12	輪読3-2：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成
	13	輪読3-3：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成
14	輪読3-4：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成	
15	輪読3-5：課題図書のレジュメ作成と議論	課題図書を読む、レジュメ作成	
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など	<p>教科書（必携！）：井出英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科 未来を語るために』有斐閣、2017年。</p> <p>参考書：①松元茂，河野哲也『大学生のための読む，書く，プレゼン，ディバートの方法（改訂第二版）』玉川大学出版部，2015年。 / ②橋本努『学問の技法』筑摩書房，2013年。</p> <p>※その他，2冊の課題図書（必携）をゼミで相談し決めます。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。 ・欠席の場合，ゼミ開始前に連絡をすること。 		
評価	<p>受講態度（ゼミ中の発言など）40%，複数回のレジュメ作成 40%，ゼミ生同士の相互評価 20%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I Bに続く
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ダイナミックに成長するアジア諸国の工業化波及は、日本→NIES→ASEAN→中国・ベトナム→ミャンマーへと進んでいる。工業化波及の進展は、プロダクト・サイクル論の一環として捉えることもできるが、日本を起点とした波及サイクルは、現在どこまで進んでいるのか、データ等の分析を通じて検証していく。	講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、プレゼンテーションを行う場合は、十分な準備をして臨んでください。
到達目標	本演習を通して ①プレゼンテーションの際にはパワーポイントを使用する。 ②アジア経済と日本経済の関わりについて学んでいく。 ③アジア各国の発展段階がどのような位置にあるのか、またどのような問題を抱えているのかを研究する。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	第1週 研究対象分野の選択	テキストの予習・復習	
	2	第2週 各人の研究テーマの設定	同上	
	3	第3週 研究方法の説明とプレゼンテーションの方法	同上	
	4	第4週 研究調査・文献検索図書館	同上	
	5	第5週 第1回発表会	同上	
	6	第6週 第2回発表会	同上	
	7	第7週 第3回発表会	同上	
	8	第8週 第4回発表会	同上	
	9	第9週 第5回発表会	同上	
	10	第10週 第6回発表会	同上	
	11	第11週 第7回発表会	同上	
	12	第12週 第8回発表会	同上	
	13	第13週 第9回発表会	同上	
	14	第14週 第10回発表会	同上	
15	第15週 第11回発表会	同上		
16	第16週 まとめ 前期末試験			
実践	テキスト・参考文献・資料など	1. 渡辺 利夫編『アジアの経済読本』[第4版] 東洋経済 2. 経済白書(図書館) 3. 世界経済白書(図書館) 4. 東アジア長期経済統計[台湾]		
	学びの手立て	1. 出欠確認は毎回厳格に行いますのでやむ得ず遅刻・欠席する場合は、必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーションに対して、質問のある人は発表後に質問してください。		
	評価	1. プレゼンテーションを行うこと (40%) 2. 質問を行うこと。多いほど評価は高い (10%~20) 3. レポート提出 (40%) 4. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない 5. 評価は総合点で行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	1. アジア関連文献を多く読むこと。 2. 日本経済新聞を毎日読破する。

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。また、企業や事業所の訪問調査とその結果のプレゼンテーションを実施しながら、生きた経営を学んでいく。	1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。 2) 積極的な質疑応答を期待する。
到達目標	1) ビジネスマナーを身につける。 2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。 3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (自己紹介等)	
2	報告レジュメ作成、ディスカッションの仕方、報告割当	ビジネスマナーを身につける	
3	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築	
4	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築	
5	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築	
6	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築	
7	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築	
8	工場見学または課外授業	ビジネスマナーとQ&A技法の構築	
9	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築	
10	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築	
11	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築	
12	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築	
13	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築	
14	経営学関係のビデオ/DVD学習	Q&A技法の構築	
15	専門演習 I Aの反省会・総括		
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	参考になる文献は適宜紹介する。		
学びの手立て	①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。 ②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。		
評価	受講意欲 (30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション (40%)、課外学習における諸活動 (30%) を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B、キャリアデザイン A (共通)、キャリアデザイン B (共通)
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 論理的思考を身につける。 書籍を輪読し議論する。	メッセージ 納得いく説明と納得いかない説明は、何が違うのでしょうか。
	到達目標 論理的思考を身につける。 書籍を輪読し議論する。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論理的思考とは何か
- 第3回～5回 論理的思考のトレーニング
- 第6回～10回 ディスカッション
- 第11回～15回 輪読・発表

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの継続	評価 発表、参加姿勢、提出物に基づき評価する。
	次のステージ・関連科目 専門演習 I B・専門演習 II AB

※ポリシーとの関連性

経済・社会の問題を論理的に考え、意見を述べ、問題解決の方法を提案する力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	演習 II における卒業論文作成に向けた経済学の専門知識を深めていくことと、雇用失業や財政、産業など沖縄県及び全国の社会経済への認識を、論文や専門書の輪読等によって深めていく。日本や沖縄の社会・経済の現状を冷静に分析し、どうすれば地域が発展し、住民が幸福になるのか、グループ討議も含め議論を重ねながら、一緒に考えていく。	論理的に考察する力と企画提案力、日常のことを経済学的に考えることができるようになってほしい。また、後期のグループワークに備え、ゼミ生同士の親睦を深めるため、スポーツ大会やレクリエーションなども自主的に企画してほしい。
到達目標	経済・社会の問題を論理的に考えることができる。 学生同士協力しながら、問題解決の方法を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義予定など）	
	2	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど） I	新聞の記事を図解する
	3	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど） II	同上
	4	論理的な考え方（図解思考法、マインドマップなど） III	同上
	5	経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える） I	テーマについて考える
	6	経済問題に対するディスカッション（日常のテーマを経済学的に考える） II	同上
	7	専門書、論文等の輪読 I テキスト：「経済学で現代経済を読む」	テキストの予習・復習
	8	専門書、論文等の輪読 II	テキストの予習・復習
	9	専門書、論文等の輪読 III	テキストの予習・復習
	10	専門書、論文等の輪読 IV	テキストの予習・復習
	11	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など） I	配布資料の予習・復習
	12	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など） II	同上
	13	調査手法を学ぶ（課外授業、外部講師による講義など） III	同上
14	調査手法をによる、グループワーク	グループによる調査	
15	グループ同士による議論	同上	
16	前期総括及び夏休みの課題テーマの発表など	夏休み計画作成	
実践	テキスト・参考文献・資料など 特にないが、そのつど紹介する 「問題解決力」稲崎宏治 ダイアモンド社、「寓話で学ぶ経済学」ラッセル・ロバーツ 日本経済新聞社、 「経済学で現代経済を読む」ダグラス・ノース他 日本経済新聞社 など		
学びの手立て	講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 毎回のゼミにおいては、目的意識を持って臨むようにする。		
評価	発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次における、卒論、就活の取り組みが明確な目標のもとできる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく把握し、その理解に基づき問題・課題を自分の頭で考え、問題・課題に対する自分なりの答えを見出すことができる能力を養う。特に沖縄が現在、抱えている課題等については、それぞれが自分なりの見解をもてるようになることを目指す。</p>	<p>専門ゼミを通じて、経済に関する知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、社会生活や仕事に必要な忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを獲得することにより、「ケイパビリティ（潜在能力）」を高めて将来の選択肢、自由度を増やせるようにしましょう。そのため、教室内の勉強だけでなく合宿等のゼミ活動にも積極的に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 社会的・経済的な問題・課題を発見し分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。</p> <p>2. 問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。</p> <p>3. その論理が正しいかどうかを統計的検証や議論等の中で確認し、自分なりの問題解決方法（案）を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。また間違っていることがわかれば、更なる情報収集・分析・考察を通じて再考することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（専門演習 I Aの目標、進め方等）	
	2	大学生活再考（現状と将来設計等）	これまでの学生生活を振り返る
	3	グループ別調査の今後の予定について	
	4	調査テーマについてのグループ報告、ディスカッション①	報告の準備
	5	調査テーマについてのグループ報告、ディスカッション②	//
	6	調査テーマについてのグループ報告、ディスカッション③	//
	7	調査テーマについてのアンケート作成①	質問項目の作成
8	調査テーマについてのアンケート作成②	//	
9	調査テーマに関する文献の報告、ディスカッション①	報告の準備	
10	調査テーマに関する文献の報告、ディスカッション②	//	
11	アンケート結果の集計と報告①	資料作成と考察	
12	アンケート結果の集計と報告②	//	
13	今後の課題について報告、ディスカッション①	報告準備	
14	今後の課題について報告、ディスカッション②	//	
15	総括		
16	※15回のいずれかにゼミ合宿等を予定しますので参加すること		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	社会・経済問題に関心を持つために日頃から新聞を読むようにしてください。また読書も心がけてください。		
評価	<p>欠席が3分の1以上の場合は不可とする。バイトによる欠席は認めない。</p> <p>評価は授業参加度（30%）、プレゼン・課題提出・発言等の認知スキルに関する部分（40%）、リーダーシップ・チームワーク等の非認知スキルに関する部分（30%）により総合的に評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	3年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済に関する文献の講読を通じて、経済現象を科学的に分析する能力を養う。また、経済分析の手法を学ぶことでレポート作成技術の向上を図る。	メッセージ 経済学的思考は社会人になっても必ず役に立ちます。
	到達目標 経済社会の諸課題について分析し、課題解決のための政策提言ができる力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義説明、専門演習 I A の目標設定、アンケート等 -
	2	大学生活に関する自己評価① - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -
	3	大学生活に関する自己評価② - 修学の状況、研究テーマ、将来設計等 -
	4	経済文献の輪読① - 公共経済学、経済政策関連文献の選定 -
	5	経済文献の輪読② - レジューメ作成・報告、ディスカッション -
	6	経済文献の輪読③ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -
	7	経済文献の輪読④ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -
	8	経済文献の輪読⑤ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -
9	経済文献の輪読⑥ - レジューメ作成・報告、ディスカッション -	
10	経済分析の手法 - 経済データの見方、経済分析の手法紹介 -	
11	グループ調査① - テーマ選定、構成案等の検討 -	
12	グループ調査② - データ収集、調査等 -	
13	グループ調査③ - データ収集、調査等 -	
14	グループ調査報告① - パワーポイントによる報告 -	
15	グループ調査報告② - パワーポイントによる報告 -	
16	講義のまとめ	
	時間外学習の内容	
	大学生生活の中間評価	
	大学生生活の中間評価	
	文献の選定	
	指定文献の精読	
	指定文献の精読	
	指定文献の精読	
	指定文献の精読	
	指定文献の精読	
	経済統計・計量経済学の予習	
	グループワーク	
	グループワーク	
	グループワーク	
	グループワーク	
	グループワーク	
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指定する。	
	学びの手立て 卒業論文の作成を視野に入れつつ、ゼミ（講義）に参加すること。	
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 I B
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次の卒業論文作成に向けた準備を行います。	専門演習では、個人の関心をベースにしたテーマ設定を行い、そのテーマに基づき、課題深めていきます。3年次から4年次の卒業論文作成に向けた準備をすることで、大学での学びを一つの成果にまとめていくことを意識します。より現実的な問題意識を持たせるため、実践的な活動（課外）を盛り込んでいきます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことができる。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。 ③他者の示したテーマに関して積極的に意見交換し、問題意識の共有と理解を図り、社会問題全般に関心を払うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー専門演習の進め方について	シラバスを読む
	2	グループ報告、個人報告の準備ー報告の割り当て	基礎演習時の課題提出
	3	グループ別のテーマ設定について	グループでの報告準備
	4	個人報告のテーマについて①	個人テーマについての報告準備①
	5	個人報告のテーマについて②	個人テーマについての報告準備②
	6	グループ報告、個人報告、ディスカッション①	各グループ、各個人の報告準備①
	7	グループ報告、個人報告、ディスカッション②	各グループ、各個人の報告準備②
	8	グループ報告、個人報告、ディスカッション③	各グループ、各個人の報告準備③
	9	グループ報告を振り返って	グループ作業を通しての振り返り
	10	個人報告、ディスカッション①	個人テーマに関する資料作成①
	11	個人報告、ディスカッション②	個人テーマに関する資料作成②
	12	個人報告、ディスカッション③	個人テーマに関する資料作成③
	13	個人報告、ディスカッション④	個人テーマに関する資料作成④
	14	個人報告、ディスカッション⑤	個人テーマに関する資料作成⑤
15	前期演習を振り返ってーテーマの深掘りとステップアップ	研究テーマについて考える	
16	※上記演習計画とは別に学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。		

テキスト・参考文献・資料など
 ※テキストは特に指定しませんが、各自関心のあるテーマに関する文献・論文を紹介してもらい、それらを演習の際活用することがあります。

学びの手立て
 ○履修の心構え
 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。
 テーマ設定を行い、一つの課題を深めていく作業、継続して考え抜くことを意識してください。
 ○学びを深めるために
 問題発見と解決に向けた課題設定は一つとは限りません。一つもテーマに対し、考え続ける力も必要です。

評価
 演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価する。
 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」

学びの継続
 次のステージ・関連科目
 4年次の専門演習 II A、II Bにおいて、卒業論文作成にあたる

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I A	前期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、2年次までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、沖縄県や日本、諸外国の財政に係わる経済社会問題について、新聞記事を読む、また専門書を輪読することで、さまざまな角度から理解を深めていきます。担当者が要旨・解説・問題提起をし、それに対し議論することで、プレゼンテーションや議論の能力、経済社会現象に対する見方・考え方を高めていきます。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。 2. 経済や財政に関する現象を発見し、客観的かつ多面的に分析することができる。 3. 沖縄県や日本、諸外国の経済や財政に関する問題点を明らかにし、その問題点を経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べるができる。 4. 他の学生の意見を理解して、自らの意見を的確にかつ論理的に述べるができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	新聞記事を読む・テキストを輪読する①	○新聞記事を読む
	3	新聞記事を読む・テキストを輪読する②	・担当者は、形式にしたがって資料を作成し、問題提起をする
	4	新聞記事を読む・テキストを輪読する③	
	5	新聞記事を読む・テキストを輪読する④	
	6	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑤	○テキストを輪読する
	7	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑥	・担当者は、指定箇所について形式にしたがって資料を作成し、問題提起をする
	8	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑦	
	9	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑧	
	10	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑨	・担当者以外の学生は、指定箇所を読み、疑問点や意見をまとめる
	11	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑩	
	12	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑪	
	13	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑫	
	14	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑬	
15	新聞記事を読む・テキストを輪読する⑭		
16	総括		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは演習開始時に指示します。 参考文献は授業で適宜紹介します。

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 ・この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみならず、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気貢献してください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。 <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、さまざまな時事問題に関心を持ってほしいと思います。
--------	---

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・担当する「報告」（作成した資料を含む）70%、発言など授業での「平常点」30%で評価します。 ・到達目標1、2、3は「報告」、到達目標4は「平常点」で確認します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「専門演習 I A」「専門演習 I B」は、4年次の「専門演習 II A」「専門演習 II B」の先修科目として位置づけられています。3年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 ・「専門演習 I A」「専門演習 I B」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	3年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、3年前期までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、学生がそれぞれの興味関心にもとづいて、具体的な現実の経済問題について自主的に研究を進めていき、最終的にゼミ論文を完成させます。ゼミ論文は卒業論文につながるものです。各自設定したテーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、発表し、討議することで、より優れたゼミ論文を完成できるようにします。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
	到達目標	
	1. ゼミ論文のテーマの設定、研究計画と論文構成の構築、先行研究を経て、作成中のゼミ論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。 2. ゼミ論文のテーマについて、経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べるができる。 3. 他の学生のゼミ論文の中間報告において、互いに適切なアドバイスをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	ゼミ論文の作成のしかた①	
	3	ゼミ論文の作成のしかた②	
	4	ゼミ論文の作成のしかた③	
	5	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導①	ゼミ論文の進捗状況の報告①～⑩
	6	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導②	・報告担当者は形式にしたがい、
	7	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導③	発表の準備をする
	8	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導④	・報告者以外の学生も含め、すべての
	9	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑤	の学生がゼミ論文の作成を進める
	10	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑥	
	11	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑦	
	12	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑧	
	13	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑨	
	14	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑩	
15	ゼミ論文の進捗状況の報告・作成指導⑪		
16	ゼミ論文の提出	ゼミ論文を完成する	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキストは使用しません。参考文献は以下のほか、授業で適宜紹介します。 【参考文献】 ・白井利明・高橋一郎。2013年。『よくわかる卒論の書き方』第2版。ミネルヴァ書房。 ・二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子。2009年。『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会。

学びの手立て	【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 ・この授業では、学生の多様な考え方や経験を尊重します。学生のみなさんにも、自分と異なる考え方や経験を尊重し、ともに学び合う雰囲気にご貢献してください。しかし、誰かを傷つける差別的な言動は受け入れられないことを理解しておいてください。 【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、さまざまな時事問題に関心を持ってほしいと思います。
--------	--

評価	・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・提出した「ゼミ論文」50%、ゼミ論文の「進捗状況の報告」20%、発言など授業での「平常点」30%で評価します。 ・到達目標1、2は「ゼミ論文の報告」「進捗状況の報告」のそれぞれにおいて、到達目標3は「平常点」で確認します。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「専門演習 I A」「専門演習 I B」は、4年次の「専門演習 II A」「専門演習 II B」の先修科目として位置づけられています。3年次で習得した力・スキルをさらに向上させてください。 ・「専門演習 I A」「専門演習 I B」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業の前後の時間に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 専門演習 I Aに引き続き、経済学や社会学など関連する学術書の輪読を基礎とし、文章を読むことや書くことを習慣化するとともに、ゼミ生同士のディスカッションを通じて、他者の意見から学びつつ、自身の考える力を養うことを目標とする。	メッセージ 前期に引き続き、楽しく学べる空間をみんなで作り上げましょう。
	到達目標 1. 学術書の内容を理解し、適切に要約し、理解することができる 2. 他者の異なる考え方を理解し、論理的に批判することができる 3. 自分の関心に沿ったテーマを設定し、個人研究をすすめることができる 4. 個人研究の成果をわかりやすく他者に説明することができる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方・評価方法などについて	シラバスを読む
	2	個人研究のためのオリエンテーション：テーマと構成を考える	
	3	輪読1-1：課題図書1のレジюме作成と議論	個人研究
	4	輪読1-2：課題図書1のレジюме作成と議論	個人研究
	5	輪読1-3：課題図書1のレジюме作成と議論	個人研究
	6	輪読1-4：課題図書1のレジюме作成と議論	個人研究
	7	輪読1-5：課題図書1のレジюме作成と議論	個人研究
	8	個人研究：中間発表（全員）	個人研究
	9	輪読2-1：課題図書のレジюме作成と議論	個人研究
	10	輪読2-2：課題図書のレジюме作成と議論	個人研究
	11	輪読2-3：課題図書のレジюме作成と議論	個人研究
	12	輪読2-4：課題図書のレジюме作成と議論	個人研究
	13	輪読2-5：課題図書のレジюме作成と議論	個人研究
	14	個人研究発表1	
15	個人研究発表2		
16	総括		
テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携！）：2冊の課題図書（必携）をゼミで相談し決めます。 参考書：①松元茂，河野哲也『大学生のための読む，書く，プレゼン，ディバートの方法（改訂第二版）』玉川大学出版部，2015年。 / ②橋本努『学問の技法』筑摩書房，2013年。 ※その他，2冊の課題図書（必携）をゼミで相談し決めます。			
学びの手立て ・他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。 ・欠席の場合，ゼミ開始前に連絡をすること。			
評価 受講態度（ゼミ中の発言など）20%，複数回のレジюме作成 30%，個人研究の取り組み状況 30%，ゼミ生同士の相互評価（個人研究および輪読） 20%			

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II Aに続く
-------	-----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	3年	huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習IAでの学習を踏まえ、IBではグループワークを強化し作、学外での活動を視野に入れる。	メッセージ グループワークや作業が増えるので対人関係やチームビルディング手法を身に付け、積極的に作業・発表を行って欲しい。
	到達目標 前期と同じ： 経済・社会の問題を論理的考え、説明することができる。 調査・研究を学生どうしで協力し、問題解決することができる。 与えられた課題の発表し、企画を提案することができる。	

学びの準備	到達目標 前期と同じ： 経済・社会の問題を論理的考え、説明することができる。 調査・研究を学生どうしで協力し、問題解決することができる。 与えられた課題の発表し、企画を提案することができる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 課題のテーマ設定（第1回） 3. 課題のテーマ設定（第2回） 4. 課題のテーマ決定（第3回） 5. 課題のテーマ取組（第1回） 6. 課題のテーマ取組（第2回） 7. 課題のテーマ取組・発表（第3回） 8. 課外活動の取組（第1回） 9. 課外活動の取組（第2回） 10. 中間発表 11. 中間発表 12. ゼミ論（テーマ決定） 13. ゼミ論（作成） 14. セミ論（作成） 15. ゼミ論（作成） 16. ゼミ論（発表）まとめ
	テキスト・参考文献・資料など 参考資料・文献として以下のような書籍を紹介する <ol style="list-style-type: none"> 1. 「実践行動経済学」リチャード・セイラー 2. 「プロジェクトなぜ失敗するのか」伊藤健太郎 3. 「問題解決手法」堀公俊 4. 「インストラクショナル・デザイン」島宗 理

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考資料・文献として以下のような書籍を紹介する <ol style="list-style-type: none"> 1. 「実践行動経済学」リチャード・セイラー 2. 「プロジェクトなぜ失敗するのか」伊藤健太郎 3. 「問題解決手法」堀公俊 4. 「インストラクショナル・デザイン」島宗 理
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ形式の授業では1日休むとついて行けないことから、遅刻や欠席は避けること。 2. 目的意識をもって授業に臨むこと。積極的に調査・研究・発表をすること。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 参考資料・文献として以下のような書籍を紹介する <ol style="list-style-type: none"> 1. 「実践行動経済学」リチャード・セイラー 2. 「プロジェクトなぜ失敗するのか」伊藤健太郎 3. 「問題解決手法」堀公俊 4. 「インストラクショナル・デザイン」島宗 理
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> 1. ゼミ形式の授業では1日休むとついて行けないことから、遅刻や欠席は避けること。 2. 目的意識をもって授業に臨むこと。積極的に調査・研究・発表をすること。

学びの実践	評価 期末ではゼミ論に向けての各段階での作業を行い、3年次の集大成として成果を出しているかは重要な評価対象である。

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次行う「卒論」に向けての取組を明確にすること
-------	---

※ポリシーとの関連性 研究発表することを学び、研究を更に推し進めると共に人前で自由に発表できる人材を育成する。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ダイナミックに成長するアジア諸国の工業化波及は、日本→NIES→ASEAN→中国・ベトナム→ミャンマーへと進んでいる。工業化波及の進展は、プロダクト・サイクル論の一環として捉えることもできるが、日本を起点とした波及サイクルは、現在どこまで進んでいるのか、データ等の分析を通じて検証していく。	講義中は良く聞くことに重点を置いて受講してください。また、プレゼンテーションを行う場合は、十分な準備をして臨んでください。
到達目標	本演習を通して ①プレゼンテーションの際にはパワーポイントを使用する。 ②アジア経済と日本経済の関わりについて学んでいく。 ③アジア各国の発展段階がどのような位置にあるのか、またどのような問題を抱えているのかを研究する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 研究発表について	テキストの予習・復習
	2	第2週 第1回発表会	同上
	3	第3週 第2回発表会	同上
	4	第4週 第3回発表会	同上
	5	第5週 第4回発表会	同上
	6	第6週 第5回発表会	同上
	7	第7週 第6回発表会	同上
	8	第8週 中間まとめ	同上
	9	第9週 第7回発表会	同上
	10	第10週 第8回発表会	同上
	11	第11週 第9回発表会	同上
	12	第12週 第10回発表会	同上
	13	第13週 第11回発表会	同上
	14	第14週 第12回発表会	同上
15	第15週 第13回発表会	同上	
16	まとめ		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	1. 渡辺 利夫編『アジア経済読本』〔第4版〕東洋経済 2. 経済白書(図書館) 3. 世界経済白書(図書館) 4. 東アジア長期経済統計(勁草書房) 5. 日本経済新聞 6. 財務省データ閲覧

学びの実践	学びの手立て
	1. 出欠確認は毎回に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は、必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーションに対して、質問のある人は発表後に質問してください。

学びの実践	評価
	1. パワーポイントを使いプレゼンテーションを行うこと (50%) 2. 質問を行うこと、多いほど評価は高い (10%以上) 3. レポート提出 (40%) 4. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 5. 評価は総合点で行う。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	1. アジア関連文献を10冊以上読むこと。 2. 日本経済新聞を毎日読破する。

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」しつつ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室 (5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り寄せを図ることにある。経営学を基礎とする演習であるが、とりわけ営利企業や非営利企業などを横断的に学べる機会を提供する。”</p> <p>本演習の基本目的は、テキストの報告や討論のみならず、課外授業や社会人特別講師による授業を盛り込みながら、学問と現実の擦り</p>	<p>1) 失敗を恐れずプレゼンテーションを実施してほしい。</p> <p>2) 積極的な質疑応答を期待する。</p>
到達目標	<p>1) ビジネスマナーを身につける。</p> <p>2) 受講前より、主体性、傾聴力、発信力、協調性などが身につく。</p> <p>3) 就職活動や進学など自らの進路を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	報告割当、連絡事項ほか	配布物の精読
	2	報告・ディスカッション (1)	プレゼンとQ&A技法の構築
	3	報告・ディスカッション (2)	プレゼンとQ&A技法の構築
	4	報告・ディスカッション (3)	プレゼンとQ&A技法の構築
	5	報告・ディスカッション (4)	プレゼンとQ&A技法の構築
	6	報告・ディスカッション (5)	プレゼンとQ&A技法の構築
	7	報告・ディスカッション (6)	プレゼンとQ&A技法の構築
	8	課外授業または社会人特別講師の授業	Q&A技法の構築
	9	報告・ディスカッション (7)	プレゼンとQ&A技法の構築
	10	報告・ディスカッション (8)	プレゼンとQ&A技法の構築
	11	報告・ディスカッション (9)	プレゼンとQ&A技法の構築
	12	報告・ディスカッション (10)	プレゼンとQ&A技法の構築
	13	報告・ディスカッション (11)	プレゼンとQ&A技法の構築
14	報告・ディスカッション (12)	プレゼンとQ&A技法の構築	
15	専門演習 I Bの反省会・総括		
16	予備日		
テキスト・参考文献・資料など	参考になる文献は適宜紹介する。		
学びの手立て	<p>①履修の心構え 単に出席しているだけでは単位の修得にはつながらない。積極的にプレゼンを実施するとともに、プレゼンを受ける場合は積極的な質問を心がける。</p> <p>②学びを深めるために 働く意味を考える。正課内外のキャリアについて意味づけをしてもらいたい。</p>		
評価	受講意欲(30%)、レジュメやパワーポイントによるプレゼンテーション(40%)、課外学習における諸活動(30%)を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II A、キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集
-------	--

※ポリシーとの関連性

経済・社会の問題を論理的に考え、意見を述べ、問題解決の方法を提案する力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 演習 I Aでの学習を踏まえて、後期ではグループ別に興味のあるテーマについて調査を行い、その結果を発表・討議する。また、グループ活動を通して各自の卒論のテーマについても考えていく。	メッセージ グループによる調査、発表が主になるので、グループメンバーの役割分担をしっかりと行い、各自が積極的に参加することが大切。また、途中でスポーツ大会やレクレーションなどで親睦を深めることも必要。
	到達目標 経済・社会の問題を論理的に考えることができる。 学生同士協力しながら、問題解決の方法を提案することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義予定など）	
	2	夏休み課題の発表とディスカッション	課題について考える
	3	外部講師による講義	講義テーマについて質問表作成
	4	グループによる調査研究 I（テーマ選択、研究の企画づくり）	テーマについて議論、企画書作成
	5	同上	同上
	6	グループによる調査研究 II（テーマに基づき統計データなどを収集し、分析する）	統計資料等調べる
	7	同上	同上
	8	グループによる調査研究 III（企業訪問、アンケート実施など）	企業訪問準備、アンケート作成
	9	同上	企業訪問、アンケート実施
	10	同上	同上
	11	中間発表	中間発表準備
	12	グループによる調査研究 IV（中間発表による反省を踏まえ、テーマを深堀していく）	報告まとめ
	13	同上	同上
	14	テーマについてグループ同士のディスカッション	発表に向けた準備
15	最終発表会	発表のリハーサル	
16	後期の反省および総括	卒論テーマを考える	
	テキスト・参考文献・資料など 特になし 適宜紹介する		
	学びの手立て 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。 毎回のゼミにおいては、目的意識を持って臨むようにする。		
	評価 発表への積極性、討議内容、出席及びレポートを総合的に評価する。 講義は毎回出席できること。また、遅刻は減点とするので時間はしっかり守ること。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次における、卒論、就活の取り組みが明確な目標のもとできる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	3年	kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>時代の変化、社会経済の変化等から生まれる様々な課題を正しく把握し、その理解に基づき問題・課題を自分の頭で考え、問題・課題に対する自分なりの答えを見出すことができる能力を養う。特に沖縄が現在、抱えている課題等については、それぞれが自分なりの見解がもてるようになることを目指す。</p>	<p>専門ゼミを通じて、経済に関する知識・理解・判断・論理等の認知スキルだけでなく、社会生活や工作上必要な忍耐力・協調性・やり抜く力・自制心・リーダーシップ等の非認知スキルを獲得することにより、「ケイパビリティ（潜在能力）」を高めて将来の選択肢、自由度を増やせるようにしましょう。そのため、教室内の勉強だけでなく合宿等のゼミ活動にも積極的に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 社会的・経済的な問題・課題を発見し、分析・考察することができる（情報収集・分析・考察能力）。</p> <p>2. 問題・課題の本質を論理的に説明できる（論理力・説明能力）。</p> <p>3. その論理が正しいかどうかを統計的検証や議論等の中で確認し、自分なりの問題解決方法（案）を見つけることができる（解決能力・リーダーシップ）。また間違っていれば、更なる情報収集・分析・考察を通じて再考することができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（専門演習 II Bの進め方、目標等）	
	2	卒業論文の作成要領について	参考資料を読む
	3	課題の発見とテーマの設定について①	社会的課題について考察
	4	課題の発見とテーマの設定について②	〃
	5	テーマ選定、選定理由、参考資料、研究の進め方についての発表・議論①	報告準備
	6	テーマ選定、選定理由、参考資料、研究の進め方についての発表・議論②	〃
	7	テーマ選定、選定理由、参考資料、研究の進め方についての発表・議論③	〃
8	テーマ選定、選定理由、参考資料、研究の進め方についての発表・議論④	〃	
9	研究テーマの構成・章立てについての発表・議論①	〃	
10	研究テーマの構成・章立てについての発表・議論②	〃	
11	研究テーマの構成・章立てについての発表・議論③	〃	
12	研究テーマの構成・章立てについての発表・議論④	〃	
13	予備日①	〃	
14	予備日②	〃	
15	総括		
16	※15回のいずれかにゼミ合宿等の学外活動（授業回数分割当）を予定していますので参加すること		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	社会・経済問題に関心を持つために日頃から新聞を読むようにしてください。また読書も心がけてください。		
評価	<p>欠席が3分の1以上の場合は不可とする。バイトは欠席理由として認めない。</p> <p>評価は授業参加度（30%）、プレゼン・課題提出・発言等の認知スキルに関する部分（40%）、リーダーシップ・チームワーク等の非認知スキルに関する部分（30%）により総合的に評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II A
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	3年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 論理的思考を身につける。	メッセージ 論理的思考を身につける。 金融関係書を輪読・議論する。 金融テーマの小論文を作成する。
	到達目標 論理的思考を身につける。 金融関係書を輪読・議論する。 金融テーマの小論文を作成する。	

学びの準備	到達目標 論理的思考を身につける。 金融関係書を輪読・議論する。 金融テーマの小論文を作成する。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回 ガイダンス 第2回 論理的思考の復習、金融関係書籍を輪読 第3回～5回 金融関係書の輪読 第6回～10回 金融関係書の要約・議論 第11回～15回 金融テーマの小論文

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価 出席状況、発表、参加姿勢、提出物に基づき評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II AB
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、他者と議論する力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I B	後期	火 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	基礎演習で学んできたことをベースに、各自でテーマを持ち、問題関心を深め、情報を分析し、プレゼン、ディスカッション能力の向上を図っていきます。沖縄経済や県内の地域づくりの事例などを学び、社会との関わり方を学んでいくため、課外活動等を積極的に取り入れます。4年次の卒業論文作成に向けた準備を行っていきます。	専門演習では、個人の関心をベースにしたテーマ設定を行い、そのテーマに基づき、課題深めていきます。3年次から4年次の卒業論文作成に向けた準備をすることで、大学での学びを一つの成果にまとめていくことを意識します。より現実的な問題意識を持たせるため、実践的な活動（課外）を盛り込んでいきます。
到達目標	①自ら課題を設定し、情報収集と分析を通じて知見を深めていくことができる。 ②体系的な理解に努め、課題解決に向けた思考方法を身につけることができる。 ③他者の示したテーマに関して積極的に意見交換し、問題意識の共有と理解を図り、社会問題全般に関心を払うことができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー前期演習を振り返って	シラバスを読む
	2	個別テーマの設定ーマインドマップ作成と課題設定	経済時事関係の情報収集
	3	個別テーマの設定ー構想・計画づくり	テーマ設定と調査方法の検討
	4	研究テーマの報告①	テーマに関する論点整理
	5	研究テーマの報告②	テーマに関する論点整理
	6	研究テーマの報告③	テーマに関する論点整理
	7	研究テーマの報告④	テーマに関する論点整理
	8	研究テーマの報告⑤	テーマに関する論点整理
	9	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション①	先行研究と関連資料の整理
	10	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション②	先行研究と関連資料の整理
	11	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション③	先行研究と関連資料の整理
	12	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション④	先行研究と関連資料の整理
	13	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション⑤	先行研究と関連資料の整理
	14	個人研究テーマに関する文献紹介とディスカッション⑥	先行研究と関連資料の整理
15	後期演習の振り返りと次年度に向けて	卒論テーマについて考える	
16	※上記演習計画とは別に学外者との協働プロジェクトによる課外活動も行います。		

実践	テキスト・参考文献・資料など ※テキストは特に指定しませんが、各自関心のあるテーマに関する文献・論文を紹介してもらい、それらを演習の際活用することがあります。
----	--

学びの手立て	○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 テーマ設定を行い、一つの課題を深めていく作業、継続して考え抜く力をつけていきます。 ○学びを深めるために 問題発見と解決に向けた課題設定は一つとは限りません。一つもテーマに対し、考え続ける力も必要です。
--------	---

評価	演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価する。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 4年次の専門演習 II A、II Bにおいて、卒業論文作成にあたる
-------	--

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	4年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では、3年次までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、卒業論文の完成に向けて、学生がそれぞれの興味関心にもとづいて、具体的な現実の経済問題について自主的に研究を進めていきます。各自設定した研究テーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、発表し、討議することで、専門知識の理解を深め、問題意識を高めていきます。	この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 3年次に作成した卒業論文のもとになるゼミ論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。 卒業論文のテーマの設定、研究計画と論文構成の構築、先行研究を行い、作成中の卒業論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。 卒業論文のテーマについて、経済や財政の専門用語、基礎的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べることができる。 他の学生の卒業論文の進捗状況の報告において、適切なアドバイスをすることができる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：演習の進め方	
	2	ゼミ論文の講評・卒業論文の進め方	
	3	ゼミ論文の報告①	○ゼミ論文の報告①～⑥
	4	ゼミ論文の報告②	・報告担当者は形式にしたがい、発表の準備をする
	5	ゼミ論文の報告③	
	6	ゼミ論文の報告④	
	7	ゼミ論文の報告⑤	
	8	ゼミ論文の報告⑥	
	9	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導①	○卒業論文の進捗状況の報告①～⑦
	10	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導②	・報告担当者は形式にしたがい、発表の準備をする
	11	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導③	
	12	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導④	
	13	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑤	※報告者以外の学生も含め、すべての学生が卒業論文の作成を進める
	14	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑥	
15	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑦		
16	総括		

実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは使用しません。参考文献は以下のほか、授業で適宜紹介します。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白井利明・高橋一郎. 2013年. 『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房. ・二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子. 2009年. 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会.
----	--

学びの手立て	<p>【履修の心構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 <p>【学びを深めるために】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の勉学の集大成としての「卒業論文」を完成させるためには、自分にとって最も関心のある研究テーマが何かをよく考え、教員と相談をし、指導を受けてください。就職活動で忙しい時期となりますので、計画を立てて、着実に研究を進めていくことが肝心です。
--------	--

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・「ゼミ論文の報告」30%、卒業論文の「進捗状況の報告」40%、発言などの授業での「平常点」30%で評価します。 ・到達目標1は「ゼミ論文の報告」、到達目標2、3は「進捗状況の報告」、到達目標4は「平常点」で確認します。
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「専門演習ⅡA」で習得した力・スキルを活用し、卒業論文を作成してください。 ・「専門演習ⅡA」で習得した力・スキルは、履修するすべての講義で活用し、さらに自身の能力を高めてください。 ・社会のさまざまな場面で習得した力・スキルを活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい これまでの研究で積み上げてきたものを更に掘り下げ、卒業論文として仕上げていくことを目標にし、前期においては、中間報告の形でプレゼンテーションをしてもらう。	メッセージ 前期では中間発表を行う。その為自分のプレゼンテーションでは、十分に準備して臨むようにしてください。また、他の人のプレゼンテーションにも注意を払い、自分の不足分の参考に加えてください。疑問点や問題点に対しては質問をしてください。評価になります。
	到達目標 本演習を通して ①プレゼンテーションの際パワーポイントを使用する方法について学ぶ。 ②アジア経済の全体像を理解する。 ③アジア各国が抱えている問題点を理解する。 ④卒業論文テーマに関する文献を20冊以上読破する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 論文作成の方法	自分のテーマにあった資料収集
	2	第2週 論文作成の参考文献等の研究	同上
	3	第3週 第1回研究発表会	同上
	4	第4週 第2回研究発表会	同上
	5	第5週 第3回研究発表会	同上
	6	第6週 第4回研究発表会	同上
	7	第7週 第5回研究発表会	同上
	8	第8週 第6回研究発表会	同上
9	第9週 第7回研究発表会	同上	
10	第10週 第8回研究発表会	同上	
11	第11週 第9回研究発表会	同上	
12	第12週 第10回研究発表会	同上	
13	第13週 第11回研究発表会	同上	
14	第14週 第12回研究発表会	同上	
15	第15週 第13回研究発表会	同上	
16	第16週 まとめ		
	テキスト・参考文献・資料など アジア動向年報各版(図書館) アジア経済研究所出版文献を参考にする。(図書館) 日本経済新聞(図書館) 経済白書各年版(図書館) 世界経済白書各年版(図書館)		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーションに対して質問のある人は、発表後に質問してください。		
	評価 1. プレゼンテーション(50%) 2. 他人のプレゼンテーションに対して質問を行う。(10%以上) 3. 卒業論文提出(40%) 4. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しなし。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界経済の中で、アジア経済がどのような変化を遂げているのかを注視し、その影響について考えてほしい。 関連科目 国際経済論、日本経済論、
-------	---

※ポリシーとの関連性 「主体的に調査・研究」した成果を卒業論文にまとめ、各自の「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	4年	研究室(5629)、またはmurakami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本演習は、就職や進学を控えた4年次生を対象に開講される。4年間の学業の総括を「卒業論文」に成就させていく。実際には専門演習ⅡBにて提出するが、前期開講科目である本演習は、卒業論文の中間発表も行っていく。4月から7月までの間、各自毎月1回以上の中間報告(テーマ、章節など)を義務づける。	1)卒業論文は1.2万字以上を条件とする。 2)指定期日までに完全原稿として提出すること。 3)経済学科での学びの集大成として卒業論文の作成に取り組んでもらいたい。
到達目標	1)設定した研究テーマに対するアプローチの方法が定まっている。 2)卒業論文の骨組み(章や節)ができていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(前期)	マニュアルの精読、情報収集
	2	卒業研究の意義と報告割当 - 研究テーマの設定 -	情報収集、卒業論文執筆
	3	研究テーマの報告・ディスカッション(1)	情報収集、卒業論文執筆
	4	研究テーマ報告・ディスカッション(2)	情報収集、卒業論文執筆
	5	研究テーマの報告・ディスカッション(3)	情報収集、卒業論文執筆
	6	研究テーマの報告・ディスカッション(4)	情報収集、卒業論文執筆
	7	研究テーマの報告・ディスカッション(5)	情報収集、卒業論文執筆
	8	工場見学または社会人特別講師による授業	講義ノートの精読
	9	研究テーマの報告・ディスカッション(6)	情報収集、卒業論文執筆
	10	研究テーマの報告・ディスカッション(7)	情報収集、卒業論文執筆
	11	研究テーマの報告・ディスカッション(8)	情報収集、卒業論文執筆
	12	研究テーマの報告・ディスカッション(9)	情報収集、卒業論文執筆
	13	研究テーマの報告・ディスカッション(10)	情報収集、卒業論文執筆
14	研究テーマの報告・ディスカッション(11)	情報収集、卒業論文執筆	
15	前期のまとめ	情報収集、卒業論文執筆	
16	予備日	情報収集、卒業論文執筆	
テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて適宜紹介する。		
学びの手立て	1)履修の心構え 単に出席するだけでは、単位の修得にはつながらない。自宅を中心に卒業論文のための情報収集そして執筆を心がけてもらいたい。 2)学びを深めるために インターネットの情報だけではなく、図書館の利用も心がけてもらいたい。		
評価	受講意欲(50%)、および毎月の卒業論文の中間報告(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB、キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集および実践
-------	--

※ポリシーとの関連性

卒論作成を通して、経済・社会における問題を見つけ、論理的に考察し、明確な論理構成にもとづく文書作成力を磨く。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	4年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>専門演習Ⅰでは、沖縄の産業及び労働雇用問題に対する共通認識を踏まえ、グループでそれぞれのテーマにもとづき、アンケートやインタビュー調査等の実態調査を行った。専門演習Ⅱでは、各自設定したテーマを深く掘り下げて詳細な調査・分析を行い、卒業論文を作成する。特にテーマの制限はしない。各自で興味・関心のあるテーマを選ぶ。</p>	<p>大学の最終学年であり、これまで学んできた集大成を発揮するように卒論に取り組む。また、同時に就活にも積極的に取り組み、内定を確保して卒業できることを目指してください。</p>
到達目標	<p>経済・社会における問題・課題を自ら発見することができる。 問題解決のための調査とそれを踏まえた提案をすることができる。 自らの考えを発表し論文を作成することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論のテーマを考える
	2	論文テーマの報告	同上
	3	調査方法等に関する討論	様々な調査方法を調べる
	4	同上	同上
	5	同上	同上
	6	各自の調査分析をもとにした報告とディスカッション	テーマに基づき調べる
	7	同上	同上
8	同上	同上	
9	同上	同上	
10	同上	同上	
11	同上	同上	
12	同上	同上	
13	同上	同上	
14	同上	同上	
15	同上	同上	
16	前期の振り返りと総括	卒論テーマの発表	
テキスト・参考文献・資料など	<p>論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。 必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>早い段階で卒論のテーマを決めること。 毎回出席し、自分の発表はもちろん他の学生の発表を聞き、積極的に発言すること。 卒論を作成に当たっては、ヒアリングやアンケート調査などの実態調査など、講義外での取り組みも重要になる。</p>		
評価	<p>論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済学の学位を授与するにふさわしい能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	4年	オフィスアワー：火3（研究室5-526） E-mail:kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の社会変化に対応するためには現在有効な知識の習得だけではなく、自ら情報収集を行い、分析・考察し、論理的に説明できる能力や自分なりの正解を提示できるようになることが重要です。また認知スキルの側面だけでなく、ゼミ活動を通じた非認知スキルの側面も重要です。専門演習ⅡAでは卒論作成だけでなくゼミ合宿等の学外ゼミ活動を通じてこれらの能力の向上を目指します。</p>	<p>ゼミナールは講義形式の授業とは異なり、皆さんの積極的な行動が求められます。単に知識を習得するだけでなく、報告・発表やゼミ活動等におけるやり抜く力、チームワーク、忍耐力、リーダーシップ等の非認知スキルの側面も重要なので忘れないようにしてください。</p>
到達目標	<p>1. 卒業論文作成を通じて情報収集力、分析・考察力、論理的説明能力、解決案作成能力を身につける 2. 直面する課題に対して主体的、自立的に学び、考え、多様な立場に立って公正な判断・決断を行えるようになること 3. 認知スキルだけでなく、非認知スキルも十分向上していること</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（演習の進め方）	
	2	今後の卒業論文の進め方	
	3	研究テーマの報告とディスカッション	報告担当者は発表の準備をする
	4	〃	報告者以外は論文作成を進める
	5	〃	
	6	〃	
	7	〃	
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	〃		
12	〃		
13	〃		
14	〃		
15	総括		
16	※15回のいずれかに合宿等の学外ゼミ活動（授業回数分割当）を予定していますので参加すること		
	テキスト・参考文献・資料など	必要に応じて適宜紹介する	
	学びの手立て	日頃から新聞の講読、読書等を通じて情報収集を心掛けてください。	
	評価	欠席が3分の1以上の場合は不可とする。なおバイトは欠席理由として認めない。 評価は授業参加度（30%）、報告・課題提出・議論等の認知スキルに関する部分（40%）、リーダーシップ・チームワーク等の非認知スキルに関する部分（30%）を総合して評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	4年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 論理的思考をレベルアップさせる。 卒業論文のテーマを決定し、中間報告を行う。	メッセージ 「なるほど。その意見いいね。」と言ってもらうことが目標です。
	到達目標 論理的思考のレベルアップ。 卒業論文のテーマ決定・中間報告。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期（ⅡA）：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う 構想をまとめ、中間報告する。 後期（ⅡB）：卒業論文を作成する。 卒論判定を経て、卒論報告を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。

学びの実践	学びの手立て
	評価 課題提出、中間発表に基づき評価する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの実践	学びの手立て
	評価 課題提出、中間発表に基づき評価する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習ⅡB
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

本演習では、経済学の専門的知識を学び、その視座から経済社会を読み解く力を身につけ、課題解決に向けた提案力を養います。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡA	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	4年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰで学んできたことをベースに、テーマを深め、情報分析し、まとめ、ディスカッションを通じて、大学での学びの成果を卒業論文という形で結集していくことを目的とします。	メッセージ 卒業論文作成には自ら仮説を立て、検証のための情報収集と分析を行い、その結果を言葉としてまとめていく一連の作業が求められます。与えられた課題ではなく、自ら設定した課題に解決策を考えていくことにより今後の社会生活をおくる上で重要な能力を身につけることができます。根気強く取り組みましょう。
	到達目標 ①自ら仮説を設定し、テーマに関する文献収集、調査・検証を行い、卒業論文を作成することができる。 ②論理的かつ説得的に卒業論文についてプレゼンテーションを行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンスー卒業論文作成に向けて
	2	卒業論文の作成についてーテーマと計画づくり、工程確認
	3	卒業論文計画づくりー全体構想、構成の確認
	4	卒業論文構想に関する報告①
	5	卒業論文構想に関する報告②
	6	卒業論文構想に関する報告③
	7	卒業論文構想に関する報告④
	8	卒業論文構想に関する報告⑤
9	卒業論文構想に関する報告⑥	
10	卒業論文に関する中間報告①	
11	卒業論文に関する中間報告②	
12	卒業論文に関する中間報告③	
13	卒業論文に関する中間報告④	
14	卒業論文に関する中間報告⑤	
15	卒業論文作成に関しての確認事項について	
16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。	
		時間外学習の内容
		シラバスを読む
		テーマ確認と計画づくり
		構想を練る。
		全体構成と文献の精査
		全体構成と文献の精査
		全体構成と文献の精査
		全体構成と文献の精査
		全体構成と文献の精査
		全体構成と文献の精査
		中間報告準備
		中間報告準備
		中間報告準備
		中間報告準備
		中間報告準備
		中間報告準備
		中間報告準備
	テキスト・参考文献・資料など ※各自の卒論テーマに関する文献・論文報告を通じて関連文献を適宜とりあげていきます。	
	学びの手立て ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 卒論作成を通して、一つのテーマに関して考え抜く力を養います。 ○学びを深めるために 忍耐強く問題と向き合うことにより、社会人に求められる課題解決能力を醸成することができます。	
	評価 卒業論文の提出と報告が本演習の評価基準となる。 また、演習への参加態度、発言・発表内容等についても到達目標②に関連して評価する。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」	

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒論作成作業を通じて、課題解決に向けて考え抜く社会人基礎力の醸成します。
-------	---

※ポリシーとの関連性 経済現象を科学的に分析し、社会の動きを論理的に読み取る能力を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 正茂	4年	m.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力の向上を図るとともに、経済現象を科学的に分析する能力を養う。	メッセージ 卒業論文の作成は、4年間の大学生活の集大成となる作業です。各自スケジュール管理を徹底し、論文の完成に向けて継続的に作業を行ってください。
	到達目標 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力・科学的分析力を身につける。	

学びの準備	到達目標 卒業論文の作成を通じて、論理的思考力・科学的分析力を身につける。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション - 講義説明、卒業論文進捗状況、中間報告会について -
	2	卒業論文の書き方 - 参考文献の記載方法等 -
	3	卒業論文中間報告①
	4	卒業論文中間報告②
	5	卒業論文中間報告③
	6	卒業論文中間報告④
	7	卒業論文中間報告⑤
	8	卒業論文中間報告⑥
	9	卒業論文中間報告⑦
	10	卒業論文中間報告⑧
	11	卒業論文中間評価① - 進捗状況等の確認 -
	12	卒業論文中間評価② - 進捗状況等の確認 -
	13	卒業論文最終報告①
	14	卒業論文最終報告②
15	講義のまとめ①	
16	講義のまとめ②	
	時間外学習の内容	
		調査・分析、論文の執筆
		調査・分析、論文の執筆
		調査・分析、論文の執筆
		調査・分析、論文の執筆
		調査・分析、論文の執筆
		調査・分析、論文の執筆
		論文の執筆
		論文の執筆
	テキスト・参考文献・資料など 特になし（適宜、資料を配布する）。	
	学びの手立て 卒論報告会（中間報告・最終報告）に間に合うように論文の執筆を行うこと。	
	評価 受講態度（50%）、提出物（50%）で評価する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	4年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 前期で発表した中間報告を基に更に掘り下げ、卒業論文の完成を目指す。	メッセージ 前期は卒業論文の中間発表を行いました。後期はほぼ完成に近い形での発表をパワーポイントを利用して行なう。また、発表の際には、十分な準備を行い臨むようにして下さい。
	到達目標 本演習を通して ①卒業論文のテーマに関する文献を20冊以上読破する。 ②プレゼンテーションの際、パワーポイントを使用する。 ③自分自身の研究テーマの問題点や解決策を考える。 ④自分の卒業論文を完成まで準備する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 論文構成の内容をチェックする	各自の卒論の修正
	2	第2週 第1回研究発表会	発表者の問題点のチェック
	3	第3週 第2回研究発表会	同上
	4	第4週 第3回研究発表会	同上
	5	第5週 第4回研究発表会	同上
	6	第6週 第5回研究発表会	同上
	7	第7週 第6回研究発表会	同上
	8	第8週 第7回研究発表会	同上
	9	第9週 第8回研究発表会	同上
	10	第10週 第9回研究発表会	同上
	11	第11週 第10回研究発表会	同上
	12	第12週 第11回研究発表会	同上
	13	第13週 第12回研究発表会	同上
14	第14週 第13回研究発表会	同上	
15	第15週 第14回研究発表会	同上	
16	第16週 まとめ		
テキスト・参考文献・資料など アジア経済研究所出版文献を資料とする。(図書館) アジア動向年報(図書館) 経済評論(学術雑誌)(図書館) 日本経済新聞(図書館) 東アジア長期経済統計(勁草書房:図書館)			
学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳格に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は、必ずメールにて連絡してください。 2. 授業中は集中して他の人の発表を聞き、演習ノートを作成してください。 3. プレゼンテーション発表者に質問がある場合は、発表終了後に質問してください。			
評価 1. プレゼンテーション(50%) 2. 他人のプレゼンに対する質問(10%以上) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 卒業論文提出(40%) 5. 評価は総合点で行う。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. アジア関連文献を多く読むこと。 2. 日本経済新聞を毎日読破する。
-------	--

※ポリシーとの関連性

「主体的に調査・研究」した成果を卒業論文にまとめ、「知識」、「考察力」、「表現力」を養う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	4年	研究室(5629)、またはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	卒業論文の作成は、大学生生活の総決算の意味も持ち合わせている。専門演習ⅡAとともに、また大学で何を学んだかも併せ持って執筆に臨んでもらいたい。卒業論文の提出までには、次の3段階を踏まえる必要がある1) 10月から12月までの間、各自毎月1回以上の中間報告(テーマ、章節など)、2) 卒業論文の中間提出(期日厳守)、3) 完成した卒業論文の最終提出(期日厳守)。	1) 卒業論文は1.2万字以上を条件とする。 2) 指定期日までに完全原稿として提出すること。 3) 経済学科での学びの集大成として卒業論文の作成に取り組んでもらいたい。
到達目標	卒業論文の完成、卒業後の進路決定	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション(後期)	卒論マニュアルの精読、論文執筆
	2	卒業研究の中間発表の割り当て・解説など	情報収集、卒業論文執筆
	3	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション①	情報収集、卒業論文執筆
	4	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション②	情報収集、卒業論文執筆
	5	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション③	情報収集、卒業論文執筆
	6	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション④	情報収集、卒業論文執筆
	7	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑤	情報収集、卒業論文執筆
8	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑥	情報収集、卒業論文執筆	
9	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑦	情報収集、卒業論文執筆	
10	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑧	情報収集、卒業論文執筆	
11	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑨	情報収集、卒業論文執筆	
12	卒業論文の執筆状況の報告・ディスカッション⑩	情報収集、卒業論文執筆	
13	卒業論文仮提出・修正①	卒業論文の加筆修正	
14	卒業論文仮提出・修正②	卒業論文の加筆修正	
15	卒業論文仕上げ・提出	卒業論文の完成と提出	
16	予備日		
実践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 1) 履修の心構え 単に出席するだけでは、単位の修得にはつながらない。自宅を中心に卒業論文のための情報収集そして執筆を心がけてもらいたい。 2) 学びを深めるために インターネットの情報だけではなく、図書館の利用も心がけてもらいたい。		
	評価 受講意欲(50%)、卒業論文(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 キャリア支援課の利活用、就職や進学に向けた情報収集および実践
-------	---

※ポリシーとの関連性

卒論作成を通して、経済・社会における問題を見つけ、論理的に考察し、明確な論理構成にもとづく文書作成力を磨く。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	4年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習ⅡAで行った基礎調査や報告を踏まえ、卒業論文を仕上げていく。大学4年間の集大成として卒業論文を仕上げることでできるよう、指導・助言を行っていきたい。	メッセージ 大学の最終学年であり、これまで学んできた集大成を発揮するように卒論に取り組む。また、同時に就活にも積極的に取り組み、内定を確保して卒業できることを目指してください。息抜きのリフレッシュなども自主的に企画することを望む。
	到達目標 経済・社会における問題・課題を自ら発見することができる。問題解決のための調査とそれを踏まえた提案をすることができる。自らの考えを発表し論文を作成することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	卒論テーマ確定
	2	卒論形式、卒論の書き方について	卒論項目案を考える
	3	卒論の経過報告とディスカッション	卒論計画書作成
	4	同上	卒論作成
	5	同上	同上
	6	同上	同上
	7	同上	同上
	8	同上	同上
9	卒論の中間発表Ⅰ	発表の準備	
10	卒論の中間発表Ⅱ	同上	
11	卒論の経過報告とディスカッション	卒論作成	
12	同上	卒論作成	
13	同上	卒論作成	
14	卒論の仮提出	卒論作成	
15	仮提出に基づく修正	卒論作成と修正	
16	卒論最終提出	卒論完成に向けた作業	
	テキスト・参考文献・資料など 論文作成のための討議を中心とするため特に指定しない。必要に応じて論文作成に必要な資料、文献等を紹介する		
	学びの手立て 毎回出席し、自分の発表はもちろん他の学生の発表を聞き、積極的に発言すること。卒論を作成に当たっては、ヒアリングやアンケート調査などの実態調査など、講義外での取り組みも重要になる。		
	評価 卒業論文のプレゼンや討議内容、出席及び論文内容を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済学の学位を授与するにふさわしい能力を有し、社会に貢献できる人材となることを目指す。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 和宏	4年	オフィスアワー：火3（研究室5-526） E-mail:kazuhirom@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>今後の社会変化に対応するためには現在有効な知識の習得だけではなく、自ら情報収集を行い、分析・考察し、論理的に説明できる能力や自分なりの正解を提示できるようになることが重要です。また認知スキルの側面だけでなく、ゼミ活動を通じた非認知スキルの側面も重要です。専門演習IIBでは卒論作成だけでなくゼミ合宿等の学外ゼミ活動を通じてこれらの能力の向上を目指します。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文作成を通じて情報収集力、分析・考察力、論理的説明能力、解決案作成能力を身につける 2. 直面する課題に対して主体的、自立的に学び、考え、多様な立場に立って公正な判断・決断を行えるようになること 3. 認知スキルだけでなく、非認知スキルも十分向上していること 	<p>ゼミは講義形式の授業とは異なり、皆さんの積極的な行動が求められます。単に知識を習得するだけでなく、報告・発表やゼミ活動等におけるやり抜く力、チームワーク、忍耐力、リーダーシップ等の非認知スキルの側面も重要なので忘れないようにしてください。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（演習の進め方等）	
2	研究テーマの報告とディスカッション		
3	〃	報告担当者は発表の準備をする	
4	〃	報告者以外は論文作成を進める	
5	〃		
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	〃		
12	〃		
13	〃		
14	〃		
15	卒業論文発表会	論文を完成させ発表する	
16	※15回のいずれかに合宿等の学外ゼミ活動（授業回数分割当）を予定していますので参加すること		
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて適宜紹介する。		
	学びの手立て 日頃から新聞購読、読書等を通じて情報収集を心掛けてください。		
	評価 欠席が3分の1以上の場合は不可とする。なおバイトは欠席理由として認めない。 評価は授業参加度（30%）、報告・課題提出・議論等の認知スキルに関する部分（40%）、リーダーシップ・チームワーク等の非認知スキルに関する部分（30%）を総合して評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	4年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成。卒業論文の報告。	メッセージ 「なるほど。その意見いいね。」と言われた内容を論文の形にしていきます。
	到達目標 卒業論文の完成。卒業論文の報告。	

学びの準備	ねらい 卒業論文の完成。卒業論文の報告。	メッセージ 「なるほど。その意見いいね。」と言われた内容を論文の形にしていきます。
	到達目標 卒業論文の完成。卒業論文の報告。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 前期（ⅡA）：卒業論文のテーマを決め、資料収集を行う。 構想をまとめ、中間報告する。 後期（ⅡB）：卒業論文を作成する。 卒論判定を経て、卒論報告を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定します。
	学びの手立て

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	4年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 専門演習Ⅰで学んできたことをベースに、テーマを深め、情報分析し、まとめ、ディスカッションを通じて、大学での学びの成果を卒論という形で結集していくことを目的とします。	メッセージ 卒業論文作成には自ら仮説を立て、検証のための情報収集と分析を行い、その結果を言葉としてまとめていく一連の作業が求められます。与えられた課題ではなく、自ら設定した課題に解決策を考えていくことにより今後の社会生活をおくる上で重要な能力を身につけることができます。根気強く取り組みましょう。
	到達目標 ①自ら仮説を設定し、テーマに関する文献収集、調査・検証を行い、卒業論文を作成することができる。 ②論理的かつ説得的に卒業論文についてプレゼンテーションを行うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー卒業論文の執筆について	前期の振り返り
	2	卒業論文の中間報告①	先行研究整理、調査分析結果の確認
	3	卒業論文の中間報告②	先行研究整理、調査分析結果の確認
	4	卒業論文の中間報告③	先行研究整理、調査分析結果の確認
	5	卒業論文の中間報告④	先行研究整理、調査分析結果の確認
	6	卒業論文の中間報告⑤	先行研究整理、調査分析結果の確認
	7	卒業論文の執筆指導の進捗確認①	卒論指導
	8	卒業論文の執筆指導の進捗確認②	卒論指導
	9	卒業論文の執筆指導の進捗確認③	卒論指導
	10	卒業論文の執筆指導の進捗確認④	卒論指導
	11	卒業論文の執筆指導の進捗確認⑤	卒論指導
	12	卒業論文の報告に向けた準備①ー論文作成	卒論添削等への対応
	13	卒業論文の報告に向けた準備②ー論文作成	卒論添削等への対応
	14	卒業論文の報告に向けた準備③ー論文作成	卒論添削等への対応
	15	卒論提出	卒論、体裁等の確認
	16	※個々人の進捗状況に応じて執筆指導を行う。	
	テキスト・参考文献・資料など ※各自の卒論テーマに関する文献・論文報告を通じて関連文献を適宜とりあげていきます。		
	学びの手立て ○履修の心構え 出席を必須とします。積極的な意見、議論への参加を求めます。 卒論作成を通して、一つのテーマに関して考え抜く力を養います。 ○学びを深めるために 忍耐強く問題と向き合うことにより、社会人に求められる課題解決能力を醸成することができます。		
	評価 卒論提出を必須とします。 達成度に関しては卒論中間報告と内容、演習への参加態度、発言・発表内容等から総合的に評価します。 ※欠席が3分の1を超える場合は「不可」		

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒論作成作業を通じて、課題解決に向けて考え抜く社会人基礎力の醸成します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①理論的に考える力
②現状を分析する力 ③問題解決策を提言する力

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習ⅡB	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	長嶋 佐央里	4年	オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、3年次までに学んだ経済学の理論、手法、知識を再確認しながら、学生がそれぞれの興味関心にもとづいて、具体的な現実の経済問題について自主的に研究を進めていき、最終的に卒業論文を完成させます。各自設定した研究テーマを深く掘り下げて調査・分析を行い、発表し、討議することで、より優れた卒業論文を完成できるようにします。	メッセージ この授業は、少人数のゼミナールという形式で行われます。教員の側からの一方的な講義形式の授業ではなく、共同研究の場であり、個人が勉強したり研究した成果を持ち寄り、討論し、議論し、協力して作業したり、行動したりするなかで、自分自身のオリジナルなものを見つけ、自己を確立していく場です。ゼミにおいて積極的かつ自主的に行動して、互いに切磋琢磨してください。
	到達目標 1. 卒業論文のテーマについて、経済や財政の専門用語、基本的な理論を用いて考察し、自身の考えを述べることができる。 2. 作成中または作成した卒業論文を指定した条件でプレゼンテーションすることができる。 3. 他の学生の卒業論文の進捗状況の報告において、適切なアドバイスをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：卒業論文のテーマ確認と論文書式の確認	
	2	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導①	卒業論文の進捗状況の報告①～⑩
	3	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導②	・報告担当者は形式にしたがい、
	4	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導③	発表の準備をする
	5	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導④	・報告者以外の学生も含め、すべて
	6	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑤	の学生が卒業論文の作成を進める
	7	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑥	
	8	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑦	
	9	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑧	
	10	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑨	
	11	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑩	
	12	卒業論文の進捗状況の報告・作成指導⑪	
	13	卒業論文の提出	・卒業論文を完成させる
	14	卒業論文の講評・修正①	・提出した卒業論文を修正し、
	15	卒業論文の講評・修正②	最終版を完成させる。
	16	卒業論文の最終版提出・卒業論文報告会	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。参考文献は以下のほか、授業で適宜紹介します。 【参考文献】 ・白井利明・高橋一郎. 2013年. 『よくわかる卒論の書き方』第2版. ミネルヴァ書房. ・二通信子・大島弥生・佐藤勢紀子・因京子・山本富美子. 2009年. 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会.		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者は単位を修得することはできません。 【学びを深めるために】 ・執筆とは自分自身との心理戦です。速く楽に書くコツは、「書いて積み上げること」「人に見せること」です。卒業論文が計画通り進まないとき、困っているときは、すぐに教員に相談してください。また、ゼミのメンバーに話し、教え合ったり、励まし合ったりしてください。		
	評価 ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・提出した「卒業論文」70%、作成中または作成した卒業論文の「報告」30%で評価します。 ・到達目標1、2は「卒業論文」「報告」のそれぞれにおいて、到達目標3は発言などの授業における貢献度で確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・社会のさまざまな場面で習得した力・スキルを活用し、さらに自身の能力を高めてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地域経済論	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	経済学的な視点から「地域」を捉え、地域間の相互関係や成り立ち、地域の社会経済システムの全体像を学びます。講義全体を通して、地域の展望を描くための基礎を習得すること、そして、地域課題の発見と解決に向けた発案・提案力を得ることを目的とします。	「地域」を観察窓として、身の回りの経済情勢変化を読み解く力を身に着けることを目指します。社会への幅広い関心を持つために、まず身近な「地域」に関心を寄せることから始めましょう。
到達目標	①地域経済を理解し、読み解くための理論を学び、地域経済論の基本的な考え方を理解することができる。 ②都市や農村における地域問題の生成とその背景を学び、現在の地域が抱える課題を捉えることができる。 ③地域の課題解決のための政策、制度設計について考える力を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	地域経済を学ぶ視点—その対象とアプローチ	地域経済関連の統計資料を調べる
	3	地域経済と国民経済—地域経済分析の手法	参考文献①、②参照
	4	地域経済の諸理論 (1) —成長の極理論	参考文献①、②参照
	5	地域経済の諸理論 (2) —産業立地論、産業集積論	参考文献②、③参照
	6	地域経済の理論と政策	参考文献②、③参照
	7	グローバル化と地域経済の現状	地域産業の現状について調べる
	8	講義前半のまとめ—理論と政策	講義前半のまとめ
	9	日本の地域開発政策の展開 (1) —地域政策の登場と国土計画	参考文献③参照
	10	日本の地域開発政策の展開 (2) —全国総合開発計画の展開	参考文献③参照
	11	国土計画から地域産業政策へ—産業クラスター政策	参考文献①、④参照
	12	地域経済と地方財政—国土計画と地方財政の役割	参考文献①、④参照
	13	地域経済と地方財政—公共事業の展開	参考文献①、④参照
	14	地域再生・地域づくりに向けた取組 (1) —地域活性化の取組事例紹介	全国の地域活性化事例を調べる
15	地域再生・地域づくりに向けた取組 (2) —県内の6次産業化の取組	県内の地域活性化事例を調べる	
16	期末テスト	講義の振り返りを行う	

テキスト・参考文献・資料など

テキストは用いませんが、以下の参考文献等を事前・事後学習に活用してください。その他の参考文献については、講義中に適宜紹介します。また講義は配布資料、プリントを用意します。

【参考文献】①岡田知弘他著 (2016) 『国際化時代の地域経済学【第4版】』有斐閣アルマ、②中村剛治郎著 (2004) 『地域政治経済学』有斐閣、③中村剛治郎他著 (2008) 『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣ブックス、④岡田知弘 (2005) 『地域づくりの経済学入門』自治体研究社

学びの手立て

- 履修の心構え
講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。
- 学びを深めるために
グローバル化が進展する中で、地域経済は、工場の海外移転や安価な海外製品の流入による産業空洞化、地域間競争に晒されています。地域経済は世界経済の変化を映す鏡でもあります。地域の現状を俯瞰的な視点から読み解くことを意識して学ぶことが求められます。

評価

- 平常点 (15%) 小テスト (25%) 期末テスト (60%)
- ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません (公欠を除く)。
- 上記の評価基準により到達目標の①、②、③を総合的に評価する。

次のステージ・関連科目

地域経済論では、地域経済を読み解くための基礎的な理論と、地域問題を理解するための歴史を学び、定量的に分析するための手法について学びます。より実践的に地域経済について理解を深めるために、以下の関連科目の履修をお勧めします。

【次のステージ・関連科目】マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、沖縄経済論、産業政策論、産業連関論の基礎

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>少子高齢化が進み、国の財政事情が厳しくなり、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでのように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指さなければなりません。夕張市の破たんの二の舞を踏むことのないように、財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、住民として、財政を考えることができることを目的としています。</p>	<p>地方財政論は、実際に社会人となっても、役立つ知識・理論を習得します。講義はテキストを中心に進めるが、映像資料や新聞等により、現実に問題となっているトピックも取り上げる。自分の住む地域の発展を行政と一緒に考えて、考えることのできるような人材となつてほしいと考えています。</p>
到達目標	<p>地方財政の基礎的知識と理論を理解している。 地方を取り巻く環境の変化を踏まえ、自らの住む地域の財政事情が分かる。 地方財政の状況を自ら判断することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
2	地方財政の実態(1)	テキストの第1章1節・2節	
3	地方財政の実態(2)	テキストの第1章3節・4節	
4	国と地方の機能分担(1)	テキストの第2章1節・2節	
5	国と地方の機能分担(2)	テキストの第2章3節・4節・5節	
6	制度としての地方財政(1)	テキストの第3章1節・2節	
7	制度としての地方財政(2)	テキストの第3章3節・4節	
8	地方公共支出の経済学(1)	テキストの第4章1節・2節	
9	地方公共支出の経済学(2)	テキストの第4章3節	
10	地方団体の行財政改革(1)	テキストの第5章1節・2節	
11	地方団体の行財政改革(2)	テキストの第5章3節・4節・5節	
12	広域行政と狭域行政(1)	テキストの第6章1節・2節	
13	広域行政と狭域行政(2)	テキストの第6章3節	
14	地方税の体系と原則(1)	テキストの第7章1節・2節	
15	地方税の体系と原則(2)	テキストの第7章3節	
16	期末試験	テスト勉強	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・・・「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス</p> <p>参考文献</p> <p>「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房</p>		
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を進めていくので、指定されたテキストを購入すること。毎回の出席も大事なので、5回以上欠席すると、自動的に不可とする。テキストだけでなく、地方財政の現状のトピックについて映像資料をもとに議論したり、レポートを課すこともある。</p>		
評価	<p>出席状況、レポート及び試験を総合的に評価する。</p> <p>レポート・・・30%</p> <p>試験・・・70%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地方財政で学んだことを踏まえ、地方の抱える財政問題に興味を持ち、批判的に分析する。関連科目としては、「公共経済学」、「財政学 I・II」、「地方自治法」などがある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地方財政論Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>少子高齢化が進み、国の財政事情が厳しくなり、国と地方の役割が真剣に議論されています。これまでのように財政的に国に大きく依存する形から、地域経済の自立化を目指さなければなりません。夕張市の破たんの二の舞を踏むことのないように、財政に対する知識が必要です。本講義では地方財政制度の基礎理論を学び、住民として、財政を考えることができることを目的としています。</p>	<p>地方財政論は、実際に社会人となっても、役立つ知識・理論を習得します。自分の住む地域の発展を行政と一緒に、考えることのできるような人材となつてほしいと考えています。そのため、講義の最後には、総仕上げとして自分の住んでいる市町村の財政分析を実際に行います。</p>
到達目標	<p>地方財政の基礎的知識と理論を理解している。 地方を取り巻く環境の変化を踏まえ、自らの住む地域の財政事情が分かる。 地方財政の状況を自ら判断することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	地方財政改革の動き	前期の復習と地方財政の現状を知る
	3	地方税の改革(1)	テキストの第8章1節・2節
	4	地方税の改革(2)	テキストの第8章1節・2節・3節
	5	国庫支出金と地方財政(1)	テキストの第9章1節・2節
	6	国庫支出金と地方財政(2)	テキストの第9章3節
	7	地方交付税と財政調整(1)	テキストの第10章1節・2節
8	地方交付税と財政調整(2)	テキストの第10章3節・4節	
9	地方債の発行と国の関与(1)	テキストの第11章1節・2節	
10	地方債の発行と国の関与(2)	テキストの第11章3節・4節	
11	地域づくりと地方団体の役割(1)	テキストの第12章1節・2節	
12	地域づくりと地方団体の役割(2)	テキストの第12章3節・4節	
13	市町村財政分析の実習Ⅰ	自分の住んでいる市町村の財政分析	
14	市町村財政分析の実習Ⅱ	同上	
15	市町村財政分析の実習Ⅲ	同上とレポート作成	
16	期末試験	テスト勉強	
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・・・「地方財政」 林宜嗣 有斐閣ブックス</p> <p>参考文献</p> <p>「地方財政論」 税務経理協会・「現代の地方財政」有斐閣ブックス・「はじめて学ぶ国と地方の財政学」日本評論社 「図解 よく分かる自治体財政のしくみ」 学陽書房</p>		
学びの手立て	<p>テキストに沿って講義を進めていくので、指定されたテキストを購入すること。毎回の出席も大事なので、5回以上欠席すると、自動的に不可とする。テキストだけでなく、地方財政の現状のトピックについて映像資料をもとに議論したり、レポートを課すこともある。</p>		
評価	<p>出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する。</p> <p>レポート・・・30点</p> <p>試験・・・70点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地方財政で学んだことを踏まえ、地方の抱える財政問題に興味を持ち、批判的に分析する。関連科目としては、「公共経済学」、「財政学Ⅰ・Ⅱ」、「地方自治法」などがある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業論 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 豪	3年	ptt931@okiu.ac.jp uezu-t@niac.or.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県の中小企業の現状や特徴を把握する。 ・ 県内中小企業がどのような要因で現在のような状態にあるのかを、本県を取り巻く現状などから因果関係を探る。 ・ 本県の中小企業の課題に対してどのような解決策があるのかを検討する。 	<p>学生の皆さまが就職を控えた時期に、企業への理解や関心を高めるとともに、自発的かつ創造的に考える力を身につけることを念頭に講義を進めたいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 沖縄県の中小企業の現状を把握して、今後の就職活動を行う上での参考にする。 ② 現実の課題や問題点を整理して、解決策を考えるためのフレームワークを身につける。 ③ 小論文（レポート）の書き方、まとめ方を身につける。 	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（本講義内容の説明）	
	2	日本経済・国際経済の概況	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	沖縄経済の概況	同上
	4	中小企業の概況	同上
	5	産業別事例研究①	同上
	6	産業別事例研究②	同上
	7	産業別事例研究③	同上
	8	フレームワーク（戦略立案）	同上
9	産業別事例研究④	同上	
10	産業別事例研究⑤	同上	
11	産業別事例研究⑥	同上	
12	産業別事例研究⑦	同上	
13	産業別事例研究⑧	同上	
14	産業別事例研究⑨	同上	
15	産業別事例研究⑩	同上	
16	試験（※レポート提出）		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト：使用しません。説明資料を配付します。 ・ 参考文献：講義中に適宜紹介します。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、出欠確認を行います。 ・ 講義の理解を促進するために、企業関係者を適宜招聘し報告や意見交換を行います。 ・ 毎日の新聞報道や経済誌などを読み、企業や経営者の行動の理由（インセンティブ）を考える癖を身につけて下さい。 ・ 経済学のみならず、他の専門分野にも関心を持って知見を広めて下さい。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の受講態度や試験の内容で加減します。 ・ 3分の2以上の出席をもって平準点（30点）として、残り（70点）は試験によって配点します。 ・ 試験はレポートの提出とします。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学やミクロ経済学および国際経済学など経済学の基礎知識を復習は重要です。 ・ 卒業後は応用力、総合力、主体性および創造性などが問われる場面が多々ありますので、本講義で学んだ知見を実践の場で活かしてほしいと思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 豪	3年	ptt931@okiu.ac.jp uezu-t@niac.or.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄県の中小企業の現状や特徴を把握する。 ・ 県内中小企業がどのような要因で現在のような状態にあるのかを、本県を取り巻く現状などから因果関係を探る。 ・ 本県の中小企業の課題に対してどのような解決策があるのかを検討する。 	<p>学生が皆さまが就職を控えた時期に、企業への理解や関心を高めるとともに、自発的かつ創造的に考える力を身につけることを念頭に講義を進めたいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 沖縄県の中小企業の現状を把握して、今後の就職活動を行う上での参考にする。 ② 現実の課題や問題点を整理して、解決策を考えるためのフレームワークを身につける。 ③ 小論文（レポート）の書き方、まとめ方を身につける。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（本講義内容の説明）	
	2	日本経済・国際経済の近況	講義中に紹介する参考文献・資料等
	3	沖縄経済の近況	同上
	4	中小企業の近況	同上
	5	産業別事例研究①	同上
	6	産業別事例研究②	同上
	7	産業別事例研究③	同上
8	フレームワーク（戦略立案）	同上	
9	フレームワーク（問題解決）	同上	
10	フレームワーク（マネジメント）	同上	
11	産業別事例研究④	同上	
12	産業別事例研究⑤	同上	
13	産業別事例研究⑥	同上	
14	産業別事例研究⑦	同上	
15	産業別事例研究⑧	同上	
16	試験（※レポート提出）		
テキスト・参考文献・資料など	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキスト：使用しません。説明資料を配付します。 ・ 参考文献：講義中に適宜紹介します。 		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回、出欠確認を行います。 ・ 毎日の新聞報道や経済誌などを読み、企業や経営者のとっている行動の理由（インセンティブ）を考える癖を身につけて下さい。 ・ 経済学のみならず、他の専門分野にも関心を持って知見を広めて下さい。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義の受講態度や試験の内容で加減します。 ・ 3分の2以上の出席をもって平準点（30点）として、残り（70点）は試験によって配点します。 ・ 試験はレポートの提出とします。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学やミクロ経済学および国際経済学など経済学の基礎知識の復習は重要です。 ・ 卒業後は応用力、総合力、主体性および創造性などが問われる場面が多々ありますので、本講義で学んだ知見を実践の場で活かしてほしいと思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済史 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい 現代の経済状況や経済問題を考える場合でも、過去の歴史的経緯や背景を踏まえることが欠かせません。とりわけ、日本の政治、経済、社会の発展には世界的に見ても独特な面があると思います。日本経済論 I では、縄文時代と神道の伝統、日本の農業革命としての稲作と天皇制、仏教の変容と封建制の展開等を扱います。その際、人類史や沖縄との関連も触れたいと思います。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	経済史・自然環境と人間社会との物質・エネルギー代謝、技術・知識の蓄積と伝播、組織・制度・思想の変遷	
	3	西洋中心史観の修正・アジアは世界経済の中心だった、西欧と日本の平行進化、江戸時代の再評価	
	4	ホモ・サピエンスの拡散と沖縄・日本	
	5	縄文時代の意義	
	6	弥生時代・農耕社会の形成	
	7	古代国家と大和王権	
	8	東アジア情勢と律令国家・「日本国」の成立	
	9	律令体制の揺らぎ・王朝と荘園公領制	
	10	中世前期の経済・在地勢力(武士)の台頭	
	11	中世経済の構造変化・村落共同体成立、南北朝、戦国時代、大名領国制、沖縄史の胎動	
	12	中世後期の経済：重商主義的領国経営、貫高制、商工業の発達、都市と海外交易、西洋との接触	
	13	近世の幕開けと江戸時代経済の成立・農民だけの村、武士の官僚化、石高制	
14	江戸時代前期の経済動向・大開拓による高度成長時代、		
15	江戸時代経済の成熟・土地の制約と人口停滞、石高制の矛盾、幕府や各藩の財政危機と改革		
16	江戸時代経済の構造転換・労働集約的技術進歩、輸入代替、各藩の産業振興、大衆文化の成熟		
テキスト・参考文献・資料など 太田愛之 他 『日本経済の2千年』 勁草書房 S・オッペンハイマー 『人類の足跡10万年全史』 草思社 谷川健一 『甦る海上の道・日本と琉球』 文春新書			
学びの手立て			
評価 レポート60%、授業への参加姿勢(出席や質問等)40%			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済史Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 了太	3年	研究室(5629)もしくはmurakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済史は、現代社会の諸課題を解決する糸口を歴史に求めることをねらいとする。それゆえ、過去を通して現代を知り、さらに将来を占う姿勢を涵養することになる。	メッセージ 1)日本経済史Ⅰおよび日本経済史Ⅱは、ともに村上クラスを履修しなければならない。 2)1)を前提に、日本経済史Ⅱは、日本経済史Ⅰを履修した者のみ受講を認める。
	到達目標 1)歴史の中から現代の社会・経済に関わる課題の淵源まで遡って探求できるようになる。 2)歴史とアクティブラーニングを組み合わせ、 「思考力」、「判断力」、「表現力」 を培うことができる。 3)2)に加えて、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を培うことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション ーキャリアとしての歴史観ー	社会の課題の発見。
	2	経済史を学ぶ必要性 ー唯物史観もしくは史的唯物論ー	関連図書の通読。
	3	生産様式論に見る時代概念 ー歴史の五段階区分の意義と理解ー	関連図書の通読。
	4	貨幣発生 of 必然性について	関連図書の通読。
	5	資本主義経済の原理と限界 ーアウフヘーベン（止揚もしくは揚棄）ー	関連図書の通読。
	6	社会主義経済の台頭と崩壊 ー経済史に見るベルリンの壁そしてソ連体制ー	関連図書の通読。
	7	日本経済史への接近 ー日本資本主義発達史講座①概論ー	関連図書の通読。
	8	日本経済史への接近 ー日本資本主義発達史講座②各論ー	関連図書の通読。
9	幕末・維新の政治と経済	関連図書の通読。	
10	松方デフレと日本の産業革命 ー欧米列強との対比においてー	関連図書の通読。	
11	日清・日露戦争 ー帝国主義的財政膨張ー	関連図書の通読。	
12	第一次世界大戦	関連図書の通読。	
13	戦時国家論 ー国家社会主義の台頭ー	関連図書の通読。	
14	国家独占資本主義と第二次世界大戦	関連図書の通読。	
15	経済史を学ぶ意義とその必要性	関連図書の通読。	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 1)小牧治『マルクス』清水書院、1966年 2)安藤良雄『日本資本主義の歩み』講談社（現代新書）、1967年 3)山田盛太郎『日本資本主義分析』岩波書店（岩波文庫）、1977年 4)宇沢弘文『経済学の考え方』岩波書店（岩波新書）、1989年 5)ロバート・B・ライシュ『暴走する資本主義』東洋経済新報社、2008年		
	学びの手立て 新聞の経済面と国際面を通読することを推奨する。また、経済に関わる諸現象の歴史的背景（必然性の意味を考える）を常に意識する必要がある。		
	評価 小テスト(50点)+試験(50点)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本経済史Ⅱ、欧米経済論Ⅰ、欧米経済論Ⅱ、西洋経済史Ⅰ、西洋経済史Ⅱなど。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本経済史Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい 日本経済史Ⅰと同様に日本の歴史の特質と現代に繋がる諸問題を探り上げる。特に、江戸時代の経済社会の独特の性格と明治以後のキャッチアップ型西洋化の光と影に焦点を当てたい。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義の紹介、講義計画・注意事項・評価方法を説明
	2	江戸時代の特質と開国・開港・・・「鎖国」経済の終焉と通貨の混乱
	3	明治維新と上からの近代化（西洋化？）
	4	近代経済成長の起動
	5	企業勃興と日清・日露戦争
	6	「明治大正経済システム」、大正デモクラシーと社会主義
	7	第一次大戦とブーム、その後の慢性不況・・・不良債権、二重構造経済、階級闘争の激化
	8	井上財政と高橋財政
	9	戦時統制経済・・・官僚統制、日満支ブロック、重化学工業化
	10	占領「改革」と復興
	11	高度成長
	12	日本的経済システム（「高度成長期システム」）の形成とその特徴
	13	日本経済の模索・・・石油ショックの克服と貿易摩擦
	14	アメリカの対日政策と苦悩する日本経済
	15	日本の光と影
	16	
時間外学習の内容		
テキスト・参考文献・資料など 太田愛之 他 『日本経済の二千年』勁草書房 寺西重郎 『日本の経済システム』岩波書店 野口悠紀雄 『1940年体制』東洋経済新報社		
学びの手立て		
評価 レポート60%、授業への参加意識（出席や質問等）40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニング	前期	月2・木4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ファイナンシャル・プランナー (FP) の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。</p> <p>金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。</p> <p>生活や人生を支えている「お金」について、大人と対等に話せるようになりましょう。</p>	<p>大学卒業後、銀行に就職したいと考えている学生にお勧めします。</p> <p>授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。</p>
	到達目標	
	<p>FP技能検定3級に合格する。</p> <p>3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義の概要・計画</p> <p>ライフプランニングと資金計画 (1) ~ (6)</p> <p>リスク管理 (1) ~ (4)</p> <p>金融資産運用 (1) ~ (4)</p> <p>中間テスト1</p> <p>タックスプランニング (1) ~ (5)</p> <p>不動産 (1) ~ (4)</p> <p>相続・事業承継 (1) ~ (4)</p> <p>中間テスト2</p> <p>期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP技能士3級速攻テキスト (2017-2018年版)』 日本経済新聞出版社 2017年</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP技能士3級速攻問題集 (2017-2018年版)』 日本経済新聞出版社 2017年</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「お金」に関するニュース・新聞を読むようにしましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>中間テスト(2回)、期末テスト、小テストに基づき評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>FP検定2級</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニング I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1 年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ファイナンシャル・プランナー (FP) の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。</p> <p>金融機関の仕事上、FP 知識は不可欠です。</p> <p>生活や人生を支えている「お金」について、大人と対等に話せるようになりましょう。</p>	<p>大学卒業後、銀行に就職したいと考えている学生にお勧めします。授業は週 2 回行います。時間割の作成時に注意してください。</p>
	到達目標	
	<p>FP 技能検定 3 級に合格する。</p> <p>3 級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義の概要・計画</p> <p>ライフプランニングと資金計画 (1) ~ (6)</p> <p>リスク管理 (1) ~ (4)</p> <p>金融資産運用 (1) ~ (4)</p> <p>中間テスト 1</p> <p>タックスプランニング (1) ~ (5)</p> <p>不動産 (1) ~ (4)</p> <p>相続・事業承継 (1) ~ (4)</p> <p>中間テスト 2</p> <p>期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP技能士3級速攻テキスト (2017-2018年版)』 日本経済新聞出版社 2017年</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集 『うかる!FP技能士3級速攻問題集 (2017-2018年版)』 日本経済新聞出版社 2017年</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「お金」に関するニュース・新聞を読むようにしましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>中間テスト (2 回)、期末テスト、小テストに基づき評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>FP 検定 2 級</p>
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ファイナンシャル・プランニングⅡ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	1年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ファイナンシャル・プランナー（FP）の主な仕事は、住宅取得を考えている人の相談役として、法律知識を提供したりアドバイスすることです。</p> <p>金融機関の仕事上、FP知識は不可欠です。</p> <p>生活や人生を支えている「お金」について、大人と対等に話せるようになりましょう。</p>	<p>大学卒業後、銀行に就職したいと考えている学生にお勧めします。</p> <p>授業は週2回行います。時間割の作成時に注意してください。</p>
	到達目標	
	<p>FP技能検定3級に合格する。</p> <p>3級に合格するには、学科試験と実技試験で合格点を取る必要があります。</p>	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>講義の概要・計画</p> <p>ライフプランニングと資金計画（1）～（6）</p> <p>リスク管理（1）～（4）</p> <p>金融資産運用（1）～（4）</p> <p>中間テスト1</p> <p>タックスプランニング（1）～（5）</p> <p>不動産（1）～（4）</p> <p>相続・事業承継（1）～（4）</p> <p>中間テスト2</p> <p>期末試験</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集『うかる!FP技能士3級速攻テキスト（2017-2018年版）』日本経済新聞出版社 2017年</p> <p>ファイナンシャルバンクインスティテュート編集『うかる!FP技能士3級速攻問題集（2017-2018年版）』日本経済新聞出版社 2017年</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>「お金」に関するニュース・新聞を読むようにしましょう。</p>
	<p>評価</p> <p>中間テスト（2回）、期末テスト、小テストに基づき評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>FP検定2級</p>
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	福祉国家論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	3年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	福祉国家の理念と成り立ちを紐解き、現代の福祉国家が抱える課題を探ることを目的とします。講義前半では先進各国を事例に福祉国家の類型論から今日の福祉国家の特徴を整理します。講義の後半では、日本における所得分配や貧困の現状、社会保障制度の概要と問題点などを例に、日本型福祉国家の特徴と今後の課題を探っていきます。	年金・医療・福祉（児童、介護等）等の社会保障制度がどのような理念の下で形づくられ、充実化し、変容してきたのかを考えていきます。現代国家の姿を通時的に描き、共時的にどのような課題を抱えているのかを考えていきましょう。
到達目標	①戦後、福祉国家がどのように誕生してきたのか、その思想や理念、実際の制度について特徴を把握することが出来る。 ②日本の社会保障制度について理解し、現在どのような課題を抱えているのか理解することが出来る。 ③国際比較の観点から現代の福祉国家が抱える課題を整理することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスー授業評価と講義計画の紹介	シラバスを読む
	2	福祉国家とは？ー背景と理念	参考文献①、③を参照
	3	福祉国家の成り立ちー社会保障制度の歴史	参考文献①を参照
	4	イギリスの社会保障制度	参考文献①を参照
	5	ドイツの社会保障制度	参考文献①を参照
	6	北欧諸国の社会保障制度（1）ースウェーデン	参考文献②、③を参照
	7	北欧諸国の社会保障制度（2）ーデンマーク	参考文献②、③を参照
	8	アメリカの社会保障制度	参考文献①、②を参照
	9	講義前半のまとめ	欧米各国の福祉政策を復習
	10	福祉国家の類型論（福祉レジーム論）	参考文献③を参照
	11	日本型福祉国家の特徴ー企業福祉と社会保障制度の成り立ち	参考文献②を参照
	12	日本の企業福祉	企業の福利厚生について調べる
	13	日本の労働政策と雇用	労働政策について調べる
14	日本の労働政策と社会保障制度を巡る課題	社会保障制度について調べる	
15	講義後半のまとめ	労働政策、社会保障制度のまとめ	
16	期末テスト	講義全体の振り返り	
テキスト・参考文献・資料など	特に指定せず、適宜資料を配布して講義を行います。下記以外の参考文献は講義中に紹介します。 【参考文献】 ①橋本俊詔（2010）『安心の社会保障改革』東洋経済新報社 ②林健久他（2004）『グローバル化と福祉国家財政の再編』東京大学出版会 ③エスピン・アンデルセン（2001）『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房		
学びの手立て	○履修の心構え 講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。 毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 相対的貧困や格差といった問題に対し、国家がどう対応してきたのかについて考えていきます。国際比較の視点から社会保障制度の目的と成り立ちについて整理しますので、広い視野を持って学修することが求められます。		
評価	○平常点（15%） 小テスト（25%） 期末テスト（60%） ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません（公欠を除く）。 ○平常点（フィードバックペーパー）、小テスト、期末テストにより到達目標の①、②、③を総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 福祉国家論では、福祉政策、社会保障制度に関する基本的な考え方を学んでいきます。その具体的な政策については財政政策、労働政策に関連する分野に広がりますので、下記の関連科目の履修を勧めます。 【次のステージ・関連科目】 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、社会保障論、財政学Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易実務 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。	講義受講期間中は、常にパソコンの共通ファイルに目を通して臨むようにしてください。また、講義はパワーポイントを使用しますので、良く聞くことに重点を置いて受講してください。
到達目標	本講義を通して ①貿易取引の全体の流れを把握していく。 ②貿易取引の手続き書類について学んでいく。 ③貿易取引における専門用語及び略語について学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 貿易取引と貿易実務	テキストの予習・復習
	2	第2週 貿易実務と貿易書類	同上
	3	第3週 通関手続と通関業者	同上
	4	第4週 海上輸送と船会社	同上
	5	第5週 輸出交渉	同上
	6	第6週 輸出通関手続	同上
	7	第7週 買い取り手続	同上
8	第8週 中間テスト		
9	第9週 信用状の発行依頼	テキストの予習・復習	
10	第10週 輸入貨物の引き取り	同上	
11	第11週 信用調査	同上	
12	第12週 品質条件	同上	
13	第13週 関税	同上	
14	第14週 保税制度	同上	
15	第15週 コンテナとコンテナターミナル	同上	
16	第16週 前期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 木村 雅晴著『はじめての貿易実務』ナツメ社、		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. テキストの予習・復習を十分にしてください。 3. 授業中質問があれば、いつでも手を挙げて質問してください。		
	評価 1. 中間テスト (40%) 2. 期末テスト (60%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 金融論 2. 国際経済論 3. 流通経済論 4. 経営学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易実務Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	新垣 勝弘	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我が国は貿易立国で貿易実務の科目は、貿易立国を支える学問分野として必要不可欠である。貿易実務の活躍の場は多く、1. 船会社 2. 商社 3. メーカー 4. 航空会社 5. 貿易会社 6. 公的機関 7. 銀行 8. 保険会社 9. 通関業者 10. 海貨業者 11. 混載業者 12. 個人輸入など幅広い。本講座では、貿易実務の基礎をしっかりと学べるようにする。	講義受講期間中は、常にパソコン内の共通ファイルに目を通して臨むようにしてください。また、講義はパワーポイントを使いますので、良く聞くことに重点を置いて受講してください。
到達目標	本講義を通して ①貿易取引の全体の流れを把握していく。 ②貿易取引の手続き書類について学んでいく。 ③貿易取引における専門用語及び略語について学んでいく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	第1週 海上運賃の分類	テキストの予習・復習
	2	第2週 航空運送と運賃	同上
	3	第3週 信用状のチェックポイント	同上
	4	第4週 外国為替相場	同上
	5	第5週 海上保険の種類	同上
	6	第6週 ワシントン条約	同上
	7	第7週 貨物引き取りの便利な制度	同上
8	第8週 中間テスト		
9	第9週 FCL貨物の具体的な貨物の引き取り	テキストの予習・復習	
10	第10週 クレーム	同上	
11	第11週 業務処理システム	同上	
12	第12週 船積み・通関手続を専門業者に依頼する時に作成する書類	同上	
13	第13週 船積みの完了を輸入者に知らせる書類	同上	
14	第14週 信用状の発行を銀行に依頼する時に作成書類	同上	
15	第15週 Invoice・Bill of Ladingの記載内容	同上	
16	第16週 後期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 木村 雅晴著『初めての貿易実務』ナツメ社		
	学びの手立て 1. 出欠確認は毎回厳密に行いますので、やむ得ず遅刻・欠席する場合は必ずメールにて連絡してください。 2. プリントを配布もあります。復習として利用してください。 3. 授業中質問があれば、いつでも手を挙げて質問してください。		
	評価 1. 中間テスト(40%) 2. 期末テスト(60%) 3. 欠席が1/3を超える者には単位を認定しない。 4. 評価は総合点をもって行う。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1. 金融論 2. 国際経済論 3. 流通経済論 4. 経営学
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅰ	後期	月4	0
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識とされています。簿記（＝会計）を学んでから、社会人になりましょう。	メッセージ ＜登録条件＞簿記Ⅰと簿記Ⅱを必ずセットで同時に登録すること。一方のみの登録は認めません。一方のみの場合登録を削除します。 簿記は就職活動の武器になります。特に銀行志望の人は、簿記を学ぶべきです。銀行が融資するとき判断基準の大部分は、会計記録（簿記）です。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験の受験・合格を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要・計画 2. 簿記の基礎 3. 商品売買（2） 4. 当座預金 5. 手形（1） 6. 中間テストA 7. 有価証券 8. 債権債務（2） 9. 減価償却 10. 繰延・見越 11. 伝票・締切 12. 精算表（2） 13. 中間テストB 14. 試算表（2） 15. 過去問題（2） 16. 期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など ☆滝澤ななみ著「スッキリわかる日商簿記3級第9版」TAC出版2018年 ☆過去問題集（授業中に詳細指定します）
	学びの手立て 後期に週2回授業を行う。電卓必要。 簿記の用語を覚える姿勢が重要。 記入欄つきのプリントを配布する。授業中に記入して理解する。 毎回宿題を与えるので、次回提出すること。
	評価 宿題・小テスト20%、中間テスト（3回）50%、期末テスト30%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計科目、日商簿記2級
-------	----------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安藤 由美	2年	yando@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 簿記は、会社のお金や財産を管理するための記録手法です。 「パソコン・会計・英語」は社会人の必須知識とされています。 簿記（＝会計）を学んでから、社会人になりましょう。	メッセージ ＜登録条件＞簿記Ⅰと簿記Ⅱを必ずセットで同時に登録すること。 一方のみの登録は認めません。一方のみの場合登録を削除します。 簿記は就職活動の武器になります。 特に銀行志望の人は、簿記を学ぶべきです。 銀行が融資するとき判断基準の大部分は、会計記録（簿記）です。
	到達目標 来年2月の日商簿記検定3級試験の受験・合格を目指します。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 講義の概要・計画 2. 商品売買（1） 3. 現金 4. 小口現金 5. 手形（2） 6. 貸付金 7. 債権債務（1） 8. 消耗品・貸倒 9. 資本金 10. 帳簿記入 11. 精算表（1） 12. 精算表（3） 13. 試算表（1） 14. 過去問題（1） 15. 過去問題（3） 16. 期末テスト
	テキスト・参考文献・資料など ☆滝澤ななみ著「スッキリわかる日商簿記3級第9版」TAC出版2018年 ☆過去問題集(授業中に詳細指定します)
	学びの手立て 後期に週2回授業を行う。電卓必要。 簿記の用語を覚える姿勢が重要。 記入欄つきのプリントを配布する。授業中に記入して理解する。 毎回宿題を与えるので、次回提出すること。
評価	宿題・小テスト20%、中間テスト（3回）50%、期末テスト30%。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計科目、日商簿記2級
-------	----------------------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②理論的に考える力 ③現状を分析する力

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 マクロ経済学A	期別 後期	曜日・時限 火1	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「好況や不況はなぜ起きるのか?」「モノ・サービスの物価水準はどのように決まるのか?」「日本の若者の失業率はどのくらいなのか?」この授業では、日ごろ見たり聞いたりする出来事を経済社会全体の視野に立って考えるのに役立つマクロ経済学の基礎理論を学び、その理論をもとに、景気、物価、失業などの経済問題や政府が行う経済政策について、自分で分析できるようにします。	メッセージ マクロ経済学の理論は、経済新聞や経済雑誌、各国政府や国際機関などにおいて議論される際に標準的な分析手法として用いられています。経済学の予備知識がない学生にも分かりやすく説明し、実際の日本経済や国際経済の動向、経済指標を参照しながら、理解を深めていきます。
	到達目標 1. マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 経済社会現象のしくみや因果関係を理論的に理解することができる。 3. マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：マクロ経済学とは何か	シラバスを読む
	2	一国の経済力の指標（GDP）①：一国の経済状態をどのようにとらえるのか（テキスト 第1章）	テキスト・配布資料を読む
3	一国の経済力の指標（GDP）②：景気循環をどのようにとらえるのか（テキスト 第1章）	テキスト・配布資料を読む	
4	消費と貯蓄の理論①：消費と貯蓄を決定する要因は何か・流動性制約とは何か（テキスト 第2章）	テキスト・配布資料を読む	
5	消費と貯蓄の理論②：日本の貯蓄率はどのように推移してきたか（テキスト 第2章）	テキスト・配布資料を読む	
6	設備投資と在庫投資①：投資を決定する要因は何か（テキスト 第3章）	テキスト・配布資料を読む	
7	設備投資と在庫投資②：在庫投資とは何か、景気循環とどのような関係にあるのか（テキスト 第3章）	テキスト・配布資料を読む	
8	金融と株価：マクロ経済において金融はどのような役割を果たすのか（テキスト 第4章）	テキスト・配布資料を読む	
9	貨幣の需要と供給①：貨幣はどのような機能を果たすのか（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む	
10	貨幣の需要と供給②：何が貨幣需要を増やすのか（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む	
11	貨幣の需要と供給③：貨幣供給をコントロールする手段は何か（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む	
12	総需要に着目した経済分析①：国民所得はどのように決定されるのか（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
13	総需要に着目した経済分析②：財市場の均衡と貨幣市場の均衡について学ぶ（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
14	総需要に着目した経済分析③：IS-LM分析と財政政策・金融政策について学ぶ（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
15	復習・総括	事後学習：前期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前学習：期末試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 ・福田慎一・照山博司. 2016年. 『マクロ経済学・入門』第5版. 有斐閣.		
	【参考文献】 ・福田慎一・照山博司. 2013年. 『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版. 有斐閣.		
	学びの手立て		
	【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。		
	【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。 ・時間外学習として、次のことを行ってください。暗記ではなく理解するように心掛けてください。 ○事前学習：授業で扱うテキストの当該部分を読んで、要約、疑問点をまとめる ○事後学習：テキストと配布資料を読んで復習する、テキスト章末の練習問題を解く		
	評価		
	・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内確認テスト、授業の振り返り等の授業での「平常点」50%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・マクロ経済学の基礎理論は、「マクロ経済学Ⅰ」と「マクロ経済学Ⅱ」で学修します。この理論は様々な経済問題を考える基礎ツールであり、経済学科の専門科目と関連しています。 ・特に、マクロ経済を分析する際に有用な応用・発展的な事象について学びたい学生は、「応用マクロ経済学」を履修してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学A	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②理論的に考える力 ③現状を分析する力

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 マクロ経済学 I	期別 前期	曜日・時限 木 1	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「好況や不況はなぜ起きるのか?」「モノ・サービスの物価水準はどのように決まるのか?」「日本の若者の失業率はどのくらいなのか?」この授業では、日ごろ見たり聞いたりする出来事を経済社会全体の視野に立って考えるのに役立つマクロ経済学の基礎理論を学び、その理論をもとに、景気、物価、失業などの経済問題や政府が行う経済政策について、自分で分析できるようにします。	メッセージ マクロ経済学の理論は、経済新聞や経済雑誌、各国政府や国際機関などにおいて議論される際に標準的な分析手法として用いられています。経済学の予備知識がない学生にも分かりやすく説明し、実際の日本経済や国際経済の動向、経済指標を参照しながら、理解を深めていきます。
	到達目標 1. マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 経済社会現象のしくみや因果関係を理論的に理解することができる。 3. マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：マクロ経済学とは何か	シラバスを読む
	2	一国の経済力の指標（GDP）①：一国の経済状態をどのようにとらえるのか（テキスト 第1章）	テキスト・配布資料を読む
	3	一国の経済力の指標（GDP）②：景気循環をどのようにとらえるのか（テキスト 第1章）	テキスト・配布資料を読む
	4	消費と貯蓄の理論①：消費と貯蓄を決定する要因は何か・流動性制約とは何か（テキスト 第2章）	テキスト・配布資料を読む
	5	消費と貯蓄の理論②：日本の貯蓄率はどのように推移してきたか（テキスト 第2章）	テキスト・配布資料を読む
	6	設備投資と在庫投資①：投資を決定する要因は何か（テキスト 第3章）	テキスト・配布資料を読む
	7	設備投資と在庫投資②：在庫投資と何か、景気循環とどのような関係にあるのか（テキスト 第3章）	テキスト・配布資料を読む
	8	金融と株価：マクロ経済において金融はどのような役割を果たすのか（テキスト 第4章）	テキスト・配布資料を読む
9	貨幣の需要と供給①：貨幣はどのような機能を果たすのか（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む	
10	貨幣の需要と供給②：何が貨幣需要を増やすのか（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む	
11	貨幣の需要と供給③：貨幣供給をコントロールする手段は何か（テキスト 第5章）	テキスト・配布資料を読む	
12	総需要に着目した経済分析①：国民所得はどのように決定されるのか（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
13	総需要に着目した経済分析②：財市場の均衡と貨幣市場の均衡について学ぶ（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
14	総需要に着目した経済分析③：IS-LM分析と財政政策・金融政策について学ぶ（テキスト 第6章）	テキスト・配布資料を読む	
15	復習・総括	事後学習：前期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前学習：期末試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・福田慎一・照山博司. 2016年. 『マクロ経済学・入門』第5版. 有斐閣. 【参考文献】 ・福田慎一・照山博司. 2013年. 『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版. 有斐閣.		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。 【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。 ・時間外学習として、次のことを行ってください。暗記ではなく理解するように心掛けてください。 ○事前学習：授業で扱うテキストの当該部分を読んで、要約、疑問点をまとめる ○事後学習：テキストと配布資料を読んで復習する、テキスト章末の練習問題を解く		
	評価 ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内確認テスト、授業の振り返り等の授業での「平常点」50%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・マクロ経済学の基礎理論は、「マクロ経済学Ⅰ」と「マクロ経済学Ⅱ」で学修します。この理論は様々な経済問題を考える基礎ツールであり、経済学科の専門科目と関連しています。 ・特に、マクロ経済を分析する際に有用な応用・発展的な事象について学びたい学生は、「応用マクロ経済学」を履修してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マクロ経済学 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マクロ経済学は、これから皆さんが学んでいく理論、実証、政策等の諸科目の基礎になる必須の知識を提供します。また、経済のニュース等を理解するためにも必要ですし、公務員試験や就職試験等でもよく出題されます。講義は日本で最もポピュラーな中谷巖先生の教科書に沿って行われます。広範囲の内容が現在の主流派の考えに従って整理されていますが、幅広い内容の本なので根気よく取り組</p>	
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	Part 1 インTRODクシヨン 第1章 日本経済の循環と変動	
	3	第2章 GDPの概念と物価指数（1）	
	4	〃 GDPの概念と物価指数（2）	
	5	第3章 マクロ経済学における短期と長期	
	6	宿題の解説等	
	7	Part 2 短期モデル 第4章 所得はどのように決まるか（1）	
8	〃 所得はどのように決まるか（2）		
9	第5章 貨幣の需給と利子率（1）		
10	〃 貨幣の需給と利子率（2）		
11	第6章 IS-LM分析と財政金融政策（1）		
12	〃 IS-LM分析と財政金融政策（2）		
13	第7章 国際マクロ経済学（1）		
14	〃 国際マクロ経済学（2）		
15	練習問題の解説等		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 中谷巖 『入門 マクロ経済学 第5版』日本評論社・・・変更の可能性あるので、買うのは第1週の講義の紹介を聞いてからにして下さい。 大竹文夫 『スデイガイド 入門マクロ経済学 第5版』日本評論社、 ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社		
	学びの手立て		
	評価 試験50%、宿題20%、授業への参加姿勢（出席や質問等）30%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性

この授業では次の力・スキルを育成します。①基礎的・専門的知識の習得 ②理論的に考える力 ③現状を分析する力

[/一般講義]

科目基本情報	科目名 マクロ経済学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 木1	単位 2
	担当者 長嶋 佐央里	対象年次 2年	授業に関する問い合わせ オフィスアワー：火曜5限 研究室：9-606 Email：s.nagashima@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「好況や不況はなぜ起きるのか?」「モノ・サービスの物価水準はどのように決まるのか?」「日本の若者の失業率はどのくらいなのか?」この授業では、日ごろ見たり聞いたりする出来事を経済社会全体の視野に立って考えるのに役立つマクロ経済学の基礎理論を学び、その理論をもとに、景気、物価、失業などの経済問題や政府が行う経済政策について、自分で分析できるようにします。	メッセージ マクロ経済学の理論は、経済新聞や経済雑誌、各国政府や国際機関などにおいて議論される際に標準的な分析手法として用いられています。経済学の予備知識がない学生にも分かりやすく説明し、実際の日本経済や国際経済の動向、経済指標を参照しながら、理解を深めていきます。
	到達目標 1. マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を理解することができる。 2. 経済社会現象のしくみや因果関係を理論的に理解することができる。 3. マクロ経済学の専門用語や基礎的な理論を用いて経済社会現象を説明することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・マクロ経済学Ⅰの復習	シラバスを読む
	2	経済政策の有効性①：IS-LM分析における財政政策の効果を学ぶ(テキスト 第7章)	テキスト・配布資料を読む
3	経済政策の有効性②：IS-LM分析における金融政策の効果を学ぶ(テキスト 第7章)	テキスト・配布資料を読む	
4	財政赤字と国債①：なぜ政府の借金が問題となるのか(テキスト 第8章)	テキスト・配布資料を読む	
5	財政赤字と国債②：国債による財源調達には経済にどのような影響を与えるのか(テキスト 第8章)	テキスト・配布資料を読む	
6	インフレとデフレ①：インフレはなぜ生じるのか(テキスト 第9章)	テキスト・配布資料を読む	
7	インフレとデフレ②：インフレのコストとは何か・デフレはなぜ生じるのか(テキスト 第9章)	テキスト・配布資料を読む	
8	マクロ経済における労働市場①：失業はなぜ発生するのか(テキスト 第10章)	テキスト・配布資料を読む	
9	マクロ経済における労働市場②：失業率の変動について考える(テキスト 第10章)	テキスト・配布資料を読む	
10	マクロ経済における労働市場③：日本の失業率の変動について考える(テキスト 第10章)	テキスト・配布資料を読む	
11	経済成長の理論①：経済はなぜ成長するのか(テキスト 第11章)	テキスト・配布資料を読む	
12	経済成長の理論②：経済成長をもたらす要因は何か(テキスト 第11章)	テキスト・配布資料を読む	
13	国際マクロ経済①：国際間の取引をどのようにとらえるのか(テキスト 第12章)	テキスト・配布資料を読む	
14	国際マクロ経済②：為替レートの決定要因は何か・経常収支の決定要因は何か(テキスト 第12章)	テキスト・配布資料を読む	
15	復習・総括	事後学習：後期の内容の復習・総括	
16	期末試験	事前学習：期末試験の準備	
	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】 ・福田慎一・照山博司. 2016年. 『マクロ経済学・入門』第5版. 有斐閣. 【参考文献】 ・福田慎一・照山博司. 2013年. 『演習式 マクロ経済学・入門』補訂版. 有斐閣.		
	学びの手立て 【履修の心構え】 ・授業回数の3分の2の出席に満たない者、期末試験を受けない者は単位を修得することはできません。 【学びを深めるために】 ・日頃から新聞、雑誌、テレビのニュースや報道番組などをみる習慣をつけて、現在の日本や諸外国の経済問題に関心を持ってほしいと思います。 ・時間外学習として、次のことを行ってください。暗記ではなく理解するように心掛けてください。 ○事前学習：授業で扱うテキストの当該部分を読んで、要約、疑問点をまとめる ○事後学習：テキストと配布資料を読んで復習する、テキスト章末の練習問題を解く		
	評価 ・授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提とします。 ・授業内確認テスト、授業の振り返り等の授業での「平常点」50%、「期末試験」50%で評価します。 ・「平常点」「期末試験」のそれぞれにおいて、すべての到達目標を確認します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・マクロ経済学の基礎理論は、「マクロ経済学Ⅰ」と「マクロ経済学Ⅱ」で学修します。この理論は様々な経済問題を考える基礎ツールであり、経済学科の専門科目と関連しています。 ・特に、マクロ経済を分析する際に有用な応用・発展的な事象について学びたい学生は、「応用マクロ経済学」を履修してください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルクス経済学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 資本主義の経済社会の基本的な構成諸要素とそれらの相互関係、資本主義の歴史性と根本矛盾などについて理解できるようになる。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 単純な要素から複雑な上位概念・諸関係へという論理の展開にしたがって、資本主義の根本原理とその歴史的特質とについて理論的に説明できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前にシラバスを読むこと
	2	イントロダクション：基本的知識の確認	事前：教科書を読む，事後：課題
	3	経済学とは何か（第1章，第2章）	事前：教科書を読む，事後：課題
	4	経済学の成立とその体系（第3章，第4章）	事前：教科書を読む，事後：課題
	5	第1章から第4章の復習	事前：教科書を読む，事後：課題
	6	資本主義の基礎概念1：商品（第5章）	事前：教科書を読む，事後：課題
	7	資本主義の基礎概念2：貨幣（第6章）	事前：教科書を読む，事後：課題
	8	資本主義の基礎概念3：資本（第7章）	事前：教科書を読む，事後：課題
9	第5章から第7章の復習	事前：教科書を読む，事後：課題	
10	資本主義の生産1：剰余価値の形成（第8章）	事前：教科書を読む，事後：課題	
11	資本主義の生産2：機械制工業（第9章）	事前：教科書を読む，事後：課題	
12	資本主義の生産3：労働力と賃金（第10章）	事前：教科書を読む，事後：課題	
13	第8章から第10章の復習	事前：教科書を読む，事後：課題	
14	資本主義の流通1：個別資本の流過程（第11章）	事前：教科書を読む，事後：課題	
15	資本主義の流通2：資本主義の再生産（第12章）	事前：教科書を読む，事後：課題	
16	期末試験	全講義の復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：日高 普『経済学 改訂版（岩波全書）』岩波書店，1988年		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては，退室を求めます。		
	評価 複数回の課題50%，複数回の小テスト30%，受講態度20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 マルクス経済学IIの受講を勧めます。
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルクス経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	生垣 琴絵	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 資本主義の経済社会の基本的な構成諸要素とそれらの相互関係、資本主義の歴史性と根本矛盾などについて理解できるようになる。 なお、本講義は、マルクス経済学Ⅰを受講済みであることを前提として進める。	メッセージ 知識の定着だけでなく、考える力を身につけるための授業をテーマ毎にグループ・ワークなどを取り入れながら行う予定です。
	到達目標 単純な要素から複雑な上位概念・諸関係へという論理の展開にしたがって、資本主義の根本原理とその歴史的特質とについて理論的に説明できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：講義の進め方，評価方法等について	事前に教科書を読むこと
	2	イントロダクション：マルクス経済学Ⅰを振り返る	事前に教科書を読むこと
	3	資本主義の分配と運動1：資本と利潤（第13章）	事前に教科書を読むこと
	4	資本主義の分配と運動2：土地と地代（第14章）	事前に教科書を読むこと
	5	資本主義の分配と運動3：信用と利子（第15章）	事前に教科書を読むこと
	6	資本主義の分配と運動4：景気循環（第16章）	事前に教科書を読むこと
	7	第13章から第16章の復習	事前に教科書を読むこと
	8	金融と財政1：金融のしくみと発展（第17章）	事前に教科書を読むこと
	9	金融と財政2：財政のしくみと発展（第18章）	事前に教科書を読むこと
	10	国際経済1：貿易のしくみと発展（第19章）	事前に教科書を読むこと
	11	国際経済2：金本位から管理通貨へ（第20章）	事前に教科書を読むこと
	12	第17章から第20章の復習	事前に教科書を読むこと
	13	マルクスの経済思想	事前に資料を読むこと
	14	マルクスの社会主義思想	事前に資料を読むこと
15	まとめ	全講義の復習	
16	期末試験	全講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書（必携）：日高 普『経済学 改訂版（岩波全書）』岩波書店，1988年		
	学びの手立て 他の受講生の妨げになるような行為（私語・遅刻等）は厳禁とします。場合によっては、退室を求めます。		
	評価 複数回の課題50%，複数回の小テスト30%，受講態度20%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マルクス経済学Ⅰ，経済学史Ⅰ，社会思想史
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア表現	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	浦本 寛史	1年	研究室 (5433) huramoto@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マルチメディアに関する基本的な考え方、基礎的な技術や表現方法を実践的な演習・実習を通して修得し、「情報を伝達する」ということや「イメージと表現」についての理解を得ることをねらいとする。	この科目では教育分野におけるマルチメディアの有効活用・利用について学ぶことが出来、必要な知識と技術を紹介する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マルチメディアの基本的概念について説明ができる 2. 各メディアの特性と制作に必要な技術の基本理論について説明ができる 3. ビジュアルコミュニケーションを通してアイデアを視覚化することができる 4. インストラクショナル・デザインを踏まえ、マルチメディアコミュニケーションの評価手法を身につける 	

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目：メディア・リテラシーの定義(様々なメディア・リテラシーの定義を習得し、自分なりの定義を説明) 2回目：フォトランゲージ (写真を読み取る力をつけ、メディアの特性を習得) 3回目：マルチメディアの定義と特性 (各メディアの特性と利用法を習得し、マルチメディアの定義を説明) 4回目：インターネットの仕組み (インターネットの仕組みを理解し、検索方法、メイリングリスト、ストーリーミング技術を理解) 5回目：マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得) 6回目：マルチメディアの表現法 (様々なマルチメディア教材を紹介し、効果的な表現を習得) 7回目：プレゼンテーション手法 (パソコンを利用して、効果的なプレゼンテーション手法を習得) 8回目：プレゼンテーション手法：上記の続き 9回目：中間試験 10回目：インストラクショナルデザインの原理 (教材開発、メディア開発に必要な設計方法を習得) 11回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き 12回目：インストラクショナルデザインの原理：上記の続き 13回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講 14回目：上記の授業について時間不足が生じた場合補講 15回目：振り返り 16回目：最終試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特に指定はしない。手適宜レジュメを配布する。 インストラクショナルデザインの原理 (鈴木克明監訳：北大路書房)、行動変容法入門 (レイモンドGミルテンバーガー) 他、。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>効果的なマルチメディアの設計、プログラミング、視覚化など、表現に必要な知識と技術に関心を持つこと。</p>
<p>評価</p> <p>授業への出欠、参加姿勢、最終試験などを総合的に判断、評価する。</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>この科目で習得した知識や技術を経済的な視点、例えば商品販売のためのweb作成や広報戦略の技術などをマーケティングや経営学などに繋げる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学A	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	1年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことによつて、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎をしっかりと築くことが目的です</p>	<p>ミクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>ミクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。 消費者行動理論の基礎が理解できる。 企業の行動理論の基礎が理解できる。 需要曲線、供給曲線を使って市場分析ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	テーマ	時間外学習の内容
	回		
	1	講義計画の説明	
2	ミクロ経済学の考え方		テキストのイントロダクション
3	テキストの第1章		
4	消費者と需要 (1)		テキストの第2章 I
5	消費者と需要 (2)		テキストの第2章 II
6	テキストの第5章 I		消費者行動と需要曲線 (2)
7	テキストの第5章 II		消費者行動と需要曲線 (3)
8	テキストの第6章 I		テキストの第6章 I
9	消費者行動と需要曲線 (4)		テキストの第6章 II
10	企業行動と生産関数 (1)		テキストの第7章 I・II
11	企業行動と生産関数 (2)		テキストの第7章 III
12	企業行動と生産関数 (3)		テキストの第7章 IV
13	企業行動と費用曲線 (1)		テキストの第3章 I
14	企業行動と費用曲線 (2)		テキストの第3章 II
15	企業行動と費用曲線 (3)		テキストの第3章 III
16	期末試験		テスト勉強
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・参考文献・資料など *テキスト・・・伊藤元重「ミクロ経済学」日本評論社 参考文献 N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学<1>ミクロ編」東洋経済新報社、 ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。 テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。 欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>		
評価	<p>出席状況とテストを総合的に評価する。 出席・・・10% 期末試験・・・90%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	経済の専門分野において、ミクロ経済学の理論がしっかり理解できる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マイクロ経済学 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マイクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、マイクロ経済学を学ぶことにより、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、マイクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。</p>	<p>マイクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>マイクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。 消費者行動理論の基礎が理解できる。 企業の行動理論の基礎が理解できる。 企業の行動理論の基礎が理解できる。 需要曲線、供給曲線を使って市場分析ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
2	マイクロ経済学の考え方	テキストのイントロダクション	
3	市場と需要・供給	テキストの第1章	
4	消費者と需要 (1)	テキストの第2章 I	
5	消費者と需要 (2)	テキストの第2章 II	
6	消費者行動と需要曲線 (1)	テキストの第5章 I	
7	消費者行動と需要曲線 (2)	テキストの第5章 II	
8	消費者行動と需要曲線 (3)	テキストの第6章 I	
9	消費者行動と需要曲線 (4)	テキストの第6章 II	
10	企業行動と生産関数 (1)	テキストの第7章 I・II	
11	企業行動と生産関数 (2)	テキストの第7章 III	
12	企業行動と生産関数 (3)	テキストの第7章 IV	
13	企業行動と費用曲線 (1)	テキストの第3章 I	
14	企業行動と費用曲線 (2)	テキストの第3章 II	
15	企業行動と費用曲線 (3)	テキストの第3章 III	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・伊藤元重「マイクロ経済学」日本評論社 参考文献 N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学<1>マイクロ編」東洋経済新報社、 ハル・R. ヴァリアン「入門マイクロ経済学」勤草書房</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。 テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。 欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>		
評価	<p>出席状況とテストを総合的に評価する。 出席・・・10% 期末試験・・・90%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経済の専門分野において、マイクロ経済学の理論がしっかり理解できる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ミクロ経済学Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	2年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ミクロ経済学は、需要行動や供給行動の背景にある経済主体の合理的選択について考察します。また、ミクロ経済学を学ぶことにより、さまざまな現実の経済問題をより深く理解できるようになります。本講義では、ミクロ経済の基礎理論をしっかりと学び、経済的視点で現実の経済現象を見ることができるよう理論的基礎を築くことが目的です。</p>	<p>ミクロ経済学の入門であるので、できるだけ分かりやすく教える。数式はあまり使わないが、ある程度の数学的知識が必要なので高校で学ぶ数学はきちんと復習しておいてほしい。</p>
到達目標	<p>ミクロ経済学で使われる重要用語が理解できる。 独占市場と完全競争市場の理論が理解できる。 ゲームの理論が理解できる。 市場の失敗について、現実経済に当てはめて考えることができる。 不完全情報の経済について、現実経済に当てはめて考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	前期の復習
	2	独占の理論 (1)	テキストの第9章Ⅰ
	3	独占の理論 (2)	テキストの第9章Ⅱ
	4	独占の理論 (3)	テキストの第9章Ⅲ
	5	ゲームの理論 (1)	テキストの第10章Ⅰ
	6	ゲームの理論 (2)	テキストの第10章Ⅱ
	7	ゲームの理論 (3)	テキストの第10章Ⅲ
8	市場の失敗 (1)	テキストの第11章Ⅰ	
9	市場の失敗 (2)	テキストの第11章Ⅱ	
10	市場の失敗 (3)	テキストの第11章Ⅲ	
11	不完全競争の経済学 (1)	テキストの第13章Ⅰ	
12	不完全競争の経済学 (2)	テキストの第13章Ⅱ	
13	不完全競争の経済学 (3)	テキストの第13章Ⅲ	
14	異時点間の資源配分 (1)	テキストの第14章Ⅰ・Ⅱ	
15	異時点間の資源配分 (2)	テキストの第14章Ⅳ・Ⅴ	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト・参考文献・資料など テキスト・・・伊藤元重「ミクロ経済学」日本評論社 参考文献 N. グレゴリーマンキュー「マンキュー経済学<1>ミクロ編」東洋経済新報社、 ハル・R. ヴァリアン「入門ミクロ経済学」勤草書房</p>		
学びの手立て	<p>毎回の講義の積み重ねが重要であるので、出席は重視する。 テキストに基づいて講義を進めるので、必ず指定されたテキストを購入すること。 欠席が5回以上となると、自動的に不可とする。そのため、病欠ややむを得ず欠席する場合は、公欠届を提出すること。</p>		
評価	<p>出席状況とレポートおよびテストを総合的に評価する。 出席・・・10% 期末試験・・・90%</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	経済の専門分野において、ミクロ経済学の理論がしっかり理解できる。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	理論経済学 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい マクロ経済学やミクロ経済学の標準的な経済理論（新古典派経済学）はかなり極端な前提の上に構築されたものです。これらは現実の写実的な描写というよりはむしろ象徴的なモニュメントと見るべきでしょう。最先端の経済学が情報の不完全性、リスク、計画、環境問題、市場の進化、協力と社会的統合、貧富の格差等の現実をどのように見ているのか、数学をまったく使わずに解説します。マクロ	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明	
	2	序章 市場の勝利	
	3	第I部 経済システムの構造 第1章 市場と制度	
	4	第2章 生産と交換	
	5	第3章 配分	
	6	第4章 中央による計画化	
	7	第5章 多元主義	
8	第6章 自然発生的な秩序		
9	第II部 市場についての真実 第7章 新古典派経済学とその後		
10	第8章 合理性と適応性		
11	第9章 情報		
12	第10章 現実のリスク		
13	第11章 協力		
14	第12章 調整		
15	第11章 知識経済		
16	補足 信頼と組織、雇用と文化		
	テキスト・参考文献・資料など ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社 荒井一博『信頼と自由』勁草書房 荒井一博『文化・組織・制度』有斐閣		
	学びの手立て		
	評価 レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	理論経済学Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	湧上 敦夫	3年		

学びの準備	ねらい 理論経済学Ⅰに引き続き、テキストの残りの章を説明した後に、関連する問題…主としてマクロ経済学や国際経済学の問題…を採り上げます。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	講義の紹介：講義計画・注意事項・評価方法等を説明
	2	第Ⅲ部 市場はどのように動いたか 第14章 貧しい国は貧しいままに
	3	第15章 誰が何を得るのか
	4	第16章 場所
	5	第17章 アメリカン・ビジネス・モデル第
	6	第18章 経済学の将来
	7	補足1 「冷戦の勝利」と「歴史の終わり」、ワシントン・コンセンサスとグローバリズム
	8	補足2 新自由主義・市場万能主義とアメリカ社会の2極分解
9	補足3 グローバリゼーションと南北問題、途上国の分解、制度・社会・文化の画一化	
10	補足4 グローバリゼーションと先進国の労働市場、北欧と日本	
11	補足5 「資本主義対資本主義」	
12	補足6 ドル覇権と金融帝国主義、世界金融危機と世界不況、国際通貨体制の動揺	
13	補足7 バブルとデフレ	
14	補足8 新古典派とケインズの経済学	
15	補足9 財政危機の克服と金融システム再編成	
16	補足10 日本型資本主義の再評価と進化のために	
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など ジョン・ケイ『市場の真実』中央経済社 小林由美『超・格差社会アメリカの真実』日経BP/J・E・ステイグリッツ『世界に格差をバラ撒いたグローバリズムを正す』徳間書店/T・フリードマン『フラット化する世界(上、下)』日本経済新聞社	
	学びの手立て	
	評価 レポート60%、授業への積極性(出席や質問等)40%	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	労働経済学 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>沖縄県の失業率・離職率は、全国一高い水準となっており、高校・大学卒業予定者の内定率も全国に比べ低い。このような環境は、いずれ就職戦線に出る皆さんにも身近な問題である。本講義では、労働市場を形成する労働供給及び労働需要の要因について学ぶ。すなわち、我々は何を基準に働こうとするのか、企業は何を基準に労働者を雇おうとするのかなど労働経済の基礎理論を学ぶ。</p>	<p>アルバイトや就活など労働・雇用は皆さんにとって身近な問題であるので、理論だけではなく、現実のトピックも多く取り上げていきたい。また、映像資料等により、労働の実態についても考える機会を与える。また、失業については映画鑑賞を行い、一緒に考える。</p>
到達目標	<p>労働市場における重要側・供給側の行動理論を説明することができる。 失業の定義及び発生要因を説明することができる。 年功賃金制度や労働時間の実態が分かる。 労働の実態について関心を深め、データなどで実証的に分析することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	労働経済学について	身近な労働問題について考える
	3	労働需要(1) 企業はどのようにして労働者を雇うのか	ミクロ経済の供給理論の復習
	4	労働需要(2) 労働供給曲線を導く	同上
	5	労働供給(1) 労働者は何をもとに労働力を提供するのか	ミクロ経済の需要理論の復習
	6	労働供給(2) 労働の供給曲線を導く	同上
	7	労働市場分析(1) 労働の需要曲線と供給曲線を用いた分析	労働市場の環境変化を考える
	8	労働市場分析(2) 人手不足になると給料は上がるのか	労働市場の環境変化を考える
	9	失業Ⅰなぜ失業は発生するのか(失業の理論)	失業の影響を考える
	10	失業Ⅱどんな人が失業しているのか(失業をテーマにした映画鑑賞など)	同上
	11	賃金Ⅰ(年功序列賃金の理論)	賃金制度について調べる
	12	賃金Ⅱ(年功序列賃金制度と成果主義の比較)	同上
	13	労働時間Ⅰ(労働時間の推移、諸外国との比較など)	労働時間について調べる
14	労働時間Ⅱ(残業代の理論)	同上	
15	前期総括と労働について考える	復習と実際の労働問題について	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストはない。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映、労働をテーマにした映画上映等を行う。 参考文献： 清家篤著、「労働経済」東洋経済出版社、玄田有史 「仕事のなかの曖昧な不安」中央公論新社、 中馬宏之著、「労働経済学」新世社</p>		
学びの手立て	<p>ほぼ毎回、講義内容の理解度をチェックするので、講義は集中して聞きノートも取ること。 5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 できるだけ双方向の講義となるように、グループディスカッションもあるので、受け身的な受講ではなく積極的に発言するなど、能動的な受講態度を望む。</p>		
評価	<p>出席状況とレポート及び試験を総合的に評価する レポート・・・30% 試験・・・70%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>労働経済の基礎理論を踏まえ、現実の労働問題について考える。 就活やインターンシップで労働経済で学んだ理論等を当てはめて客観的に考える。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	労働経済学Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	名嘉座 元一	3年	nakaza@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、労働経済学Ⅰで学んだ基礎理論をもとに沖縄県の雇用労働情勢や雇用政策等の現実の問題について学ぶ。特に、フリーターや若年失業者問題は学生諸君にとって身近な問題であり、若年者の意識の問題や企業側の問題についてビデオ等による具体例を見ながら検討する。また、正社員と非正社員の処遇を巡る問題、ブラック企業の問題、男女間賃金格差についても学ぶ。</p>	<p>アルバイトや就活など労働・雇用は皆さんにとって身近な問題であるので、理論だけではなく、現実のトピックも多く取り上げていきたい。また、映像資料等により、労働の実態についても考える機会を与える。沖縄大生のアルバイトの実態や就活の取り組みの状況など、皆さんの関心の高いトピックも提供し、一緒に考える。</p>
到達目標	<p>賃金格差や労働処遇の問題について批判的に考えることができる。 若者の雇用問題の要因を説明することができる。 就活で講義内容を踏まえ、積極的かつ効果的に行動することができる。 労働を取り巻く環境の変化について、自ら考え対応を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義計画の説明	
	2	現在の労働問題概観（景気と労働問題、若者の働き方、派遣の問題など）	労働問題の現状について考える
	3	賃金と労働時間	前期の賃金と労働時間の理論の復習
	4	賃金格差Ⅰ（高卒と大卒なぜ賃金が違うのか）	高卒、大卒賃金の実態を調べる
	5	賃金格差Ⅱ（なぜ男女格差、産業間格差があるのか）	賃金格差の実態を調べる
	6	全国と沖縄の雇用・失業状況	若者の雇用問題の特徴を考える
	7	若者の雇用問題Ⅰ（大卒の就職率、フリーターなどの現状）	非正規雇用問題を考える
	8	若者の雇用問題Ⅱ（若者の就業意識、企業はフリーターをどう評価しているかなど）	自らの就業意識を考える
	9	沖縄の雇用問題Ⅰ（現状と課題）	沖縄と全国の違いを考える
	10	沖縄の雇用問題Ⅱ（沖縄の若者はなぜすぐ離職するのか、沖縄にブラック企業はあるかなど）	離職の要因を考える
	11	グローバル時代における働き方Ⅰ（海外に仕事が行く、労働移民の実態など）	グローバル化と雇用について考える
	12	グローバル時代における働き方Ⅱ（日本と外国どっちが働きやすいのかなど）	同上
	13	高齢者雇用問題（定年制、年金問題、再雇用の問題など）	高齢者の雇用について調べる
14	年金について考える（年金機構が派遣する外部講師による講義）	年金問題の実態などについて調べる	
15	これからの働き方（ワークシェアリング、ワークライフバランスなど）	自分の働き方と合わせて考える	
16	期末試験	テスト勉強	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは特になし。内容に応じてプリントや資料配布、ビデオ上映等を行う。 参考文献： 橋本俊詔、「いま、働くということ」ミネルヴァ書房 玄田有史、「ニートフリーターでもなく失業者でもなく」幻冬舎 川村遼平、「若者を殺し続けるブラック企業の構造」角川oneテーマ21</p>		
学びの手立て	<p>ほぼ毎回、講義内容の理解度をチェックするので、講義は集中して聞きノートも取ること。 5回以上欠席すると、自動的に不可とする。 できるだけ双方向の講義となるように、グループディスカッションもあるので、受け身的な受講ではなく積極的に発言するなど、能動的な受講態度を望む。</p>		
評価	出席状況とレポート及びテストを総合的に評価する		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>労働経済の基礎理論を踏まえ、現実の労働問題について考える。 講義内容や議論したことを踏まえ、働くことについて考え就活等で積極的に行動する。</p>
-------	---